

令和 8 年度 ぐんま学園体育館改修建築工事

建 築 工 事					
図面番号	図 面 名	縮 尺 (A1)	図面番号	図 面 名	縮 尺 (A1)
A - 特 1	改修工事総括特記仕様書	No Scale	A - 016	断面詳細図 2 (改修前)	S=1/ 20
A - 特 2	改修工事特記仕様書 1	No Scale	A - 017	断面詳細図 2 (改修後)	S=1/ 20
A - 特 3	改修工事特記仕様書 2	No Scale	A - 018	展開図 1 (改修前)	S=1/50
A - 特 4	改修工事特記仕様書 3	No Scale	A - 019	展開図 1 (改修後)	S=1/50
A - 特 5	改修工事特記仕様書 4	No Scale	A - 020	展開図 2 (改修前)	S=1/50
A - 特 6	改修工事特記仕様書 5	No Scale	A - 021	展開図 2 (改修後)	S=1/50
A - 特 7	改修工事特記仕様書 6	No Scale	A - 022	キープラン・建具表	S=1/50
A - 001	配置図・案内図	S=1/500	A - 023	建具詳細図	S=1/5, 50
A - 002	仕上表	No Scale	A - 024	台車詳細図 (参考図)	S=1/25
A - 003	1階平面図 (改修前)	S=1/50	A - 025	体育器具図 1	S=1/100
A - 004	1階平面図 (改修後)	S=1/50	A - 026	体育器具図 2	S=1/100
A - 005	1階上部平面図 (改修前)	S=1/50	A - 027	体育器具図 3	S=1/100
A - 006	1階上部平面図 (改修後)	S=1/50	A - 028	部分詳細図 1	S=1/2
A - 007	屋根伏図 (改修前)	S=1/50	A - 029	部分詳細図 2	S=1/2
A - 008	屋根伏図 (改修後)	S=1/50	A - 030	部分詳細図 3	S=1/3
A - 009	床伏せ図 (改修前)	S=1/30, 50	A - 031	南側外階段詳細図	S=1/ 20
A - 010	床伏せ図 (改修後)	S=1/30, 50	A - 032	西側外階段詳細図	S=1/ 20
A - 011	床詳細図	S=1/10, 100	A - 033	構造詳細図	S=1/20, 30
A - 012	立面図 (改修前)	S=1/100	A - 034	仮設計画図 (参考図)	S=1/150, 200
A - 013	立面図 (改修後)	S=1/100	A - 035	外壁調査図 (参考図)	S=1/100
A - 014	断面詳細図 1 (改修前)	S=1/ 20			
A - 015	断面詳細図 1 (改修後)	S=1/ 20			

改修工事総括特記仕様書

I. 工事概要

1. 工事名

令和8年度ぐんま学園体育館改修建築工事

2. 工事場所

前橋市川原町 地内

3. 工期

着工 令和 年 月 日 完成期限 令和 年 月 日

部分完成

完成期限 令和 年 月 日
指定部分 ()

4. 工事種目

5. 敷地面積

6. 地域指定

・ 第二種低層住居専用地域 ・ 第一種中高層住居専用地域 ・ 第二種中高層住居専用地域
・ 第一種住居地域 ・ 第二種住居地域 ・ 準住居地域
・ 地域指定無し
・ 防火地域 ・ 準防火地域

7. 適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
○風圧力 風速 (V0= 30 m/s) 地表面粗度区分 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)
○積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 (24)

8. 建物概要

建 物 名 称	構造	階 数	延床面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備 考
1		F (B F, PH F)			
2		F (B F, PH F)			
3		F (B F, PH F)			
4		F (B F, PH F)			
5		F (B F, PH F)			

II. 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書 (令和4年版)」 (以下「改修標準仕様書」という。) による。

(2) 図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書 (令和4年版)」 (以下「標準仕様書」という。) による。

(3) 工事写真は、最新版の「営繕工事写真撮影要領による工事写真撮影ガイドブック」による。

2. 本特記仕様書の表記

(1) 項目は、○ 印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項に選択肢がある場合は、○ 印の付いたものを適用する。
○ 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○ 印と※ 印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 標準仕様書又は改修標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・品質性能検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令 (条例を含む) の改正等にこれらに抵触する場合には関係法令等の遵守 (1.1.13) の規定を優先する。

章 項 目

特記事項

○ 技能士

技能士を配置する工事
工事種目 技能検定職種 技能検定作業
仮設工事 とび ○ とび作業
防水改修工事 防水施工 ・ フォール防水工事作業 ・ ウレタン系塗膜防水工事作業
・ フリール系塗膜防水工事作業
・ 合成ゴムシート防水工事作業
・ 塩化ビニルシート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業
・ シーリング防水工事作業
・ 改質アスファルトシートーーチ工法防水工事作業
・ FRP防水工事作業
建築板金 ・ 内外装板金作業
外壁改修工事 樹脂接着剤 注入施工 ○ 樹脂接着剤注入工事作業
左官 ○ 左官作業
タイル張り ・ タイル張り作業
建具改修工事 サッシ施工 ・ ビル用サッシ施工作業
ガラス施工 ・ ガラス工事作業
自動ドア施工 ・ 自動ドア施工作業
内装改修工事 建築大工 ○ 大工工事作業
内装仕上施工 ○ 鋼製下地工事作業
建築板金 ○ 内外装板金作業
内装仕上施工 ○ フラマナ系床仕上げ工事作業 ・ カベナ系床仕上げ作業
・ ガーデン仕上げ工事作業
表装 ・ 壁装作業
左官 ○ 左官作業
タイル張り ・ タイル張り作業
塗装改修工事 塗装 ○ 建築塗装作業
耐震改修工事 鉄筋組立作業 ○ 鉄筋組立作業
型枠施工 ○ 型枠工事作業
コンクリート圧送施工 ○ コンクリート圧送工事作業
鉄工 ○ 構造物鉄工作業
とび ・ とび作業
環境配慮改修工事 配管 ・ 建築配管作業
路面表示施工 ・ 溶融ペイント舗装工事作業
・ 加熱ペイントシマコ工事作業
造園 ・ 造園工事作業
建築設備改修工事 配管 ・ 建築配管作業
建築板金 ・ ダクト板金作業
熱絶縁 ・ 保温保冷工事作業
空気調和機器 ・ 冷凍空気調和機器施工

○ 環境への配慮

1) 国等による環境物品等の調達推進等に関する法律に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」による特定調達物品の場合は、判断の基準を満たすものとする。
2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するとともに次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑性 (フタル酸ジエーノープチル及びフタル酸ジエーニエチルヘキシル等を含有しない難燃発性の可塑性剤を除く) が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないが、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。
2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料とする。
①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

○ 材料の品質等

1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
3) 改修標準仕様書及び標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
4) 本工事に使用する材料のうち、5) に指定する材料、機材の製造業者等は、次の①から⑥の事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等があったことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されたものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。
①品質及び性能に関する試験データを整備していること。
②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③安定的な供給が可能であること。
④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。なお、システムとして機能するものにあつては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。
5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料、機材
※ [品質・性能・試験その1] [同その2] に記載する材料 ・ 図示 ()
※ 別表一による機材

○ 耐震施工

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」 (監修：独立行政法人建築研究所) による。
1) 設計用水平地震力
機器の重量 [kN] に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。
設計用標準水平震度
設置場所 機器種別 ・ 特定の施設 ※ 一般の施設
重要機器 一般機器 重要機器 一般機器
上層階、屋上及び塔屋 機器 2.0 1.5 1.5 1.0
防振支持の機器 2.0 2.0 2.0 1.5
水槽類 2.0 1.5 1.5 1.0
中 間 階 機器 1.5 1.0 1.0 0.6
防振支持の機器 1.5 1.5 1.5 1.0
水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6
地階・1階 機器 1.0 0.6 0.6 0.4
防振支持の機器 1.0 1.0 1.0 0.6
水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6
重要機器類
・ 配電盤 ・ 発電装置 ・ 直流電源装置 ・ 中央監視装置
・ 交換機 ・ 火災報知受信機 ・ 交流無停電電源装置 ・ 監視制御設備
・ 火を使用する設備 ・ 危険物貯蔵装置 ・ 防炎機器
・ 給水機器 ・ 排水機器 ・ 避難経路上に設置する機器
・ 空調機器 ・ 換気機器 ・ 熱源機器
上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
2) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

章 項 目

特記事項

※ 特定工事

特定工事とは、その工事の不備が原因で直接人命に危険を及ぼす恐れのある工事であり、次のとおりとする。
防火区画部分の穴埋め、縦穴区画等防災的に重要な部分の施工 (防火区画、114条区画、燃料用ガス配管工事、その他これらに類する工事で監督職員の指定する工事又は工事部分
特定工事の施工
a) 施工に当たっては、あらかじめ入念に施工計画をたて、当該工事の施工に直接従事する業員等関係者の指導監督に特に留意するほか、施工管理責任者を定めて、工事完了後に施工状況を確認する。
b) 工事ごとに設計図書に指定された試験、検査、確認等を完全に実施して安全確認をした特定工事施工報告書を監督職員に提出し、承諾を受ける。
○ 室内空気中の化学物質の濃度測定
施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、測定結果を監督職員に報告する。
測定対象室及び測定箇所数 ※ 図示による
着工前の測定 ・ 行う
○ 官公署への手続きその他
○ 設計図書
○ 完成時の提出図書
本工事で作成する施工図等のうち、下記のものを監督職員に提出する。
なお、施工図等の著作権に関わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
建築工事等
※ 別途配布する提出基準による
・ 鉄筋配筋図 (納まり図含む)
・ コンクリート躯体図
・ 鉄骨製作図
・ カーテンウォール製作図
電気設備工事及び機械設備工事 (昇降機設備含む)
※ 別途配布する提出基準による
・ 機器製作図
・ 制御システム図
・ 試験成績書
・ 機器・配管固定の施工図
○ 完成写真
工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。
撮影部位及び箇所数 形式・サイズ 提出枚数 画素数、画質等
○ 外部 () 箇所 ・ カラー印刷紙キャビネット版 ※2 1280×960ピクセル
○ 内部 () 箇所 ・ A4アルバム綴じ ・ 以上、かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質
※1: 撮影者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者
・ 監督職員事務所
・ 設ける
・ 構内に新設する。 (規模及び仕上げの程度は現場説明書による。)
・ 既存建物内の一部を使用する。
※ 設けない
○ 工事用仮設物
構内につくることが○ できる ・ できない
○ 工事用電力、水
本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用は全て受注者の負担とする。

2 仮設工事

○ 足場その他
○ 材料、搬出材等の運搬方法
○ 養生部分の養生
○ 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・ 図示による
1) 養生の方法等
○ 既存部分 養生の方法 (※ビニルシート等 ・)
・ 既存家具、既存設備等 養生の方法 (※ビニルシート等 ・)
・ 既存ブラインド、カーテン等 養生の方法 (※ビニルシート等 ・)
・ 保管場所 (※図示による ・)
・ 備品、机、ロッカー等の移動 (※図示による ・)
2) 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
・ 仮設間仕切り
1) 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ・ 図示による
種 別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 塗 装 充填材
・ A種 ・ 木 ・ セットボード (9.5mm) ・ 無し ・ グラスウール32k
・ 軽量鉄骨 ・ 合板 (9mm) ・ 片面 厚さ50mm以上 ※無し
・ B種 ・
※ C種 単管 防災シート
2) 仮設間仕切りに設ける仮設扉の材質等
材質 仕上げ 塗 装 充填材
※木製 ※合板張り程度 ・ 無し ・ グラスウール32k
・ 厚さ50mm以上 ※無し
・ ・ 片面

特記事項

12.04.01改訂

管理建築士 一般建築士 (大臣) 登録271638号 立川 貴 株式会社 勝山工務所 群馬県事務所登録第 65 号 勝山一般建築士事務所

設計者 株式会社 勝山工務所 山崎 千昌 一般建築士 (大臣) 登録 第316486号 担当建築士 株式会社 勝山工務所 山崎 千昌 一般建築士 (大臣) 登録 第316486号

図面名 改修工事総括特記仕様書 縮尺 A1 No Scale 設計年月 2026年 3月 訂正年月 図面番号 A・特1

建築改修工事特記仕様書

1 工 事 名 令和8年度ぐんま学園体育館改修建築工事

3

防水改修工事

・ 施工数量調査

調査範囲、調査方法
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
調査報告書

・ 図示による
・ 図示による
・ 2部

[1.5.2～3]

○ 降雨等に対する養生方法（とい共）

※改修標準仕様書3.1.3(e)(1)～(3)による。
・

[3.1.3]

・ 既存防水の処理

既存保護層の撤去
・ 行う（範囲・図示による）
・ 行わない
既存防水層の撤去
・ 行う（範囲・図示による）
・ 行わない
露出防水層表面の仕上げ塗装除去
・ 行う（・ M4AS・M4ASI・M4C・M4DI・L4X）
・ 行わない

[3.2.3,4,6]

・ 既存防水層の下地補修

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等
POS工法及びPOSI工法（機械式固定方法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置
※改修標準仕様書3.2.6(d)(3)(vi)①～③による
・

[3.2.6]

・ アスファルト防水

屋根保護防水 防水層の種類

[3.3.2～5]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材	G	絶縁用シート	立上り部の保護
・ P2A	・ A-1 ・ A-2 ・ A-3				※ リフレクフォーム厚さ 0.15mm以上	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え ・ れんが押え
・ P1B	・ B-1 ※ B-2 ・ B-3					
・ P2AI	・ AI-1 ※ AI-2 ・ AI-3		(材質)※JIS A 9521Iによる押出法製「リフレフォーム断熱3種bA（タテ層付き）又はJIS A 9511IによるA種押出法製「リフレフォーム保温材の保温板3種b（スチあり）」 ・		※ フォットンクス70g/㎡程度 ・	
・ P1BI	・ BI-1					
・ T1BI	※ BI-2 ・ BI-3					
			(厚さ)・25mm	・		

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9Iによる
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9Iによる
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※水下 80mm以上
床タイル張り ※水下 60mm以上

・ 乾式保護材
窯業系パネル： 無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形したオートクレープ養生したものの金属複合板： 金属板と樹脂を積層一体化したもの。

分類・規格	・窯業系ハ Ⅱ I類 (寒冷地仕様)	・窯業系ハ Ⅱ II類 (一般地仕様)	・金属複合板
寸法 (mm)	厚さ		
	幅		

《乾式保護材の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その1]による》

屋根露出防水
防水層の種類

工 法	種 別	施工箇所	断熱材	G	仕上塗料		高日射反射率防水の適用G	備考
				種類	使用量			
・ M4C	・ C-1 ※C-2 ・ C-3 ・ C-4				・ 製造所指定による	・ 製造所指定による		
・ M3D ・ POD	・ D-1 ※D-2 ・ D-3 ・ D-4				・ 製造所指定による	・ 製造所指定による		脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
・ PODI ・ M3DI ・ M4DI	・ DI-1 ※DI-2		(材質) ※JIS A 9521Iによる硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511IによるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの		・ 製造所指定による	・ 製造所指定による		脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
			(厚さ)・25mm	・				

脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類製造所指定による
・ 脱気装置の種類： ・ 設置数量： 個/㎡
屋根露出防水水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトイレ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示による

項 目

特記事項

・ 改質アスファルトシート防水

屋内防水

工 法	種 別	施工箇所	備考
・ P1E	・ E-1		保護層 ・ 設ける
・ P2E	※ E-2		・ 設けない

押え金物の材質及び形状寸法
※アルミニウム製 L=30×15×2.0mm程度
・

屋根排水溝 ※図示による
・

防水層の種類

[3.4.2、3]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材 [G]	仕上塗料		高日射反 射率防水 の適用[G]	備 考
				種類	使用量		
・ M4AS	・ AS-T1			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・	
	・ AS-T2						
	・ AS-J3						
・ M3AS	・ AS-T3			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	・ AS-T4						
	・ AS-J2						
	・ AS-J4						
・ POAS	・ AS-T3			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	・ AS-T4						
	・ AS-J2						
	・ AS-J4						
・ M3ASI ・ M4ASI ・ POASI	・ ASI-T1		(材質) ※JIS A 9521による 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号若しくは2号で 透湿係数を除く規格 に適合するもの又は JIS A 9511による A種硬質ウレタンフォーム 保温材の保温板2種1号 若しくは2号で透湿 係数を除く規格に適 合するもの ・ (厚さ) ・ 25mm ・	・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない
	・ ASI-J1						

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による

脱気装置の種類及び設置数量

※改質アスファルトシート製造所の指定による

・ 脱気装置の種類： ・ 設置数量： 個/㎡

押え金物 ※改質アスファルト製造所の仕様による

・ 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種類

[3.5.2～4] [表3.5.1～3]

工 法	種 別	施工箇所	断熱材 [G]	仕上塗料		高日射反 射率防水 の適用[G]	備 考
				種類	使用量		
・ POS ・ S4S	・ S-F1			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・ ・ ・ ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-F2						
	・ S-M1						
	・ S-M2						
	・ S-M3						
・ S3S	・ S-F1			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・ ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-F2						
・ M4S	・ S-M1			・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・ ・ ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-M2						
	・ S-M3						
・ POSI ・ S3SI ・ S4SI ・ M4SI	・ SI-F1		(材質) ※改修標準仕様書 3.5.2(C)(3)(i)による ・ (厚さ) ・ 25mm	・ 製造所の 指定に よる	・ 製造所の 指定に よる	・ ・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
	・ SI-F2						
	・ SI-M1						
	・ SI-M2						

・ 脱気装置
・ 設ける
・ 設けない
改修用ドレン
・ 設ける
・ 設けない

章

項 目

屋内防水

防水層の種類

種 別	施工箇所	保護層			立上がり部の 保護モルタル 塗り厚さ
		平場のモルタル塗り			
		塗り厚さ	・ 床塗り工法	・ 下地モルタル 塗り	
・ S-C1	・		※改修標準仕様書 6.15.6(b)(2)及び (3)に準ずる ・	※改修標準仕様書 6.15.6(c)(1)に準 ずる ・	※ 7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ

ルーフィングシートの種類及び厚さ ※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
絶縁用シートの材質 ※免治ポリエチレンシート
固定金具の材質及び寸法形状
※厚さ0.4mm以上で防錆処理した鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を
積層加工した鋼板

脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシート製造所の指定による
・ 脱気装置の種類： ・ 設置数量： 個/㎡

既存防水下地がPCコンクリート部材及びALCパネル下地で種別S-C1の場合の目地処理
※行う（工法）
・ 行わない

PCコンクリート部材の入隅部の増張り（種別 S-F1、SI-F1、S-C1の場合）
※行う（工法）
・ 行わない

ALCパネル下地の入隅部の増張り（種別 S-C1の場合）
※行う（工法）
・ 行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

○ 塗膜防水

[3.6.2、3]

工 法	種 別	施工箇所	仕上塗料 種 類	使用量	高日射反 射率防水 の適用 ^G	備 考
・ POX	※ X-1 ・ X-2 ・	・	・ 製造所の 指定による	・ 製造所の 指定による	・	脱気装置 ・ 設ける 改修用ドレン ・ 設けない ・ 設ける ・ 設けない
○ L4X	・ X-1 ※ X-2 ・	・	・ 製造所の 指定による	・ 製造所の 指定による	・	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
・ PIY	※ Y-2 ・					保護層 ・ 設ける ・ 設けない
・ P2Y	※ Y-2 ・					保護層 ・ 設ける ・ 設けない

脱気装置の種類及び設置数量 ※主材料製造所の指定による
・ 脱気装置の種類： ・ 設置数量： 個/㎡

○ シーリング

シーリング改修工法の種類
・ シーリング充填工法
・ 拡幅シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法
○ シーリング再充填工法
ボンドプレーカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書表3.7.1による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

シーリング材の目地寸法
※改修標準仕様書3.7.3(a)(1)～(3)による

○ と い

との材質 ※ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管 ・
ルーフドレン

[3.8.2.3]

種 別	施工箇所
・ ろく屋根用（ ・ 縦型 ・ 横型 ）	
・ バルコニー用	
・ バルコニー中継用	

ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※図示による
・ 鋼管製といの防露巻き ※改修標準仕様書表3.8.5による
・ たてどい受金物の取付け ※図示による
・ ルーフドレンの取付け
※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

・ アルミニウム製
笠木

[3.9.2、3]

種 類
・ オープン形式（ ・ 250形 ・ 300形 ・ 350形 ・ 100形 ）
・ 板材折曲げ形（ ・ オープン式 ・ シール式）
（本体幅： mm 板厚：※2.0mm mm）

表面処理 種別（ ）種 皮膜等の種類（※標準仕様書表14.2.1による ・ ）
着色（ ・ アンバー ・ ブロンス ・ ブラック系 ・ ステンカラー）

既存笠木等の撤去 ※行う（範囲 ・ 図示による ・ ） ・ 行わない

下地補修の工法 ※図示による ・

板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示による ・

笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

4

外壁改修工事
(共通事項)

○ 施工数量調査

調査範囲
調査内容

※ 外壁改修範囲
・ 図示の範囲
ひび割れの幅および長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の有無を調査する。
モルタル塗仕上及びタイル張り仕上については浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上については、コンクリート又はモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法
調査報告書の部数

※ 2部
・

・ 可とう性エポキシ樹脂
[4.2.2]
・ パテ状エポキシ樹脂
[4.2.2]
・ 珪砂樹脂
[4.2.2]
・ ポリマーセメント
モルタル [4.2.2]
・ ポリマーセメント
スラリー
[4.2.2]

・ 既製調合モルタル

(可とう性エポキシ樹脂の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その1]による)
(パテ状エポキシ樹脂の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その1]による)
(エポキシ樹脂モルタルの品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・試験その1]による)
(ポリマーセメントモルタルの性能は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その1]による)

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (取縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm ²)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm ²)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm ²)
3 以上	3 以下	0.5 以上	5.0 以上	15 以下	0.5 以上

保水係数 0.35 ~ 0.55 粘着係数 0.50 ~ 1.00

モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材 [4.2.2]
混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(既製調合モルタルの品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その1]による)

4-1

外壁改修工事
(コンクリート打放し仕上げ外壁改修)

・ ひび割れ部改修工法

・ 欠損部改修工法

・ 樹脂注入工法
[4.1.4][4.2.2][4.3.4~6]

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	・ 130 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50~100	・ 40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100~200	・ 70 ・
	0.5以上1.0以下	・ 150~250	・ 130 ・

エポキシ樹脂 ・ 低粘度形 ・ 中粘度形
コア採取り検査 ・ 行う (採取り部の補修方法:)
※ 行わない
採取り部数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・
採取り部の補修方法 ※ 図示による ・
・ Uカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
ポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
・ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
・ パテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂

※ 充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7]
・ エポキシ樹脂モルタル
・ ポリマーセメントモルタル

4-2

外壁(モルタル塗り仕上げ外壁改修)

・ 既存モルタル塗りの撤去

○ ひび割れ部改修工法

○ 欠損部改修工法

・ 行う (※全面 ・ 図示の範囲)

○ 樹脂注入工法
[4.2.2][4.4.5~7]

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	・ 130 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・ 50~100	・ 40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・ 100~200	・ 70 ・
	0.5以上1.0以下	・ 150~250	・ 130 ・

エポキシ樹脂 ・ 低粘度形 ・ 中粘度形
コア採取り検査 ・ 行う ※ 行わない
採取り部数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ・
採取り部の補修方法 ※ 図示による ・
・ Uカットシール材充填工法
・ シーリング材
充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
ポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
・ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
・ パテ状エポキシ樹脂
・ 可とう性エポキシ樹脂

○ 充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.4.8.9]
○ エポキシ樹脂モルタル
・ ポリマーセメントモルタル
・ モルタル塗替え工法
既製目地材 ・ 使用する (形状)
仕上げ厚又は全塗り厚が 25mm を超える場合の処置 ※ 図示による ・

[illegible]

章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項
5	・ ガラス	複層ガラス 品 種 断熱性 日射熱遮へい性 断熱複層ガラス ・ 1 種 U1 ・ 2 種 U2 ・ 3 種 U-3-1 U-3-2 日射熱遮へい複層ガラス ・ 4 種 E4 ・ 5 種 E5 熱線反射ガラス 品 種 日射遮へい性 耐久性 熱線反射ガラス ・ 1 種 A種 色 調 (・ ブルー ・ グレー) ・ 2 種 ・ A種 ・ B種 高性能熱線反射ガラス 色 調 (・ ブロンズ ・ シルバー) ・ 3 種 B種 反射被膜面 ※ 内面 ・ 外面 映像調整 ※ 行わない ・ 行う 倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ・ フロート倍強度ガラス — 熱線吸収倍強度ガラス ・ グレー ・ ブルー ・ ブロンズ ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレージングチャンネル形 ※ 改修標準仕様書表5.13.1による ・ 図示 ・ 銅製及び銅鍍軽量 ※ シーリング材 ※ 改修標準仕様書表5.13.1による ・ 図示 ・ ステンレス製 ※ シーリング材 ※ 改修標準仕様書表5.13.1による ・ 図示 ・	6	内装改修工事	「製材の日本農林規格」による広葉樹製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 等級 形状 含水率 間伐材等の適用 ※1等 ・ ※10%以下 ・ A種 ・ B種 ・ ※1等 ・ ※10%以下 ・ A種 ・ B種 ・ ※1等 ・ ※10%以下 ・ A種 ・ B種 ・ 「製材の日本農林規格」以外の製材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 材面の品質 防虫処理 難燃処理 含水率 間伐材等の適用 () ・ 適用する ・ 適用しない ※A種 ・ B種 ・ () ・ 適用する ・ 適用しない ※A種 ・ B種 ・ () ・ 適用する ・ 適用しない ※A種 ・ B種 ・ ・ 代用樹種を使用できない箇所 () ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ 「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 施工箇所 化粧薄板 芯材 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 見付け材面の品質 間伐材等の適用 ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ 「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材 施工箇所 化粧薄板 芯材 寸法 (mm) 化粧薄板の厚さ (mm) 間伐材等の適用 ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ ※1等 ・ 2等 ・ 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 施工箇所 樹種 寸法 (mm) 見付け材面の品質 含水率 間伐材等の適用 ※15%以下 ・ ・ ※15%以下 ・ ・ ※15%以下 ・ ・	6	内装改修工事	表面形状 呼び寸法 (mm) 厚 さ (mm) 色 調 クリア 乳白 目地幅 (mm) 平積み 曲面積み 伸縮調整 目地 (mm) 防火性能 ・ 正方形 ・ 125×125 80 ・ ・ ※ 8～15 外側 ※ 15以下 毎に 10～25 ・ 図示 ・ 160×160 ・ 95 ・ 125 ・ ・ ・ 15～25 ・ ・ 200×200 ・ 95 ・ 125 ・ ・ ・ ・ 320×320 95 ・ ・ ・ ・ 長方形 ・ 250×125 80 ・ ・ ※ 6以上 ・ ・ 320×160 95 ・ ・ ・

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。

壁用金属枠及び補強材

・ 設ける (形状 ※ 図示 ・)

※ 設けない

カ 骨

材 質

※ステンレス鋼 (SUS304)

・

寸 法

※径5.5mm

・

形 状

※はしご形状横筋及び単筋

・

化粧目地モルタルの色 ()

金属製化粧カバー

材 質

・ ステンレス製 ・ アルミニウム製

寸 法

※図示による

・

形 状

※図示による

・

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧に対応した工法)

・ 適用しない

※ガラスブロック製造所の仕様による

・ 図示

・

 6 | 内装改修工事 | 名称 種類 張り面 性能値 ・ ガラス飛散防止フィルム GS ※ 内張り ・ 外張り 飛散防止率D1 ・ 日射調整フィルム ※ 断熱フィルム (3M LOW-E70同等品) 品質 JIS A 5759による | 6 | 内装改修工事 | 改修範囲 既存間仕壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○ 図示による 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○ 図示による 天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※ 既存のまま ○ 図示による ビニル床シート等の除去 ※ 仕上げ材のみ (接着剤とも) ・ 下地モルタルとも (・ 図示の範囲 ※ 撤去範囲全て) 合成樹脂塗床材の除去工法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法 コンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外装改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※ 改修箇所の室内 ・ 図示による | 6 | 内装改修工事 | |

6

内装改修工事

・フローリング張り

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外
接着工法の場合の裏面緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
現場塗装仕上 ・ 行う (施工箇所)
※ ウレタン樹脂ワニス塗り
・ オイルステインの上、ワックス塗り ・ 生地のままワックス塗り ※行わない

・ 畳敷き
[6.12.2]

・ せっこうボード
その他のボード及び合板張り

・ 壁紙張り

7

塗装改修工事

・ モルタル塗り

吸水性調整材は、改修工事標準仕様書表4.2.2.2による。 [6.15.3.6]
既製目地材 ・ 設ける 施工箇所 () 形状 (※図示 ・)
※設けない
床目地 ・ 設ける (工法 ※押し目地 ・) ※設けない
・ 防水剤
(防水剤の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書〔品質・性能・試験その2〕)

・ タイル張り
[6.16.2~4]

・ セルフレベリング
材塗り

7

塗装改修工事

○ 材 料

○ 下地調整

○ 錆止め塗料塗り

6.14.2~3

ホルムアルデヒド放散量 ※ 規制対象外

施工箇所

壁紙の種類

紙

繊維

プラスチック

無機質

その他

防火種別

備 考

・ 壁紙張り

7

塗装改修工事

○ 塗装

7.4.2~7.15.2

○ 塗装

・ 既存部分の処理等

8

耐震改修工事 共通事項

○ 適用範囲

・ 既存部分の処理等

8-1

鉄筋工事

○ 鉄筋

・ 溶接金網

○ 鉄筋の継手

8-1

鉄筋工事

○ 鉄筋の定着の方法及び長さ

鉄筋の定着長さ

最小かぶり厚さ

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

○ 無し

・ 有り 適用箇所 ()

主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する

軽量コンクリートで土に接する部分

○ 無し

・ 有り 適用箇所 ()

・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm

耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等)

○ 無し

・ 有り 適用箇所 ()

・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm

鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く)

※ 図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1)

・ 機械式継手

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

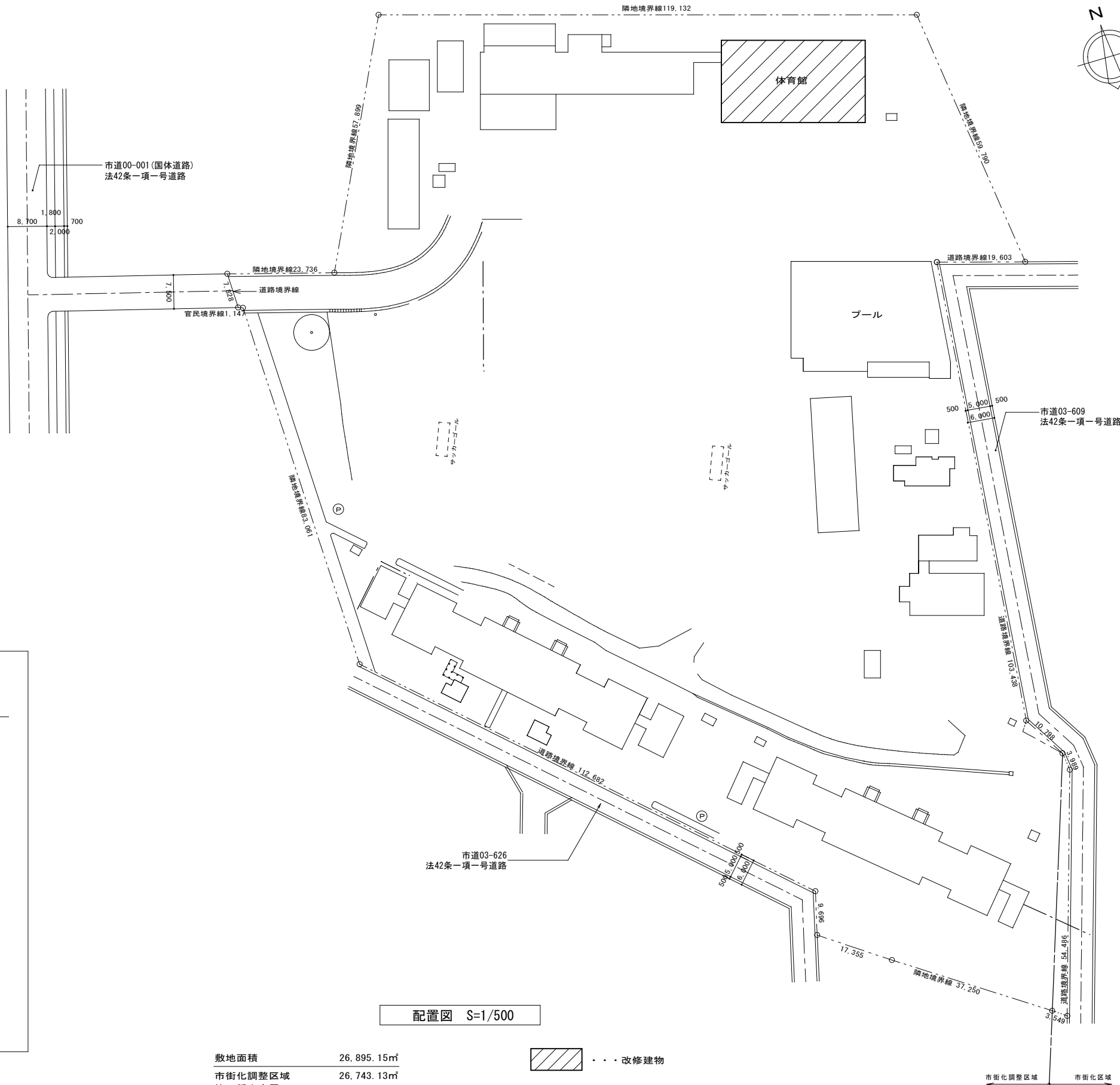
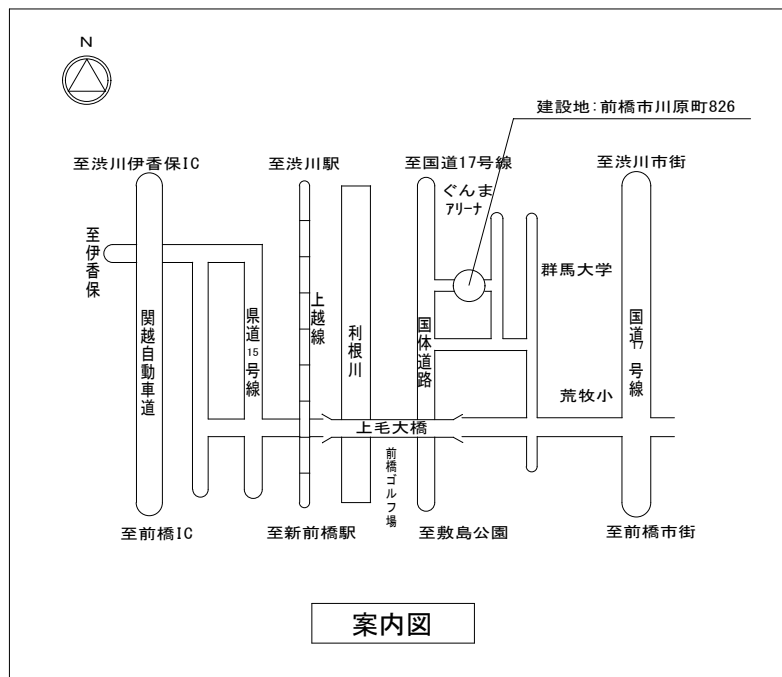
・ 溶接継手
[8.3.5][8.4.3]

使用箇所 ※図示による ()

特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項		特記事項																																																						
8-2	・ マスコンクリート	[6. 2. 1][6. 13. 1～6. 13. 2]	8-3	○ 鉄骨製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 [8. 1. 5] (7. 1. 1) ※ 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構 (旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(R)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ 監督職員の承諾する工場(標準仕様書7. 1. 1 以外の適用範囲に限る) ※ 適用する ・ 適用しない [8. 1. 5] 材質等 [8. 2. 8] <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所 (主要な部分)</th><th>規格</th></tr><tr><td>○ SS400</td><td>取付用受け材</td><td>※ JIS規格による ・</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td>※ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※ JIS規格による ・</td></tr></table>	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格	○ SS400	取付用受け材	※ JIS規格による ・	・		※ JIS規格による ・			※ JIS規格による ・			※ JIS規格による ・			※ JIS規格による ・	8-3	○ 溶接技能者の技量付加試験	溶接作業者の技量付加試験 [8. 15. 3] ※行わない ・ 行う 試験の要領 ※図示による() ・ 開先の形状 ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2) ・ スカラップの形状 ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4) ・ エンドタブの切断する部分 [8. 15. 7] ・ 見え掛り部となる部分 ※図示による() ・ ・ 見え隠れ部となる部分 ※図示による() ・ ・ 切除する部分なし 溶接部の余盛り高さ ・ JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3 [溶接] による ・ 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4) ・ 適用箇所 ※図示による() ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 ・ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8. 15. 11] ・ 工場溶接の場合 ※全数 ・ 工事現場溶接の場合 ※全数 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査②	○ 穿孔孔の埋込み配管等の探査	探査方法 [8. 12. 2] ・ 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・ はつり出しによる ・ ○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																			
種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格																																																														
○ SS400	取付用受け材	※ JIS規格による ・																																																														
・		※ JIS規格による ・																																																														
		※ JIS規格による ・																																																														
		※ JIS規格による ・																																																														
		※ JIS規格による ・																																																														
・ 無筋コンクリート	[8. 11. 1] 設計基準強度 ※18 (N/mm2) ・ スランプ ※15cm又は18cm ・ セメントの種類 [8. 2. 5] ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種 ・ 高炉セメントB種 [G] ・ フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所 [6. 14. 1] ※標準仕様書6. 14. 1 (e)による箇所 ・ 図示による()	○ 鋼材	[8. 2. 8] 種類	・ 入熱、バス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4) ・ 適用箇所 ※図示による() ・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部 ・ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8. 15. 11] ・ 工場溶接の場合 ※全数 ・ 工事現場溶接の場合 ※全数 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査②	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
・ 流動化コンクリート	[6. 2. 1][6. 15. 1] 適用箇所 ・ 図示による() ・	○ 鋼材	[8. 2. 8] 種類	・ 溶接部の試験	・ 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 [8. 15. 11] ・ 工場溶接の場合 ※全数 ・ 工事現場溶接の場合 ※全数 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・ 抜き取り検査① ※抜き取り検査②	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
○ ひび割れ誘発目地、打継目地	[6. 6. 3][6. 8. 2][9. 7. 3] 目地寸法 ・ 標準仕様書9. 7. 3による ・ 間隔・位置・形状 ・ 図示による() ・	・ 普通ボルト	[7. 2. 3] ボルト及びナットの種類 ・ 標準仕様書表7. 2. 3 (JIS附属書品) による ・ 標準仕様書表7. 2. 3 (JIS附属書品) 又はJIS本体規格品 (ISO規格品) による (JIS本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルト、強度区分を4. 6又は4. 8の鋼製とし、ナットの種類を六角ナットーCの鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルト径の値以下とする。) ・ 座金 ・ 標準仕様書7. 2. 3 (d) による ・ ボルトの径 ※図示による() ・ ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8. 1. 6] [8. 13. 2] ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1繰端距離及びボルト間隔 ・	・ 耐火被覆	[8. 18. 2～8. 18. 7] <table><tr><th>種類</th><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>性能 (耐火時間)</th><th>適用箇所 (部位・部分)</th></tr><tr><td rowspan="5">・ 耐火材吹付け</td><td>・ 乾式吹付け</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ロックウール</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 半乾式吹付け</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ ロックウール</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 湿式ロックウール</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="3">・ 耐火板張り</td><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 繊維混入けい酸カルシウム版</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ 耐火材巻付け</td><td>・ 高断熱ロックウール</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・ ラス張りモルタル塗り</td><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする	種類	種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付け				・ ロックウール				・ 半乾式吹付け				・ ロックウール				・ 湿式ロックウール				・ 耐火板張り	・				・ 繊維混入けい酸カルシウム版				・				・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール				・				・ ラス張りモルタル塗り	・				・				○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・
種類	種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																												
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付け																																																															
	・ ロックウール																																																															
	・ 半乾式吹付け																																																															
	・ ロックウール																																																															
	・ 湿式ロックウール																																																															
・ 耐火板張り	・																																																															
	・ 繊維混入けい酸カルシウム版																																																															
	・																																																															
・ 耐火材巻付け	・ 高断熱ロックウール																																																															
	・																																																															
・ ラス張りモルタル塗り	・																																																															
	・																																																															
○コンクリートの仕上り	[8. 1. 4][8. 2. 7] 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ <table><tr><th>種別</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ A種</td><td></td></tr><tr><td>○ B種</td><td></td></tr><tr><td>・ C種</td><td></td></tr></table>	種別	適用箇所	・ A種		○ B種		・ C種		・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト	[8. 2. 9] セツトの種類 ・ 1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ※図示による() ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・ 大臣認定を受けた内容による ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8. 13. 2] ※図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-1繰端距離及びボルト間隔 摩擦面の処理 [8. 20. 4] ・ プラスト処理 (表面粗度50 μmRz以上) ・ プラスト処理以外の特別な処理方法 ※図示による() ・ すべり耐力等の確認方法 ※すべり係数試験 試験方法等 ※図示による() ・	・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																	
種別	適用箇所																																																															
・ A種																																																																
○ B種																																																																
・ C種																																																																
・ 打増し厚さ(打放し仕上げ部)	[8. 7. 8] ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・ 20mm ・ ・ 打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・ 10mm ・ 20mm ・	・ アンカーボルト	[7. 2. 4][7. 10. 3] 適用 ・ 構造用アンカーボルト セツトの種類 (JIS B 1220) ・ ABR400 ・ ABR490 形状、寸法 ※図示による() ・ ・ 建方用アンカーボルト 種類 ・ SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7. 2. 3による 形状、寸法 ※図示による() ・ ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [7. 3. 2] ・ 図示による() ・	・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
○ 型枠	(6. 8. 3) [8. 2. 7] せき板の材料及び厚さ ○ 合板 (※12mm () [G] (但し、グリーン購入法基本方針における「合板型枠」の備考3の表示にある合板型枠を用いる場合に限り) ・ 断熱材の兼用 ※ 行わない ・ 行う M C R 工法用シート ・ 用いる 打増し厚さ ・ 20mm ・ 打増し範囲 ・ 図示による() ・ ※ 用いない スリーブの材種 ※改修標準仕様書8. 2. 7 (f) (2) (i) 又は(ii)による ・			・ 溶融亜鉛めっき(主要構造部及びその他構造耐力上主要な部分に限る)	[8. 2. 10] 溶接材料 ※改修標準仕様書8. 2. 10 (a) (b) による ・ 図示による() ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
○ 型枠の加工及び組立	[8. 7. 8] シアコネクタをセパレーターとして使用 適用箇所 ・ 図示による() ・			・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
○ コンクリートの打込み工法等	[8. 21. 8][8. 23. 5] 部位毎のコンクリート打設工法の指定 <table><tr><th>補 強 工 法</th><th>打 設 工 法</th><th>部 位</th></tr><tr><td rowspan="4">・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事</td><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td>・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td>・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td>・</td><td>・ 図示による() ・</td></tr><tr><td rowspan="3">・ 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法</td><td>・ 工法指定なし</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td>・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td>・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)</td><td>・ 全ての増設壁 ・ 図示による()</td></tr><tr><td rowspan="4">○ その他</td><td>○ 工法指定なし</td><td></td></tr><tr><td>・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)</td><td></td></tr><tr><td>・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr></table>	補 強 工 法	打 設 工 法	部 位	・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	・	・ 図示による() ・	・ 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()	○ その他	○ 工法指定なし		・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)		・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)		・		○ 溶接材料	[8. 2. 10] 溶接材料 ※改修標準仕様書8. 2. 10 (a) (b) による ・ 図示による() ・	・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																													
補 強 工 法	打 設 工 法	部 位																																																														
・ 現場打ちコンクリート壁の増設工事	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
	・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
	・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
	・	・ 図示による() ・																																																														
・ 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
	・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
	・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)	・ 全ての増設壁 ・ 図示による()																																																														
○ その他	○ 工法指定なし																																																															
	・ 流込み工法 8. 19. 8 (a) (1) . (b)																																																															
	・ 圧入工法 8. 19. 8 (a) (2) . (c)																																																															
	・																																																															
鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等	[8. 23. 6] 柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ 柱頭柱脚の隙間寸法 ※ 図示による() ・ 既存柱外周部あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ ※ 図示による() ・	○ 製作精度	[8. 13. 3] ※改修標準仕様書8. 13. 3及びH12建告第1464号第二号イによる H12建告第1464号第二号イ (1) (2) のただし書きによる補強は、「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による	・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									
○ 鉄骨の仮組	[8. 13. 10] ※ 行わない ・ 行う 仮組を行う範囲 ※図示による() ・ 確認方法、確認項目 ※図示による() ・			・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ	[8. 20. 9] ※ 図示による ・	○ 施工確認試験	試験方法 ※引張試験 ・ 確認強度 ※図示による() ・																																																									

特記事項 12.04.01改訂	K A T S U Y A M A KATSUYAMA ARCHITECTS-ENGINEERS OFFICE=KINDLY AND EARNEST OFFICE	平371-0037群馬県前橋市上小出町2-39-12 TEL:027-231-3590 FAX:027-234-8561	工 事 名 令和8年度ぐんま学園体育館改修建築工事	設 計 者 株式会社 勝山工務所 山崎 千昌 一級建築士(大臣)登録 第316486号	製 図 図面番号 改修工事特記仕様書5	縮 尺 A1 No Scale A3 No Scale	設計年月 2026年 3月	訂正年月	担当建築士 株式会社 勝山工務所 山崎 千昌 一級建築士(大臣)登録 第316486号	製 図 図面番号 A ・ 特6
	管理建築士 一級建築士(大臣)登録271638号 立川 貴	株式会社 勝山工務所 群馬県事務所登録第 65 号 勝山一級建築士事務所								

章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項	章	項 目	特記事項
8-8 基礎工事	● 埋戻し及び盛り土	埋戻し及び盛り土の種類 ・ A種 適用場所 () ● B種 適用場所 () ・ C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・ D種 (細粒分 (75μm以下) の含有率 (重量百分率) の上限を50%未満とする。 適用場所 () ・	9 環境配慮改修工事	・ アスベスト含有建材の処理工事	施工調査 [9. 1. 1. 3～5] ※アスベスト含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によりアスベストを含有している 吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、監督職員に報告する。 調査範囲 (・ 全て ※図示) 貸与資料 () ・ 分析によるアスベスト含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アノソフィライト、クリンタイル、クロソライト、トレモライト 分析方法 材 料 名 定 性 分 析 (JIS A 1481-2) 定 量 分 析 (JIS A 1481-3) ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 ※図示による アスベスト粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点 (各処理作業室ごと) ・ 測定1 処理作業前 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定2 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定3 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定4 仕上り口・入口 ・ () 点 ・ 測定5 集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) ・ () 点 測定6 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定7 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定8 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定9 処理作業室後部 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定10 撤去後1週間以降 調査対象室外部の付近 ・ () 点 測定方法 測定5のみ ※バ・チ・カ・ン・粉じん相対濃度計 (デジタル粉じん計)、繊維状粒子自動計測器 (9744A7型モニター) 等、排気の粉じん濃度を迅速に計測できる機器にて測定 測定5以外は次表による 測定3 測定1, 2, 4, 6, 7, 8 測定9, 10 メンブレンフィルタ直径 (mm) 25 25 ・ 試料の吸引流量 (L/min) ・ 1 ・ 5 ・ ・ 試料の吸引時間 (min) ・ 5 ・ 120 ・ ・	12.04.01改訂		
	・ 山留めの存置	存置範囲 (※図示) [8. 28. 3]		・ 断熱777防水改修工事	改修特記仕様書3章による [9. 2. 1～3]			
	・ 杭地業	支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端位置含む) ・ 図示による () 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 ・ 図示による () [8. 2. 14] [8. 28. 4] ・ 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・ 図示による () [8. 28. 4] ・ 杭の継手の箇所数、材料、工法等 ・ 図示による () [8. 2. 14] ・ 杭の溶接継手 [8. 28. 4] 技能資格者の技量 ・ 図示による () 溶接部の確認 ・ 図示による () ・ 杭頭の処理 [8. 28. 4] ・ 処理しない ・ 処理する 処理方法 (切断に伴う補強方法含む) ・ 図示による () ・ 杭頭の中詰め材料 [4. 3. 7] ・ 基礎のコンクリートと同調合のもの 杭の精度 [8. 28. 4] 水平方法の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 ・ 1/100以内 記録する施工状況等 [8. 28. 4] ・ 図示による ()		・ 外断熱改修工事 [G]	断熱材 [9. 3. 2～4] 断熱材の種類 断熱材の厚さ (mm) 施工箇所 ※図示による ・ ホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・			
	○ 砂利地業	材料 [8. 2. 14] ○ 再生クラッシャーラン [G] ・ 切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※ 60mm ・ 120mm ○ 150mm		・ ガラス改修工事	複層ガラス [9. 4. 2] 品 類 断熱性 日射熱遮へい性 厚 さ ・ 断熱複層ガラス ・ 1 種 U1 ・ 図示 ・ 2 種 U2 ・ ・ 3 種 ・ U-3-1 ・ U-3-2 ・ ・			
9 環境配慮改修工事	○ 捨てコンクリート地業	捨てコンクリートの厚さ [8. 28. 4] ※ 50mm 設計基準強度 [8. 11. 1] ※ 18 N/mm2 スランプ [8. 11. 1] ※ 15cm又は18cm		・ 断熱・防露改修工事 [G]	断熱材のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・ [9. 5. 2～3] ・ 断熱材打込み工法 品 類 厚 さ (mm) ・ ビーズ法® リスレンフォーム断熱材 ・ 押出法® リスレンフォーム断熱材 (スキニングなし) ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ フェノールフォーム断熱材 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材 ※ 押出法® リスレンフォーム保温材 (スキニングなし) ・ 保温板 (2種 b) ・ 25 ・ ・ 保温板 (3種 b) ・ 25 ・ ・ ・ A種硬質ウレタンフォーム保温材 ・ フェノールフォーム保温材 (3種2号を除く) ・ ・ 施工箇所 ※図示による ・ ・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1 ・ B種1 厚 さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・ 施工箇所 ※図示による ・ (現場発泡断熱材の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その2]による) ・ 屋上緑化改修工事 [G] 植栽基盤及び材料 [9. 6. 1. 2, 3] 屋上緑化軽量システム ・ 適用する ※適用しない 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示による ・ 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示による ・ (屋上緑化軽量システムの品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その2]による) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・ 適用しない かん水装置 ・ 設置する (種類 ・ ・) 既存保護層の撤去 ※行う ・ 行わない			
	○ 砂利地業	材料 [8. 2. 14] ○ 再生クラッシャーラン [G] ・ 切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※ 60mm ・ 120mm ○ 150mm		・ ガラス改修工事	複層ガラス [9. 4. 2] 品 類 断熱性 日射熱遮へい性 厚 さ ・ 断熱複層ガラス ・ 1 種 U1 ・ 図示 ・ 2 種 U2 ・ ・ 3 種 ・ U-3-1 ・ U-3-2 ・ ・			
	○ 捨てコンクリート地業	捨てコンクリートの厚さ [8. 28. 4] ※ 50mm 設計基準強度 [8. 11. 1] ※ 18 N/mm2 スランプ [8. 11. 1] ※ 15cm又は18cm		・ 断熱・防露改修工事 [G]	断熱材のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外 ・ [9. 5. 2～3] ・ 断熱材打込み工法 品 類 厚 さ (mm) ・ ビーズ法® リスレンフォーム断熱材 ・ 押出法® リスレンフォーム断熱材 (スキニングなし) ・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 ・ フェノールフォーム断熱材 ・ ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材 ※ 押出法® リスレンフォーム保温材 (スキニングなし) ・ 保温板 (2種 b) ・ 25 ・ ・ 保温板 (3種 b) ・ 25 ・ ・ ・ A種硬質ウレタンフォーム保温材 ・ フェノールフォーム保温材 (3種2号を除く) ・ ・ 施工箇所 ※図示による ・ ・ 断熱材現場発泡工法 断熱材の種類 ※A種1 ・ B種1 厚 さ (mm) ・ 25 ・ 30 ・ 施工箇所 ※図示による ・ (現場発泡断熱材の品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その2]による) ・ 屋上緑化改修工事 [G] 植栽基盤及び材料 [9. 6. 1. 2, 3] 屋上緑化軽量システム ・ 適用する ※適用しない 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示による ・ 見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示による ・ (屋上緑化軽量システムの品質・性能・試験方法は、建築改修工事特記仕様書[品質・性能・試験その2]による) 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法) ・ 適用しない かん水装置 ・ 設置する (種類 ・ ・) 既存保護層の撤去 ※行う ・ 行わない			
9 環境配慮改修工事	・ アスベスト含有建材の処理工事	施工調査 [9. 1. 1. 3～5] ※アスベスト含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によりアスベストを含有している 吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、監督職員に報告する。 調査範囲 (・ 全て ※図示) 貸与資料 () ・ 分析によるアスベスト含有建材の調査 分析対象 アクチノライト、アモサイト、アノソフィライト、クリンタイル、クロソライト、トレモライト 分析方法 材 料 名 定 性 分 析 (JIS A 1481-2) 定 量 分 析 (JIS A 1481-3) ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () ・ 箇所数 () サンプル数 1箇所あたり3サンプル 採取箇所 ※図示による アスベスト粉じん濃度測定 測定時期、場所及び測定点 適用 測定名称 測定時期 測定場所 測定点 (各処理作業室ごと) ・ 測定1 処理作業前 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定2 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定3 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定4 仕上り口・入口 ・ () 点 ・ 測定5 集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) ・ () 点 測定6 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定7 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定8 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 4方向各1点 ・ () 点 ・ 測定9 処理作業室後部 処理作業室内 ・ () 点 ・ 測定10 撤去後1週間以降 調査対象室外部の付近 ・ () 点 測定方法 測定5のみ ※バ・チ・カ・ン・粉じん相対濃度計 (						



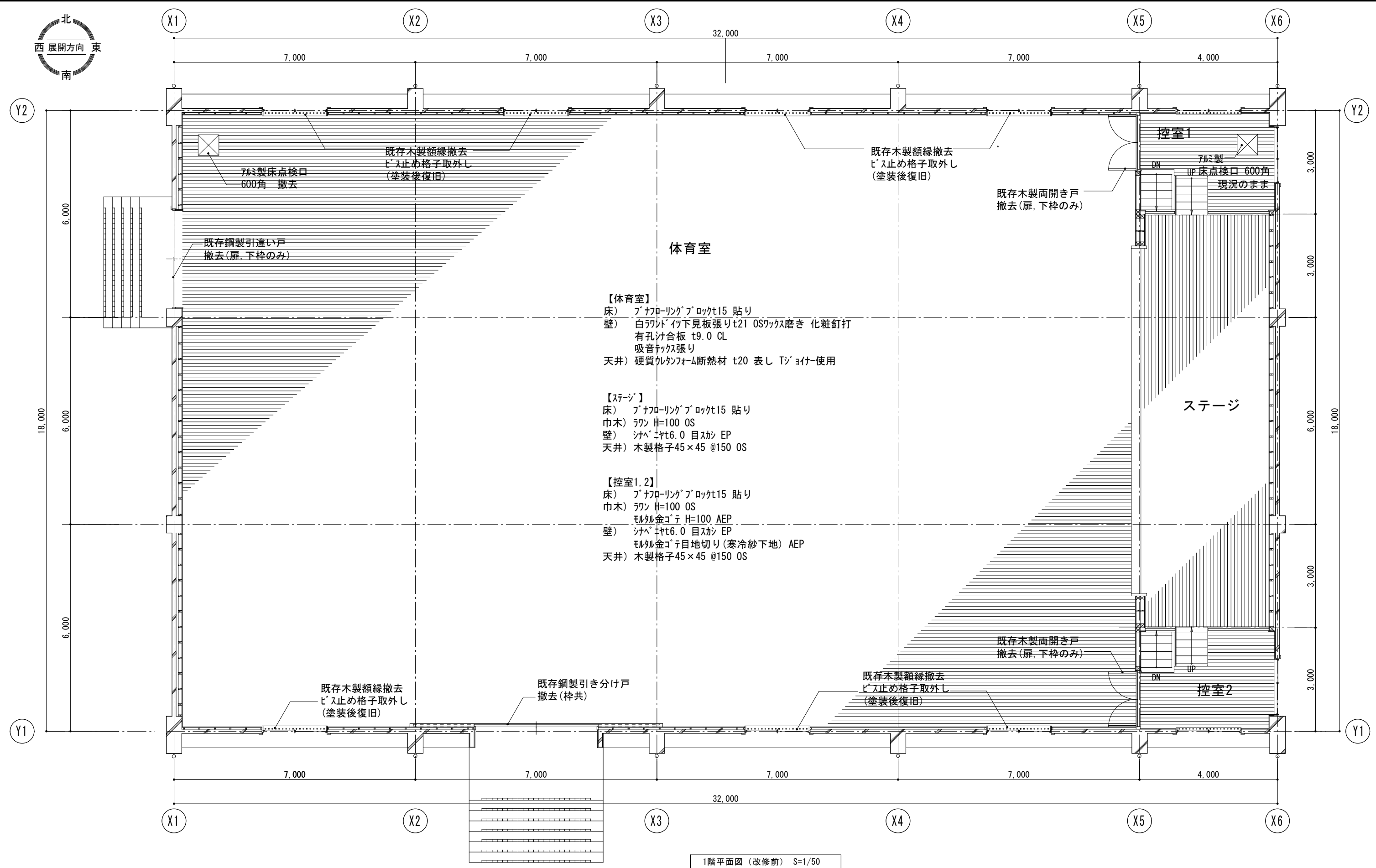
敷地面積	26,895.15㎡
市街化調整区域	26,743.13㎡
第一種中高層 住居専用地域	152.02㎡

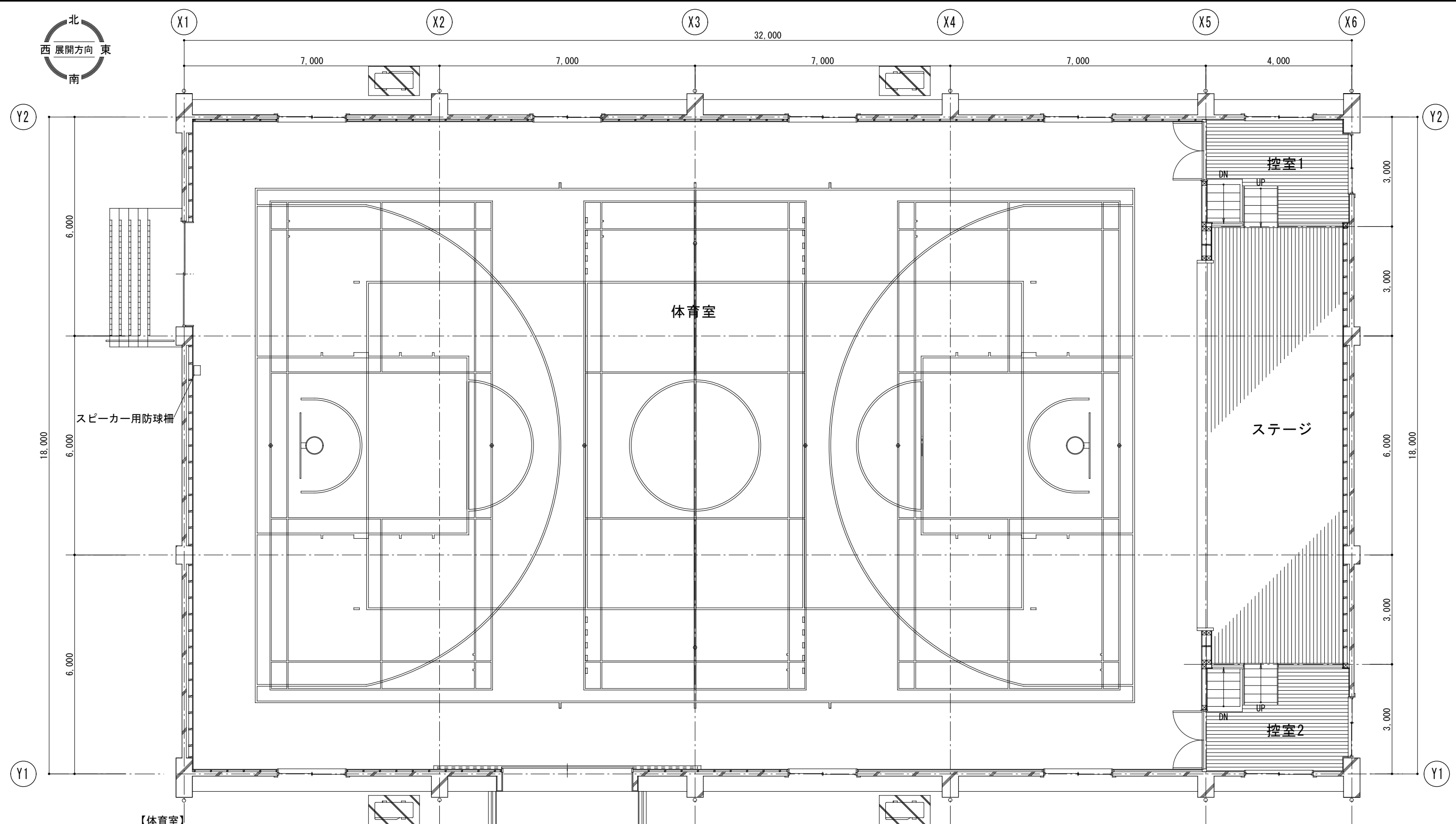
・・・改修建物

工 事 概 要 書	
施 設 名 称	ぐんま学園体育館
敷 地 位 置	前橋市川原町 地内
構 造 ・ 規 模	鉄骨造平屋建て 床面積 576㎡

外 部 仕 上 表													
場 所 ・ 部 位		N0	使用材料 及び 工法				場 所 ・ 部 位		N0	使用材料 及び 工法			
屋 根	1	改修前	屋根：アスファルト-フィング 22kg/地下 着色アルミ亜鉛合金メッキ鋼板 t0.5 (かぶせ工法) 笠木：着色アルミ亜鉛合金メッキ鋼板加工 t0.5 雪止め：L-65×65×5 溶融亜鉛メッキ				樋	5	改修前	軒樋：表面処理鋼板 t=1.6加工 200×150 ユレタン樹脂塗装 ドレン：A100 縦樋：塩ビ製φ100 UE			
		改修後	屋根：既存金属屋根面 高圧洗浄のうえ 高弾性厚膜アクリルゴム系塗膜防水材塗装 笠木：既存アルミ笠木撤去 アルミ笠木 新設 雪止め：既存L-65×65×5 溶融亜鉛メッキ 下地調整のうえ DP塗装						改修後	軒樋：既存軒樋(支持金物共)撤去 耐酸被服鋼板 t0.4 W300×H250新設 支持金物(亜鉛メッキ FB-3×32@600)共 ドレン：既存ドレン撤去 自在ドレン100A 新設 縦樋：既存塩ビ製φ100撤去 カラーVPφ100新設			
軒 裏	2	改修前	ベニヤ型枠コンクリート打放し 複層塗材E				庇	6	改修前	庇：モルタル防水			
		改修後	既存軒裏部 高圧洗浄のうえ外装薄複層塗材E クラック部：自動式低圧注入 樹脂注入工法						改修後	庇：既存モルタル防水部 高圧洗浄後 ユレタン塗膜防水			
外 壁	3	改修前	外壁1)カラーサイディング 張り 外壁2)ベニヤ型板打放し アクリルシリコン吹付 外壁3)モルタル刷毛引きアクリルシリコン吹付(軒裏共通) 外壁4)モルタル金ゴテAEP 巾木：モルタル刷毛引き 通気口：クラング 金網 OP				階 段	7	改修前	床：モルタル金ゴテ、磁器質ノズリッポタイル、踏面・蹴上：モルタル金ゴテ			
		改修後	外壁1)既存サイディングへ防水シート張りのうえ窯業サイディング t16重ね張り(金属胴縁共)、換気扇取付用開口あけ 外壁2)既存外壁面高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E クラック部：自動式低圧注入 樹脂注入工法 外壁3)既存軒裏部 高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E クラック部：自動式低圧注入 樹脂注入工法 外壁4)既存仕上り面 高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E 巾木：クラック補修のうえモルタル金ゴテ補修 通気口：クラング 金網 OP 現況のまま						改修前	支持材：H鋼材 OP 屋根：折板葺き 山高150			
	4	改修前	建具1)アルミサッシ 建具2)スチールサッシ				渡 り 廊 下	8	改修後	支持材：既存H鋼材OP 現況のまま 屋根：既存折板葺き 現況のまま			
		改修後	建具1)既存アルミサッシ 一部 現況のまま、一部 ガラスへ断熱シート貼り 建具2)既存スチールサッシ撤去・新設										

内 部 仕 上 表																
階 数	室 名	N0	床		巾 木		N0	壁		N0	天 井		廻 縁	天 井 高	N0	備 考
1	体育室	改修前	ブナフローリングフロケット15貼り 東90×90@900、東石300×300×H100 ローソク基礎、体育器具基礎(上端600角-下端800角 H1400) 軸組(軸組(大引90×90@900、根太60×40@360、 根太掛90×45、貫90×18)		改修前	—		改修前	白ラワンディック下見板張り t21 OSワックス磨き 化粧釘打 有孔合板t9.0 CL 吸音ワックス張り		改修前	硬質ウレタンフォーム断熱材 t20表し Tジョイナー使用		—	6900～9690	床下点検口(70mm枠) 600角 一部撤去 吊式バスケットゴール撤去 吊り縄撤去
		改修後	既存床仕上(下地及び床組共)撤去 複層発泡材付長尺弾性スポーツ床t6.2 ラワン構造用合板 t15 F☆☆☆☆ 針葉樹構造用合板 t15 F☆☆☆☆ 乾式鋼製床材 H860 土間新設：コンクリート直均し仕上 土間コンクリートt180 防湿シートt0.15 再生砕石t150 東・東石撤去 ローソク基礎撤去 体育器具基礎撤去・新設 ブナフローリング張りt15 捨て張り18撤去、軸組撤去		改修後	—		改修後	既存 白ラワンディック下見板張り t21 OSワックス磨き 化粧釘打 下地調整のうえOS塗装 既存 有孔合板 t9.0現況のまま 一部バスケットゴール取付け時 取外し再取付 既存 吸音ワックス張り一部張替後 EP塗装 一部既存(白ラワンディック下見板張り t21)腰壁撤去後 胴縁下地 ラワン合板t15 OS塗装 新設		改修後	既存 硬質ウレタンフォーム断熱材 t20表し Tジョイナー使用		—	6900～9690	1 床下点検口(70mm枠)鍵付き 600角 新設 床下点検口 200×1000 スポーツ床材t6.2 穴開加工 新設 吊式バスケットゴール新設 (耐震ユニット、防振ユニット共) 体育器具床金具撤去・新設 天板開閉器具撤去・新設 空調用防球ガード及び吊架台新設 スピーカー用防球柵新設 暗幕カーテン、カーテンレール撤去・新設
	ステージ	改修前	ブナフローリングフロケット15貼り		改修前	ラワン H=100 OS モルタル金ゴテ H=100 AEP		改修前	ジョベニキ t6.0 目スカン EP		改修前	木製格子45×45@150 OS		—	5400	枠：ラワン下地付貼物450×75
		改修後	既存ブナフローリングフロケット15貼り サンダー掛け及び下地調整のうえ 2液形ウレタン樹脂塗装		改修後	既存ラワン H=100 現況のまま モルタル金ゴテ H=100 AEP 現況のまま		改修後	既存ジョベニキ t6.0 現況のまま		改修後	既存木製格子45×45@150 現況のまま		—	5400	2 枠：ラワン下地付貼物450×75 既存貼物撤去 下地調整のうえSOP塗装
	控室1、2	改修前	ブナフローリングフロケット15貼り		改修前	ラワン H=100 OS		改修前	ジョベニキ t6.0 目スカン EP モルタル金ゴテ目地切り(寒冷紗下地)AEP		改修前	木製格子45×45@150 OS		—	3120	3 床下点検口 現況のまま(控室1)
		改修後	既存ブナフローリングフロケット15貼り サンダー掛け及び下地調整のうえ 2液形ウレタン樹脂塗装		改修後	既存ラワン H=100 下地調整のうえ OS モルタル金ゴテ H=100 下地調整のうえ EP		改修後	既存ジョベニキ t6.0 目スカン 下地調整のうえ EP 既存モルタル金ゴテ目地切り(寒冷紗下地)クラック補修のうえ EP		改修後	木製格子45×45@150 現況のまま		—	3120	
	倉庫	改修前	モルタル金ゴテ目地切		改修前	モルタル金ゴテ H=100		改修前	モルタル金ゴテ AEP		改修前	ステージ床下 表し		—	2200(～ステージFL)	4
		改修後	モルタル金ゴテ目地切 現況のまま		改修後	モルタル金ゴテ H=100 現況のまま		改修後	モルタル金ゴテ AEP 現況のまま		改修後	ステージ床下 表し 現況のまま		—	2200(～ステージFL)	
ステージ下 (一部)	5	改修前	モルタル金ゴテ目地切 既存敷居撤去		改修前	モルタル金ゴテ H=100		改修前	モルタル金ゴテ AEP		改修前	ステージ床下 表し		—	2200(～ステージFL)	5
		改修後	ラワン構造用合板 t15 F☆☆☆☆ 針葉樹構造用合板 t15 F☆☆☆☆ 根太：30×35×1.2@300 大引：□-50×50×1.6@900 支持台：34φ× t2.3@900×900 ハウンドゴム無し 既存敷居新設		改修後	モルタル金ゴテ H=100 現況のまま		改修後	木下地の上ラワン合板t15張り		改修後	ステージ床下 表し 現況のまま		—	2200(～ステージFL)	





【体育室】

- 床) 既存床仕上(下地及び床組共)撤去
複層発泡材付長尺弾性スポーツ床 t6.2
針葉樹構造用合板t15+ラワン構造用合板t15
乾式鋼製床材 H860
壁) 既存 白ラワンツ下見板張りt21
下地調整のうえ ST塗装
既存 有孔合板t9.0 現況のまま
一部 バスケットゴール取付時取外し再取付
既存 吸音ティクス張り 一部張替後 EP塗装
天井) 既存 硬質ウレタンフォーム断熱材t20 表し Tジョイナー使用

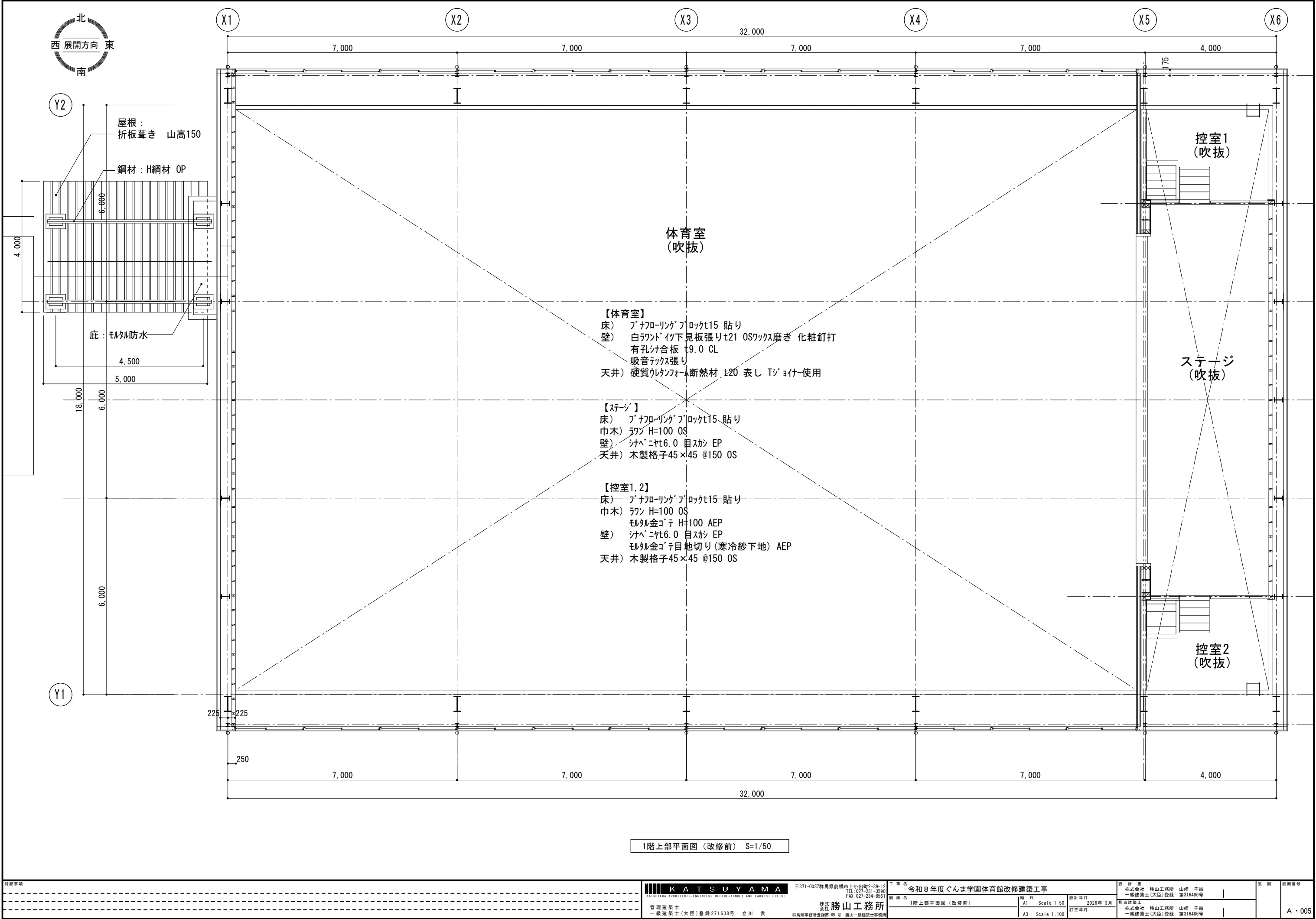
1階平面図(改修後) S=1/50

【ステージ】

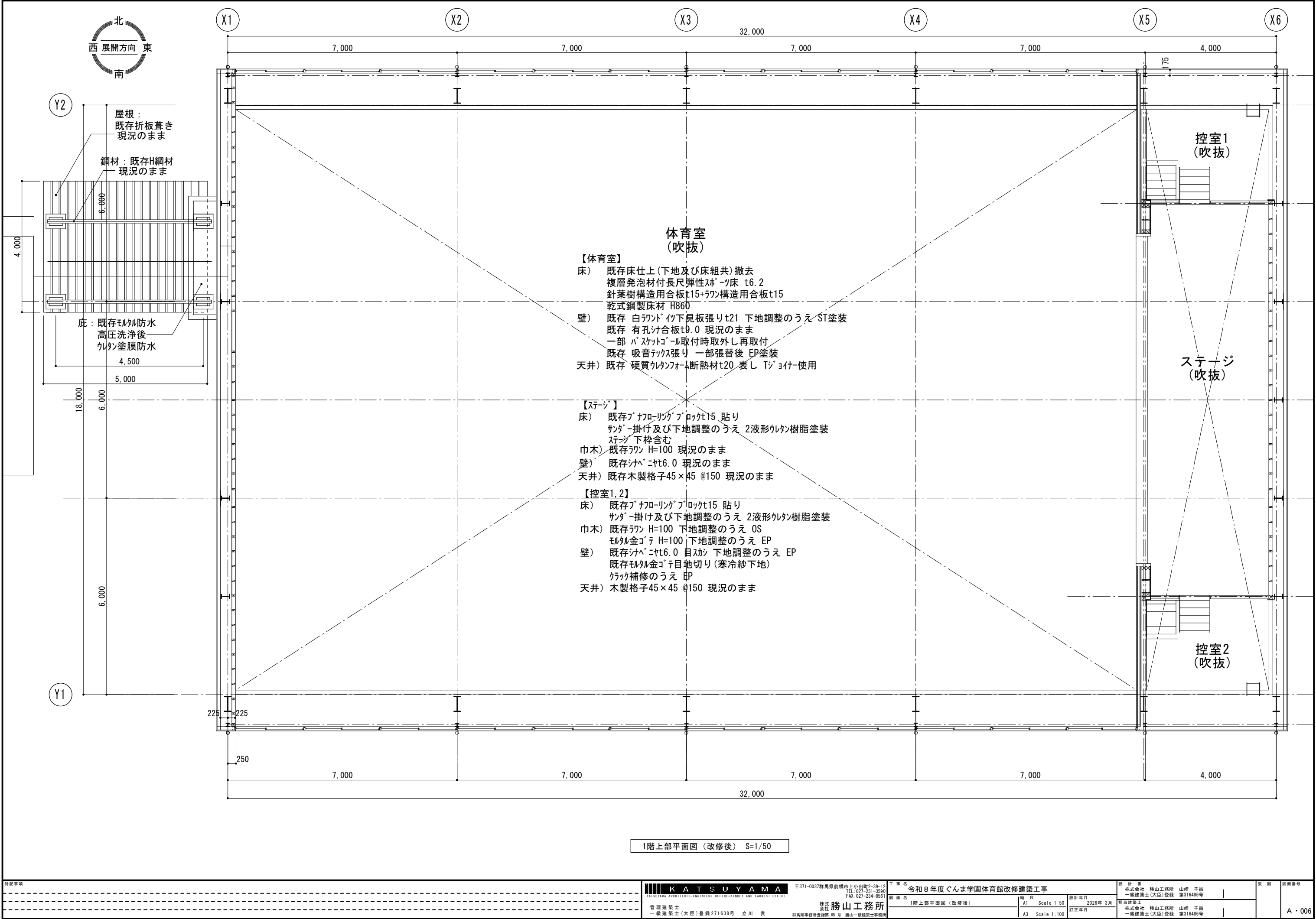
- 床) 既存プロローリングブロックt15 貼り
カンター掛け及び下地調整のうえ
2液形ウレタン樹脂塗装
ステージ下枠共
巾木) 既存ラワン H=100 現況のまま
壁) 既存シベニヤt6.0 現況のまま
天井) 既存木製格子45×45 @150
現況のまま

【控室1,2】

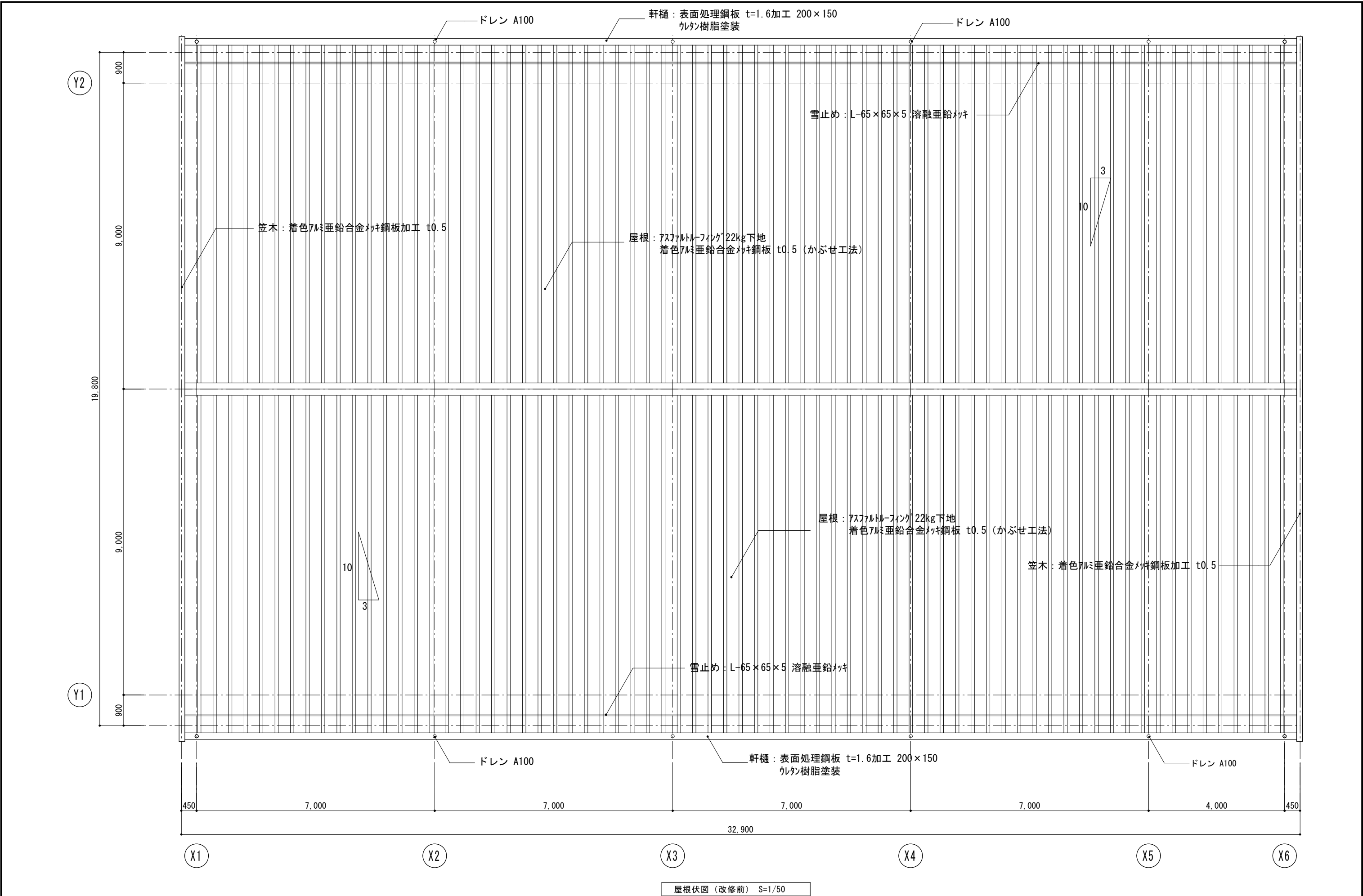
- 床) 既存プロローリングブロックt15 貼り
カンター掛け及び下地調整のうえ 2液形ウレタン樹脂塗装
巾木) 既存ラワン H=100 下地調整のうえ OS
モルタル金ゴテ H=100 下地調整のうえ EP
壁) 既存シベニヤt6.0 目スカ 下地調整のうえ EP
既存モルタル金ゴテ目地切り(寒冷紗下地)
クラック補修のうえ EP
天井) 木製格子45×45 @150 現況のまま

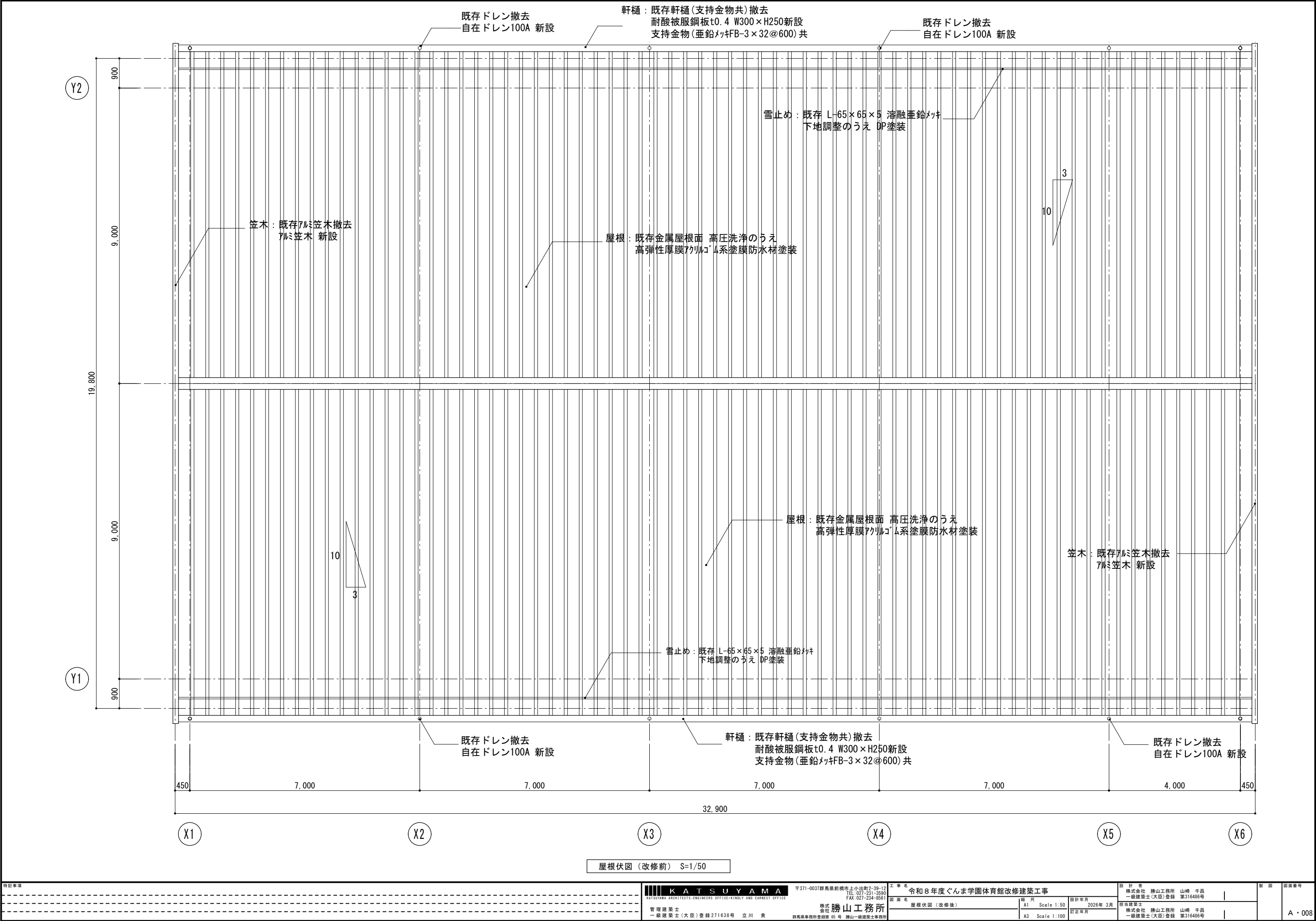


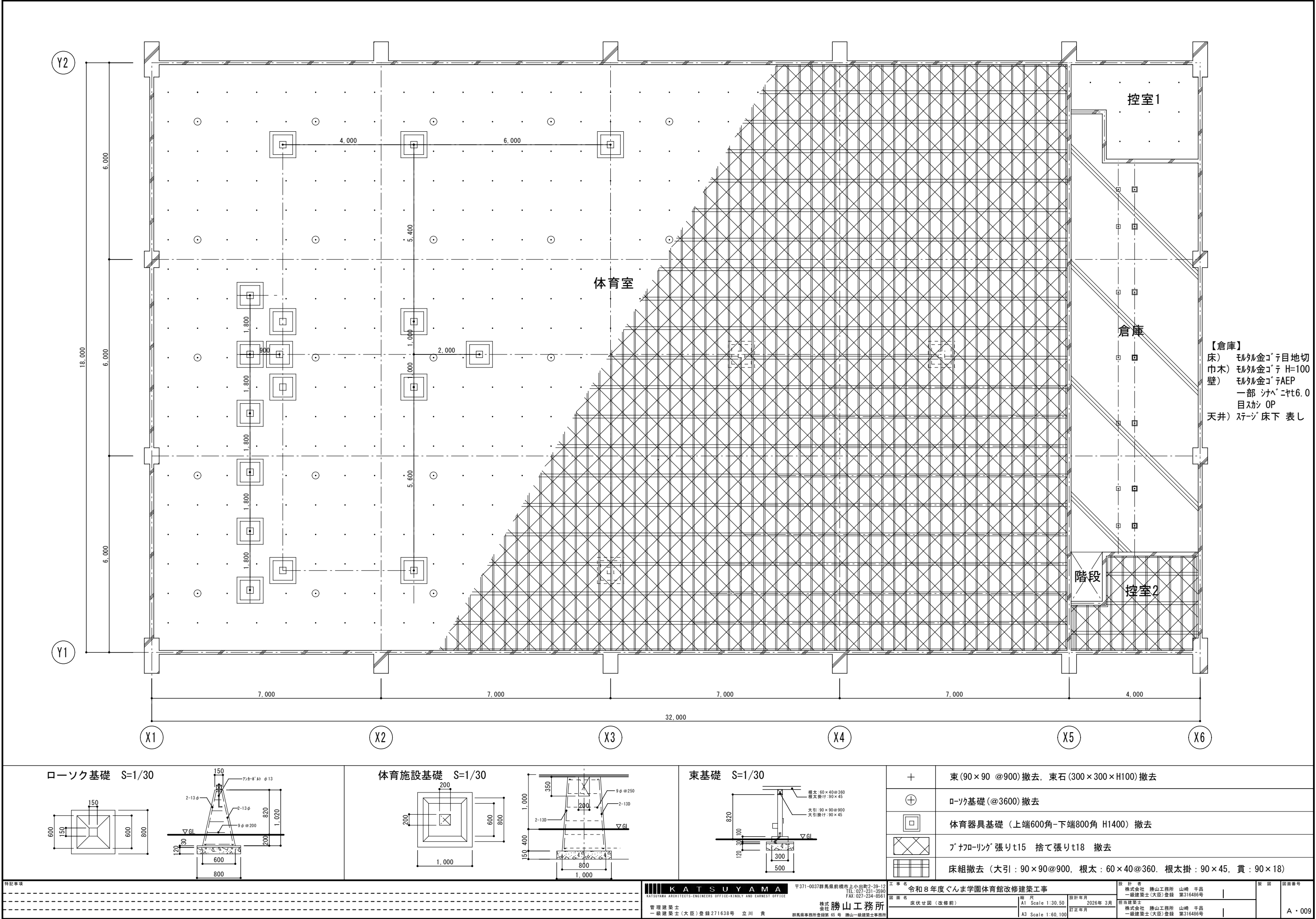
1階上部平面図（改修前） S=1/50



1階上部平面図（改修後） S=1/50







【倉庫】
床) 珪藻土目地切
巾木) 珪藻土 H=100
壁) 珪藻土 AEP
一部 シェーディング
目カシ OP
天井) ステンレス床下 表し

控室1

倉庫

階段

控室2

体育室

Y2

Y1

X1

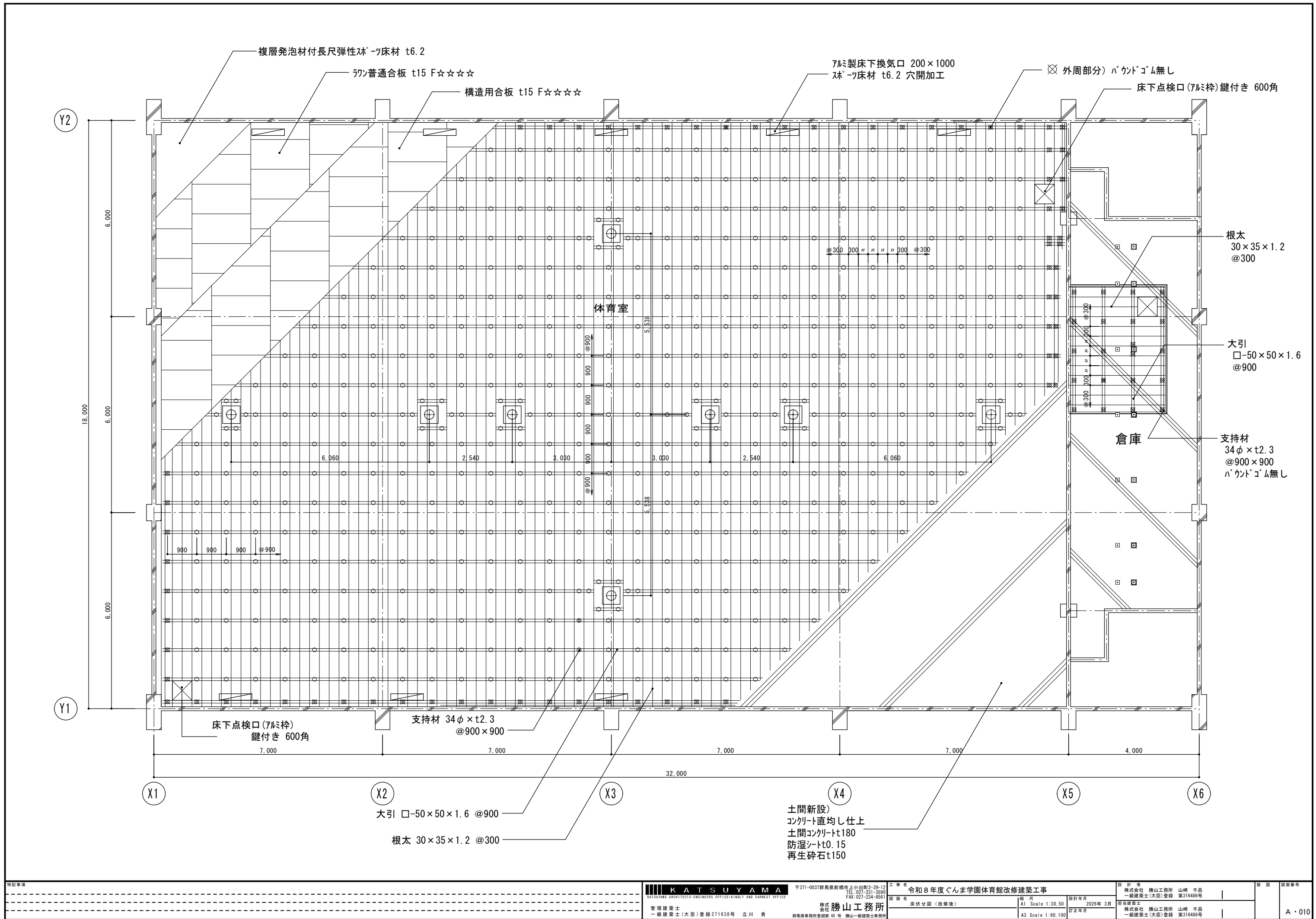
X2

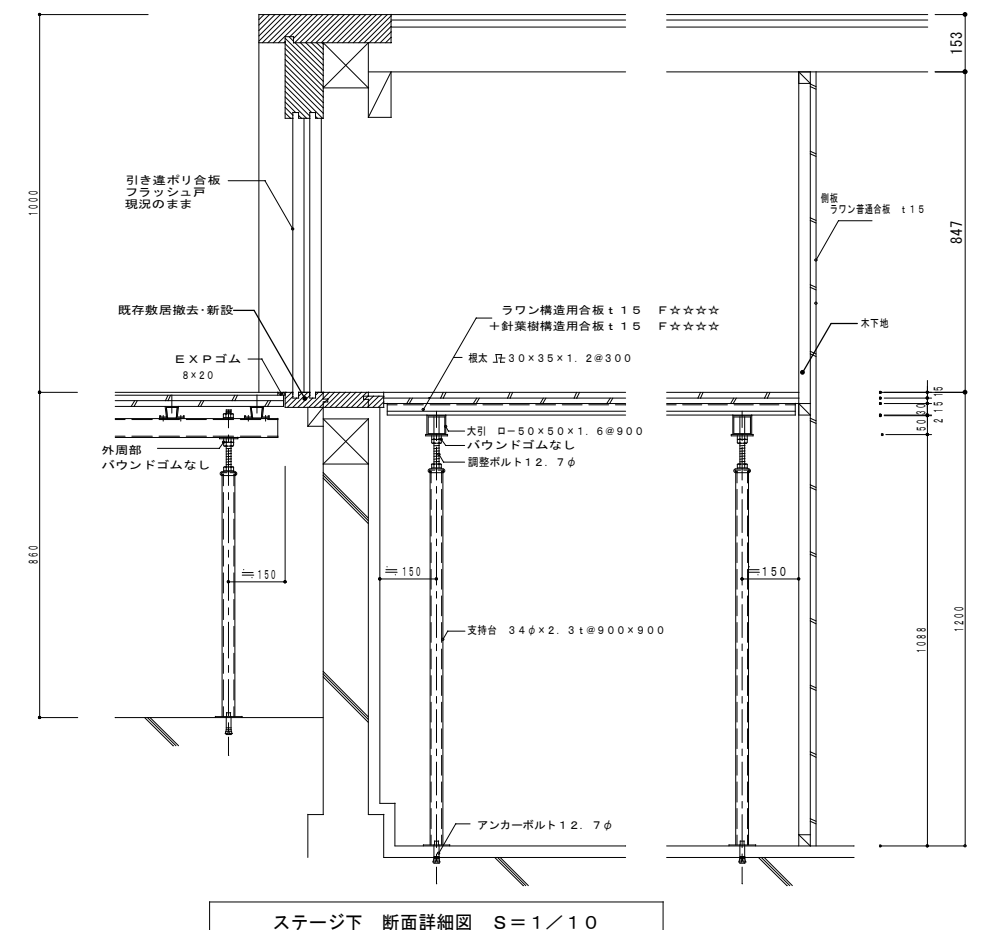
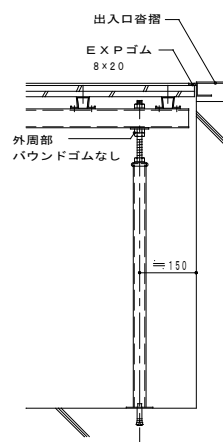
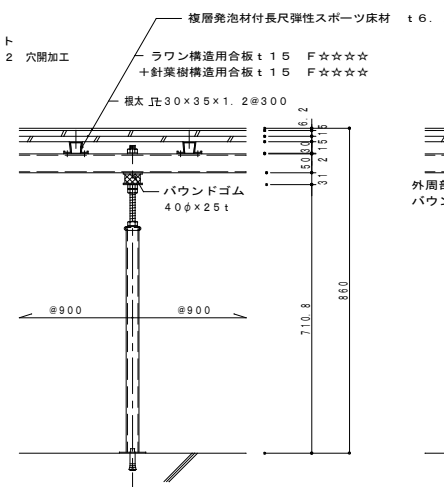
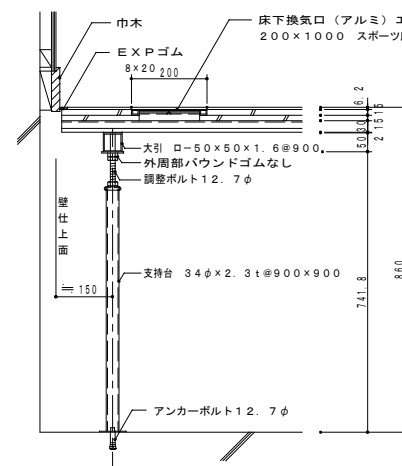
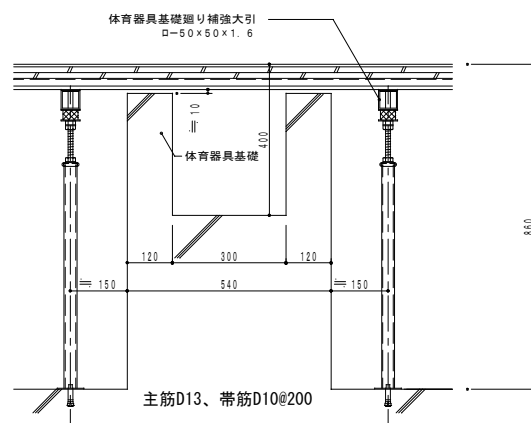
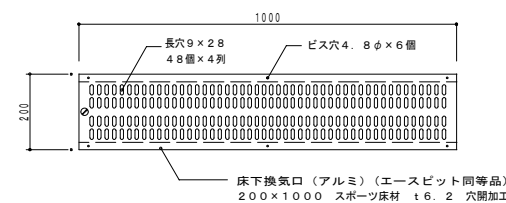
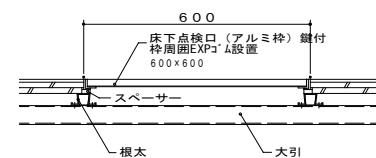
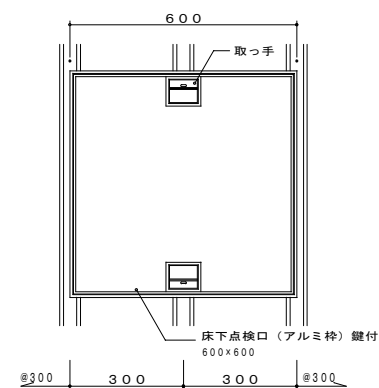
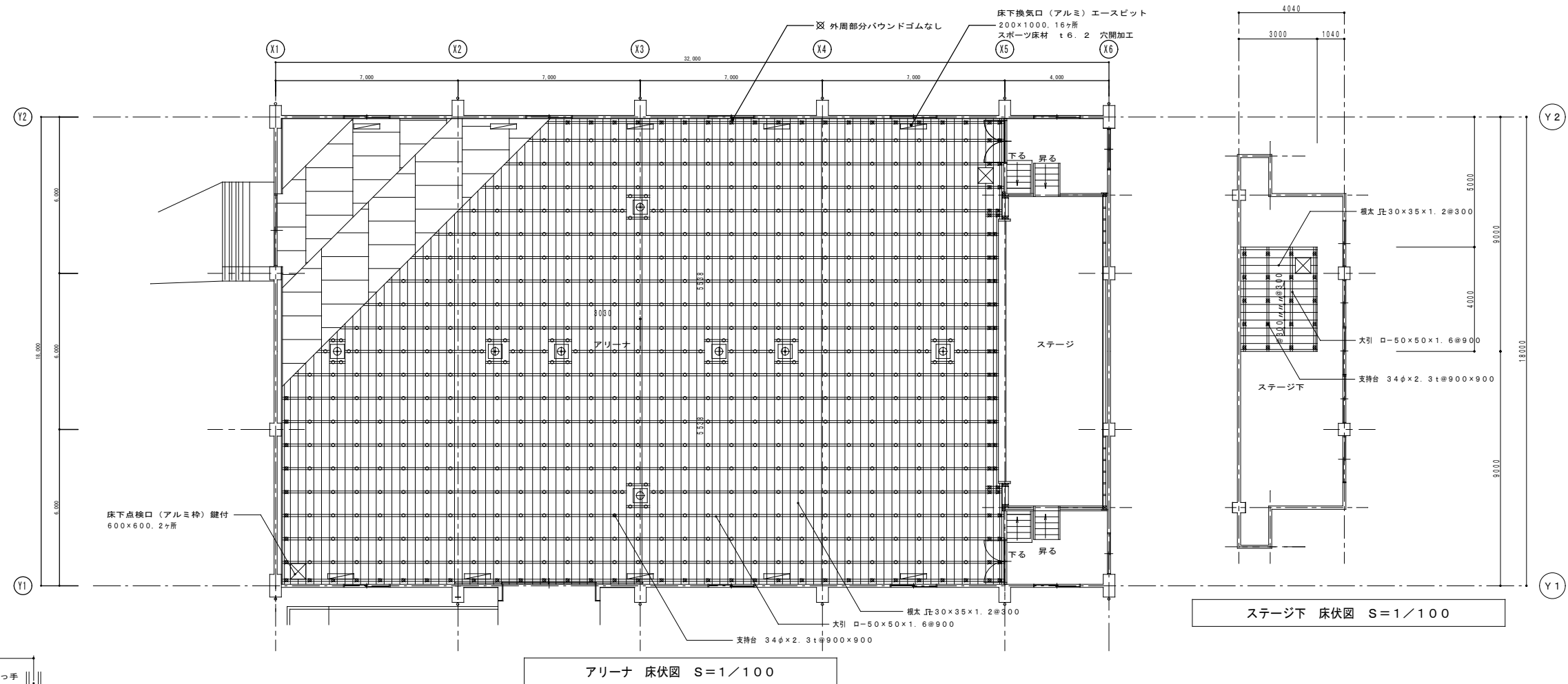
X3

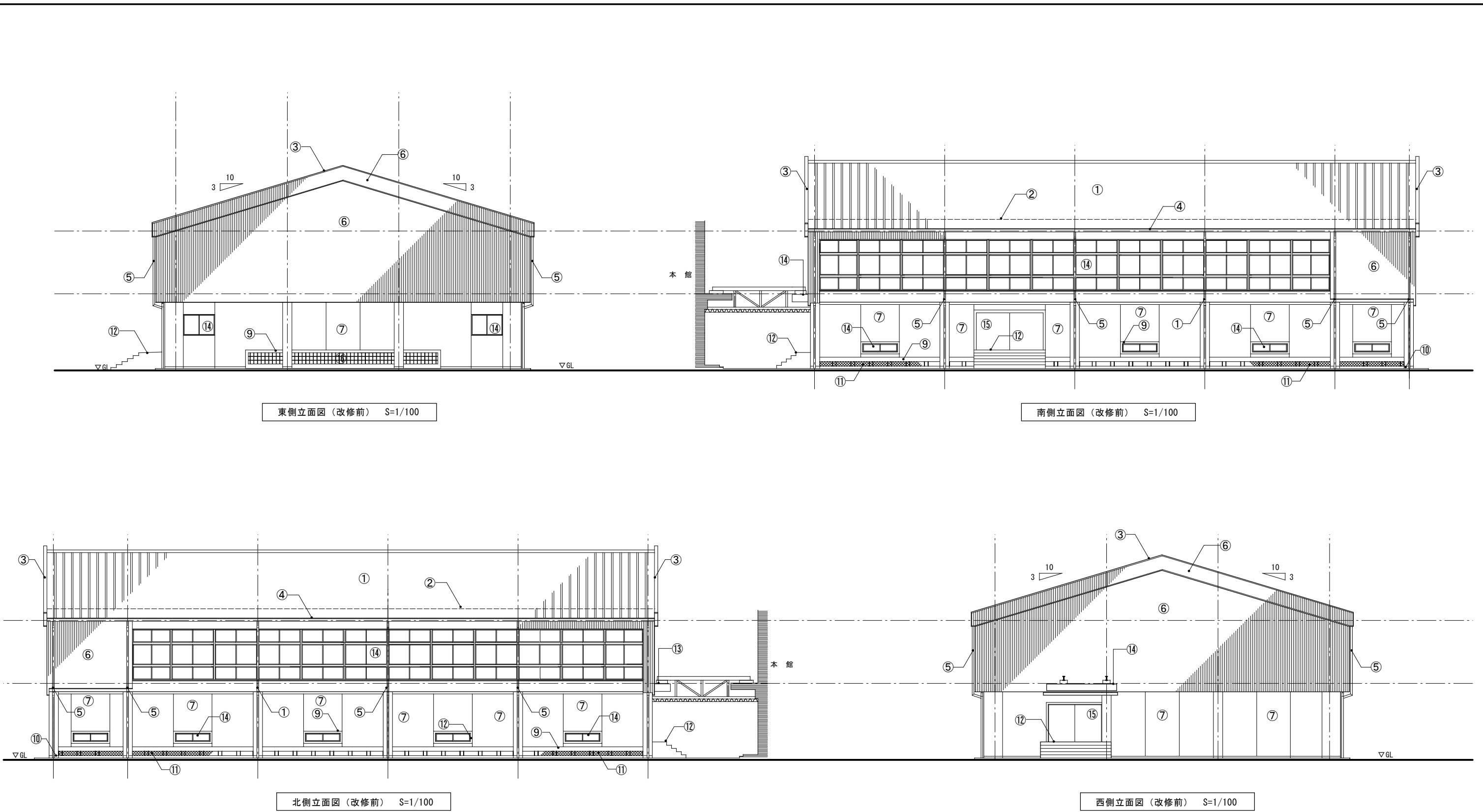
X4

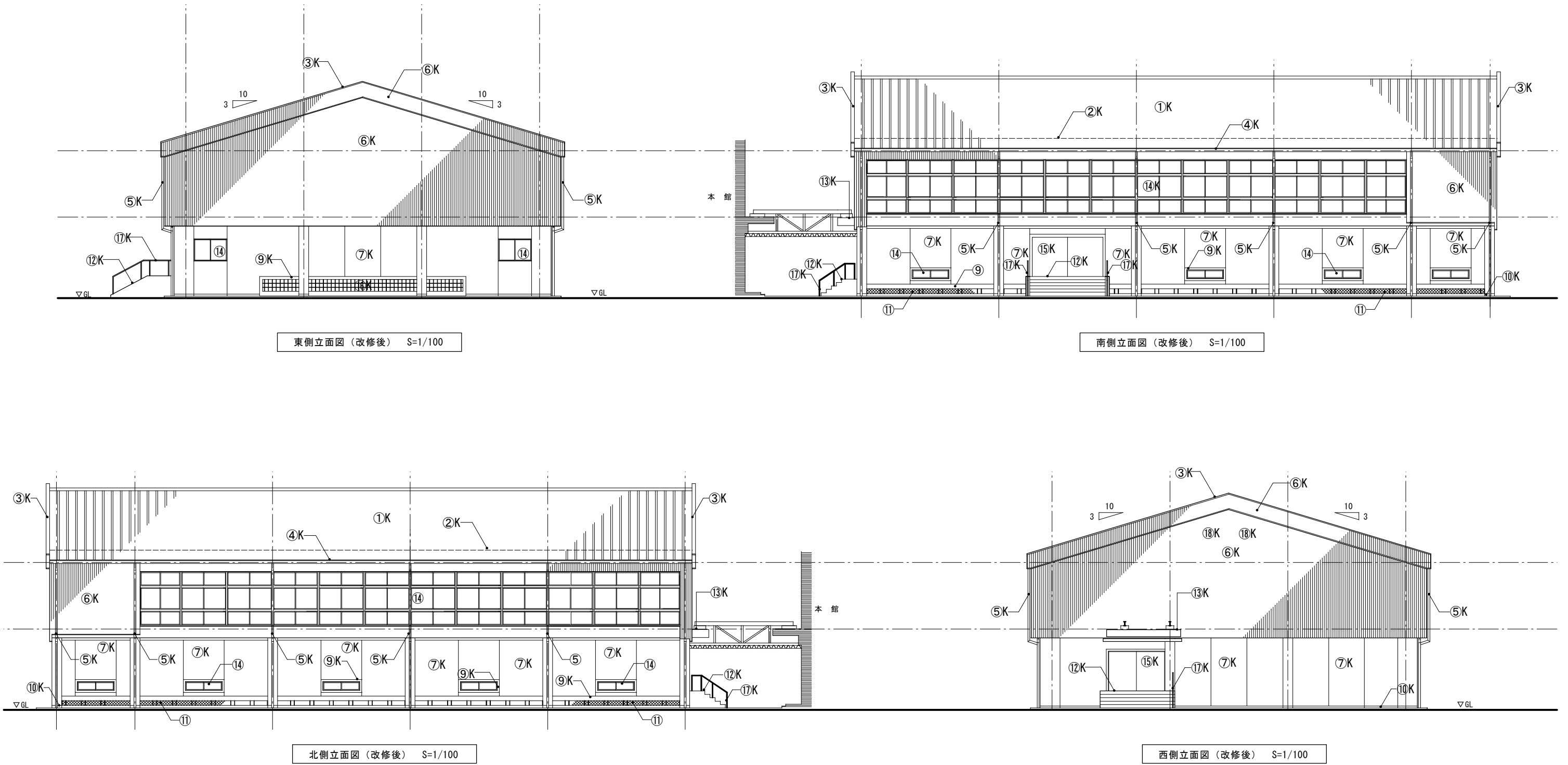
X5

X6



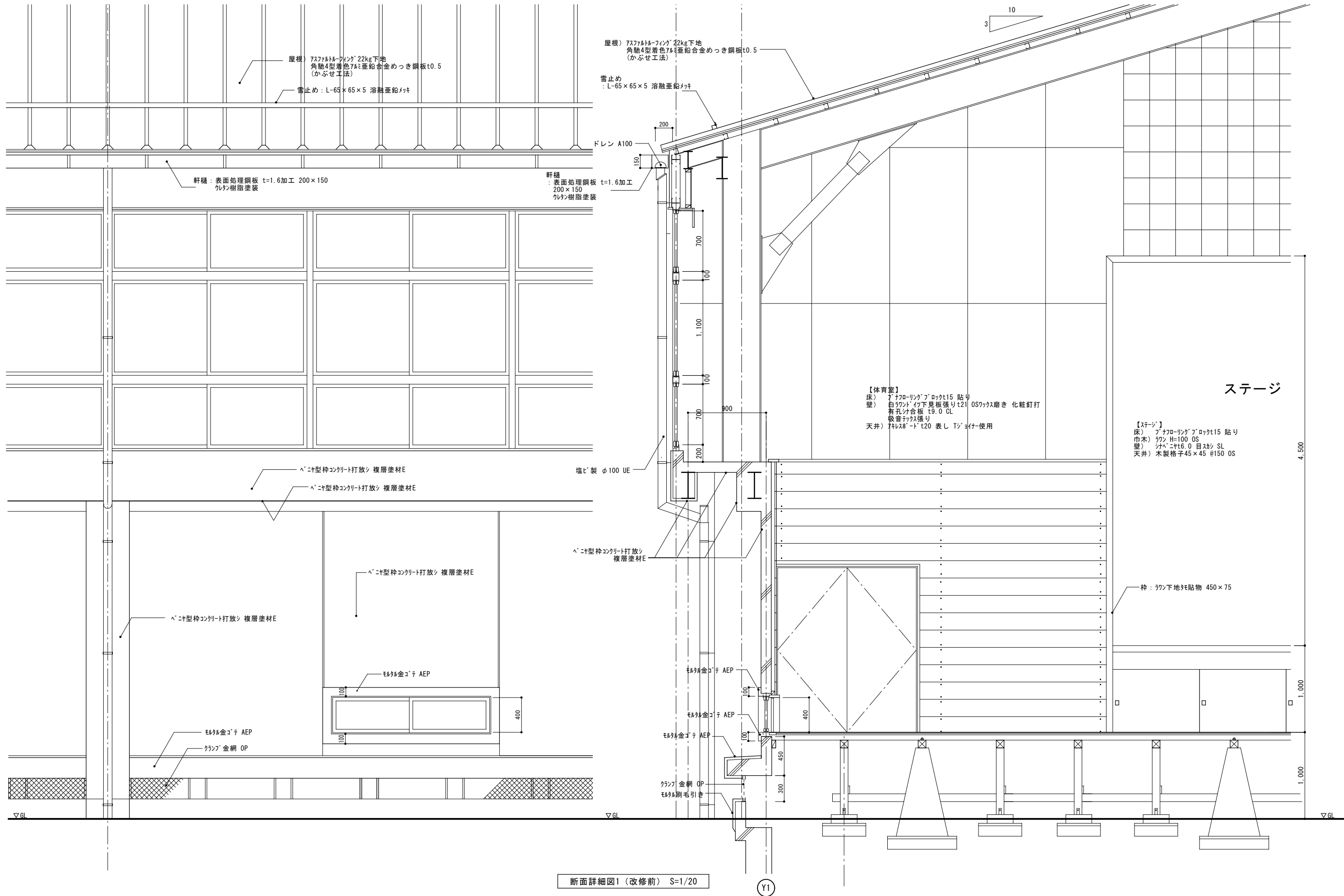


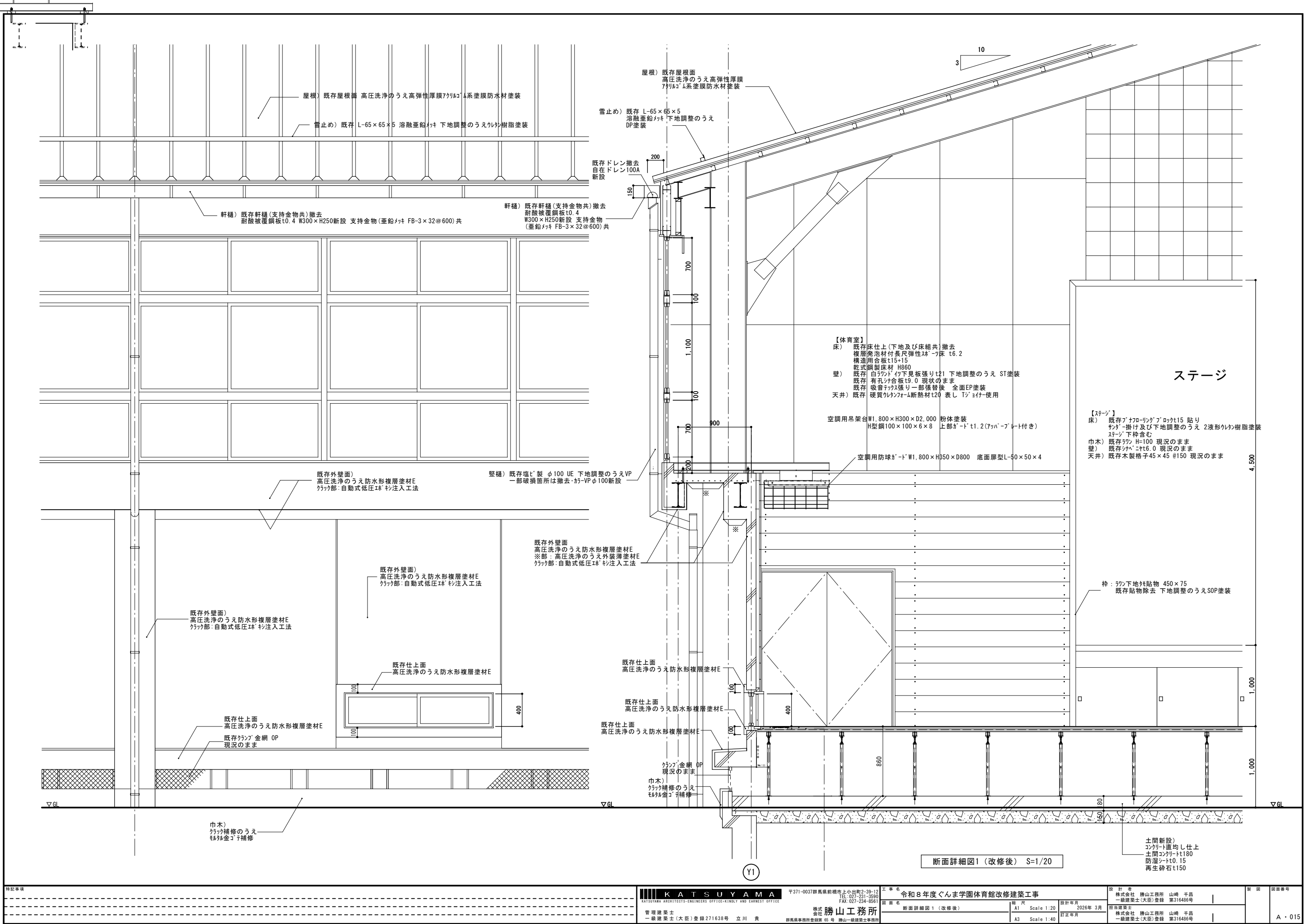


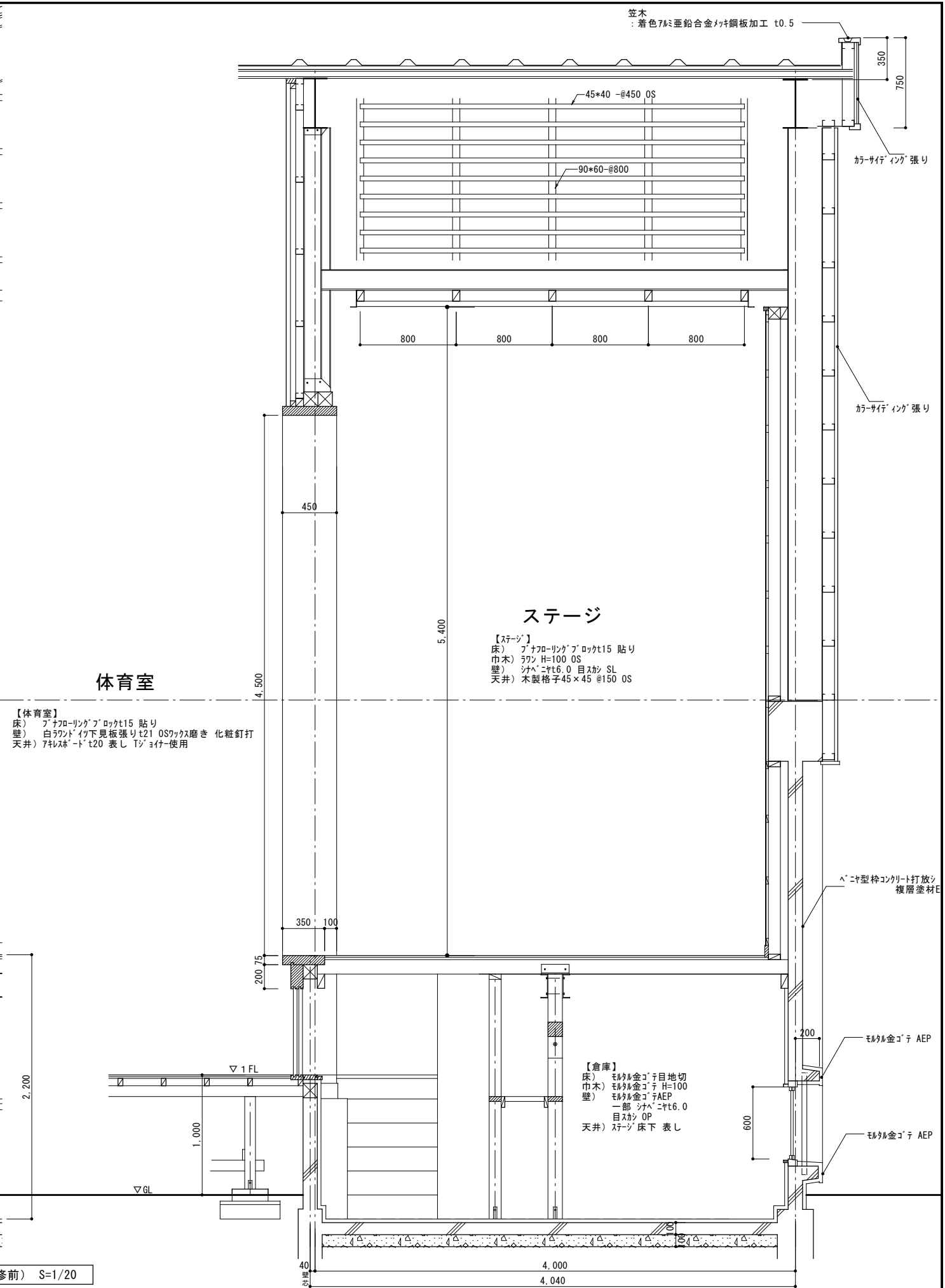
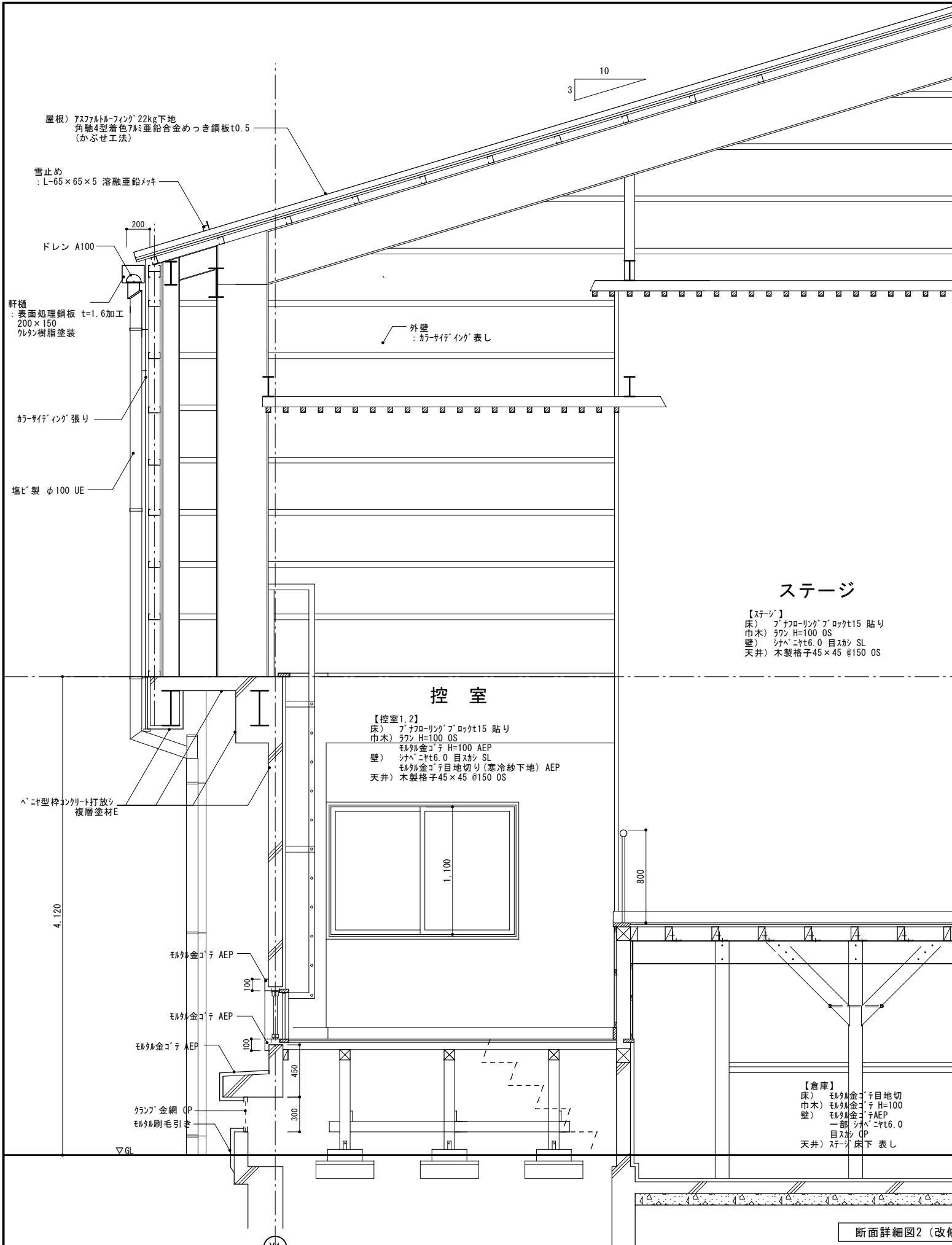


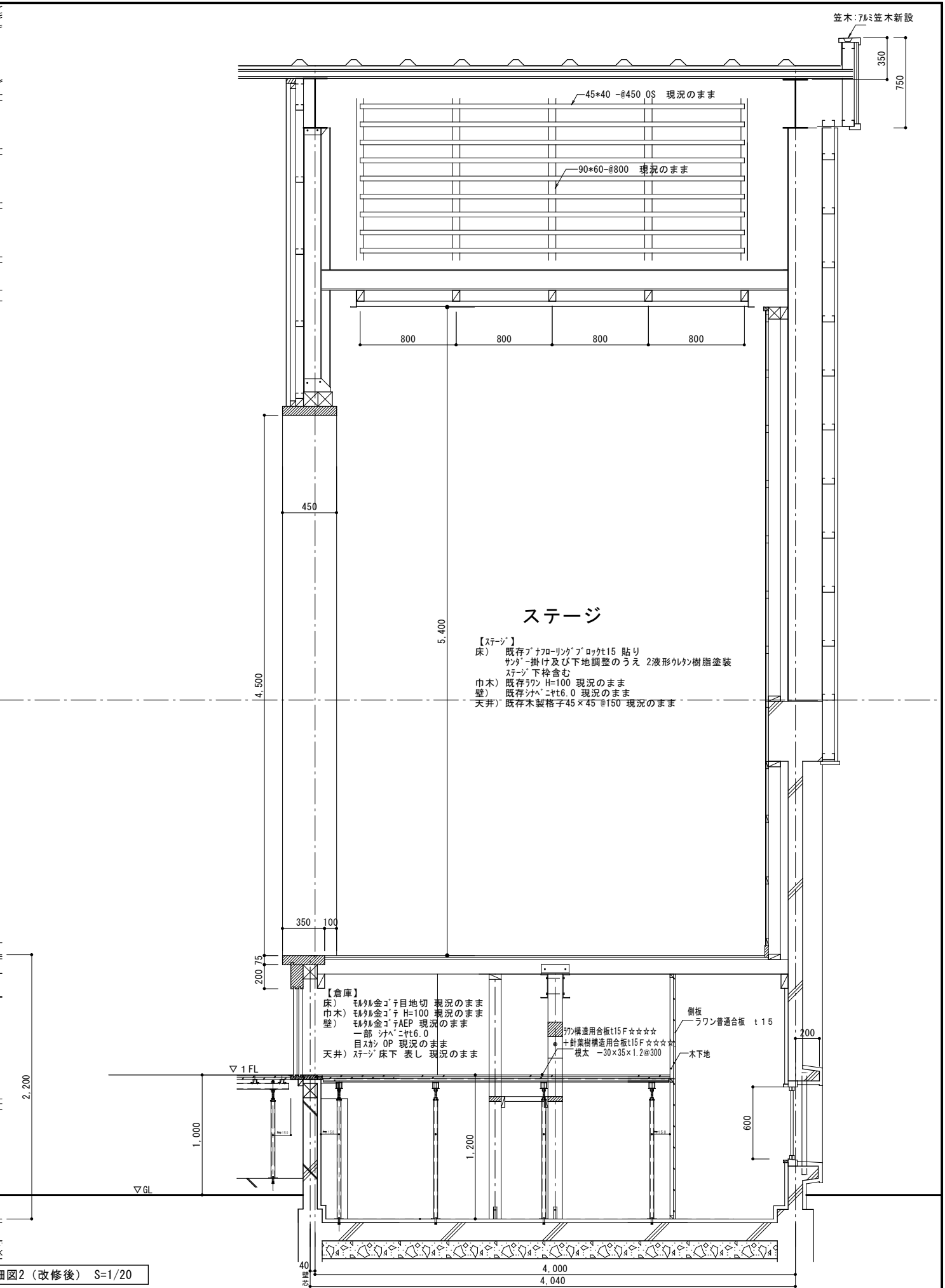
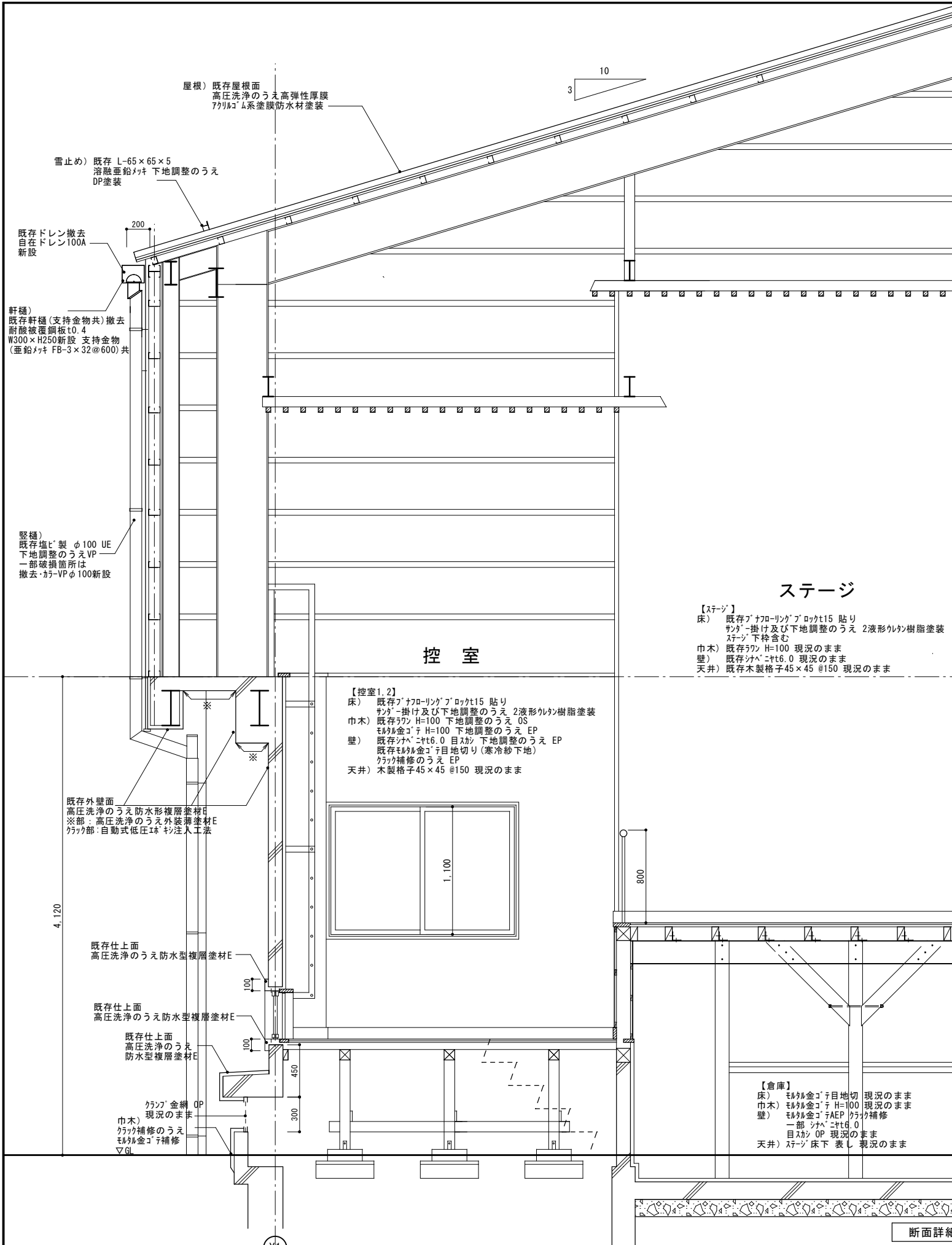
※ 既存シーリング（目地、建具廻り等）はすべて打替えとする

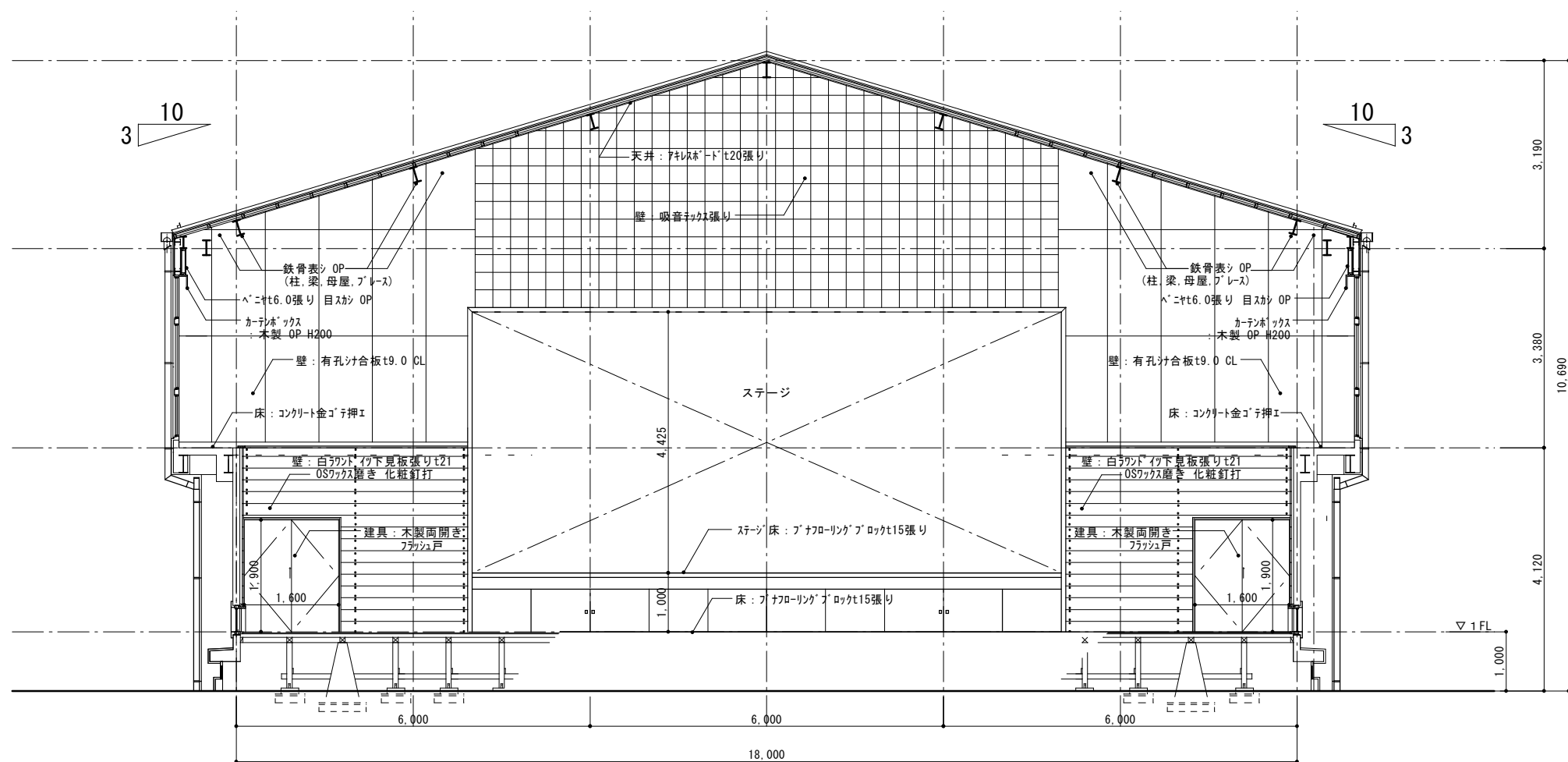
①K	屋根）既存屋根面 高圧洗浄のうえ高弾性厚膜7クリル [®] 4系塗膜防水材塗装	⑥K	外壁1）既存サイディングへ防水シート張りのうえ窯業サイディングt16重ね張り（金属胴縁共）	⑪	通気口）クランプ金網 OP 現況のまま	⑮K	建具2）既存スチールサッシ撤去・新設
②K	雪止め）既存 L-65×65×5 溶融亜鉛メッキ 下地調整のうえDP塗装	⑦K	外壁2）既存外壁面高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E クラック部：自動式低圧球 [®] サシ注入工法	⑫K	階段）床：モルタル金ゴ [®] テ、磁器質ノズリッ [®] タイル、踏面・蹴上：モルタル金ゴ [®] テ 既存モルタル撤去 下地調整のうえモルタル金ゴ [®] テ仕上げ（ノズリッ [®] タイル共）	⑯K	スチール製格子 □-40×20×1.6 @200 下地調整の上SOP塗装
③K	笠木）既存撤去 アルミ笠木新設	⑧K	外壁3）既存軒裏部高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E クラック部：自動式低圧球 [®] サシ注入工法	⑬K	庇）既存モルタル防水部 高圧洗浄後 ウレタン塗膜防水	⑰K	ステンレス手摺 Φ32 新設
④K	軒樋）既存軒樋（支持金物共）撤去 耐酸被覆鋼板t0.4 W300×H250新設 支持金物（亜鉛メッキ FB-3×32@600）共	⑨K	外壁4）既存仕上り面高圧洗浄のうえ防水型複層塗材E	⑭	建具1）既存アルミサッシ 現況のまま	⑱K	換気扇用壁面開口 ※開口位置は監督員との協議による
⑤K	縦樋）既存塩ビ [®] 製 φ100 UE撤去 カラーVPφ100新設	⑩K	巾木）クラック補修のうえモルタル金ゴ [®] テ補修	⑭K	建具1）既存アルミサッシ ガラス面へ断熱シート張り（南面のみ）		



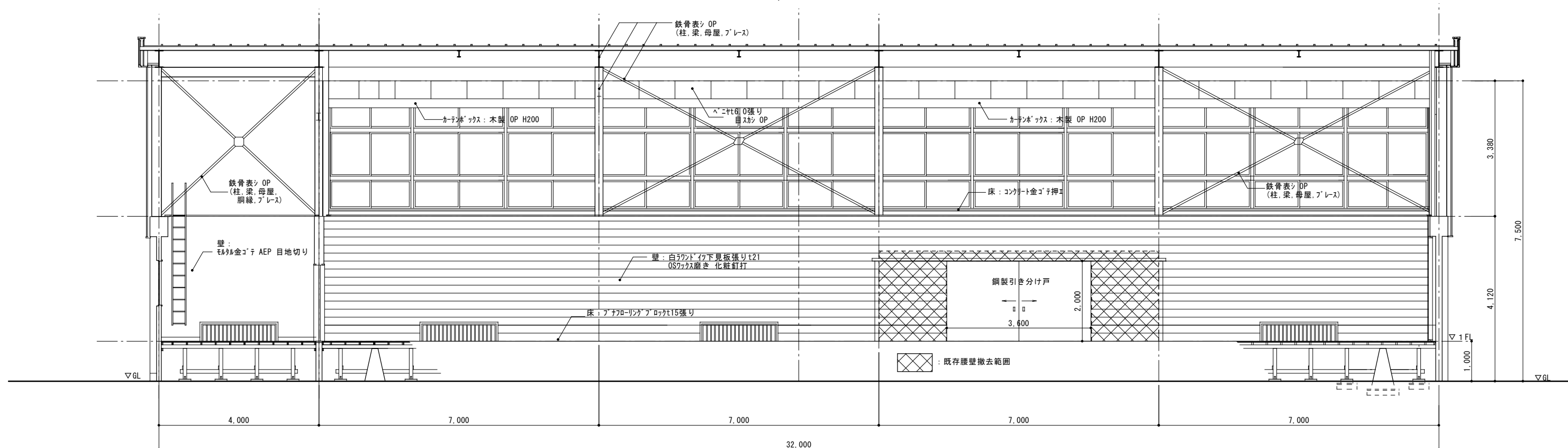




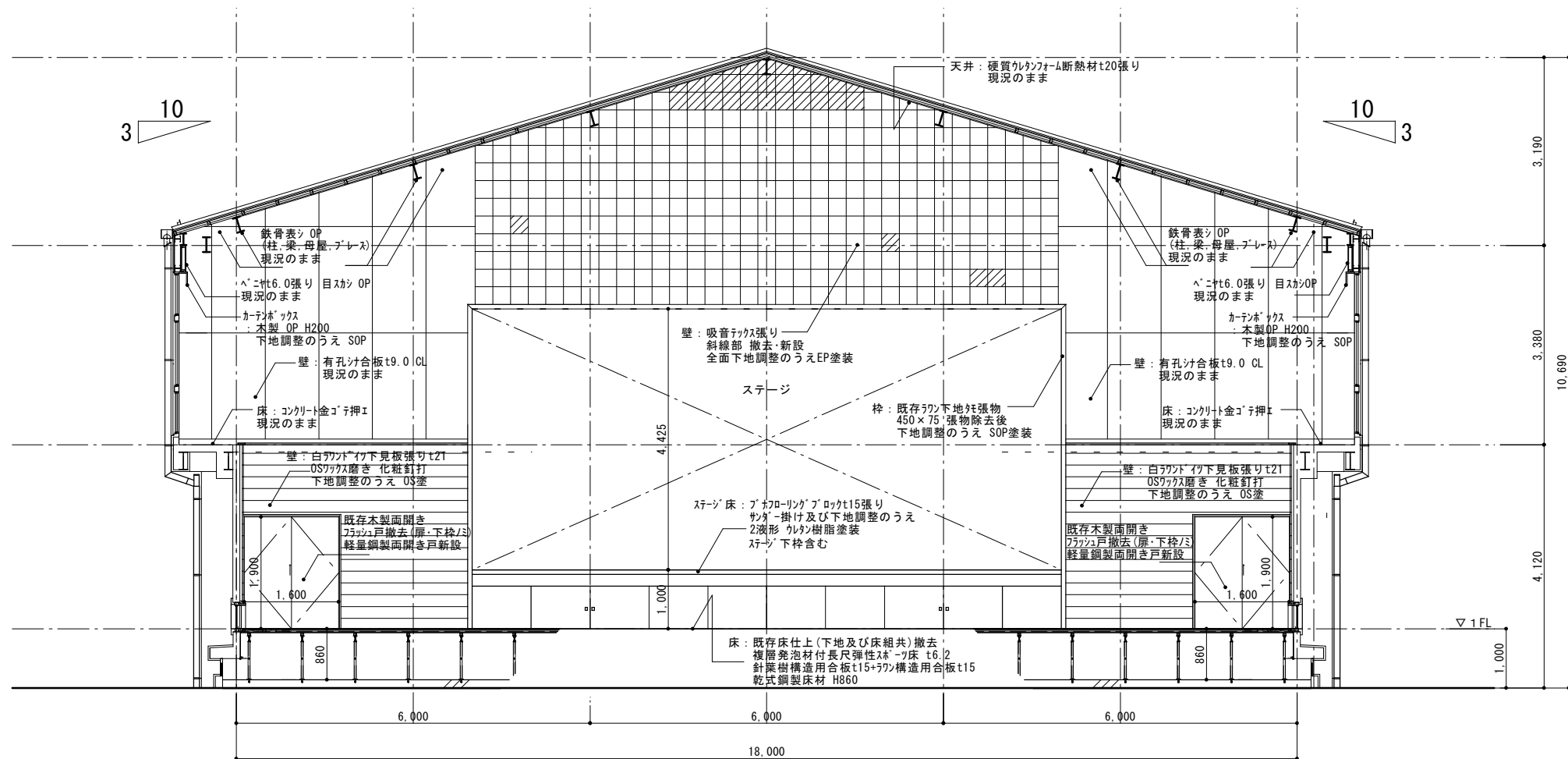




東面展開図 (改修前) S=1/50



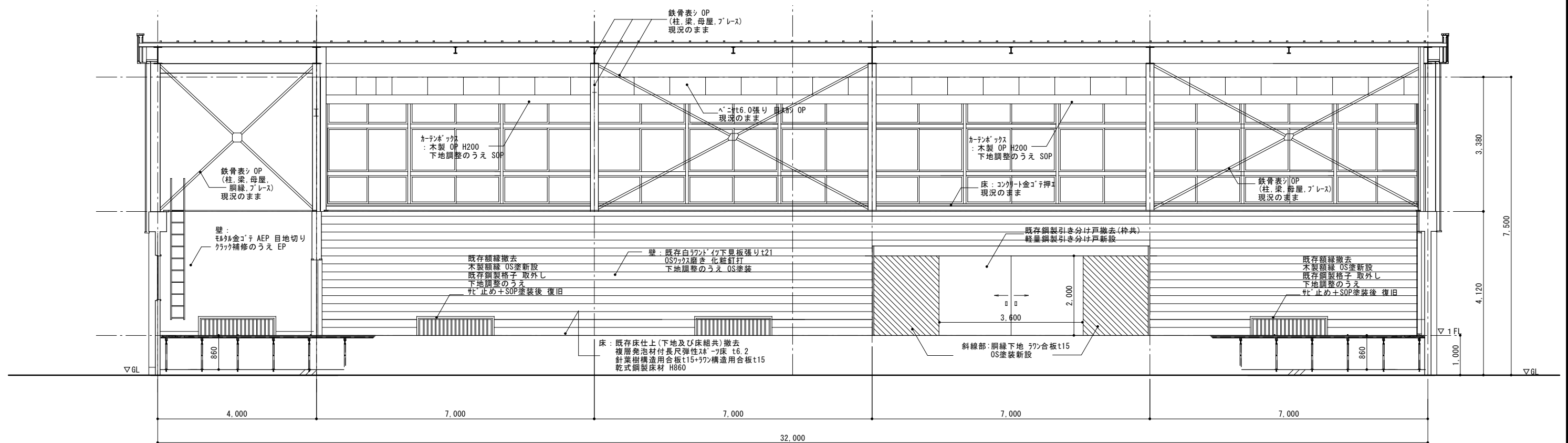
南面展開図 (改修前) S=1/50



Y2

東面展開図 (改修後) S=1/50

Y1



X6

X5

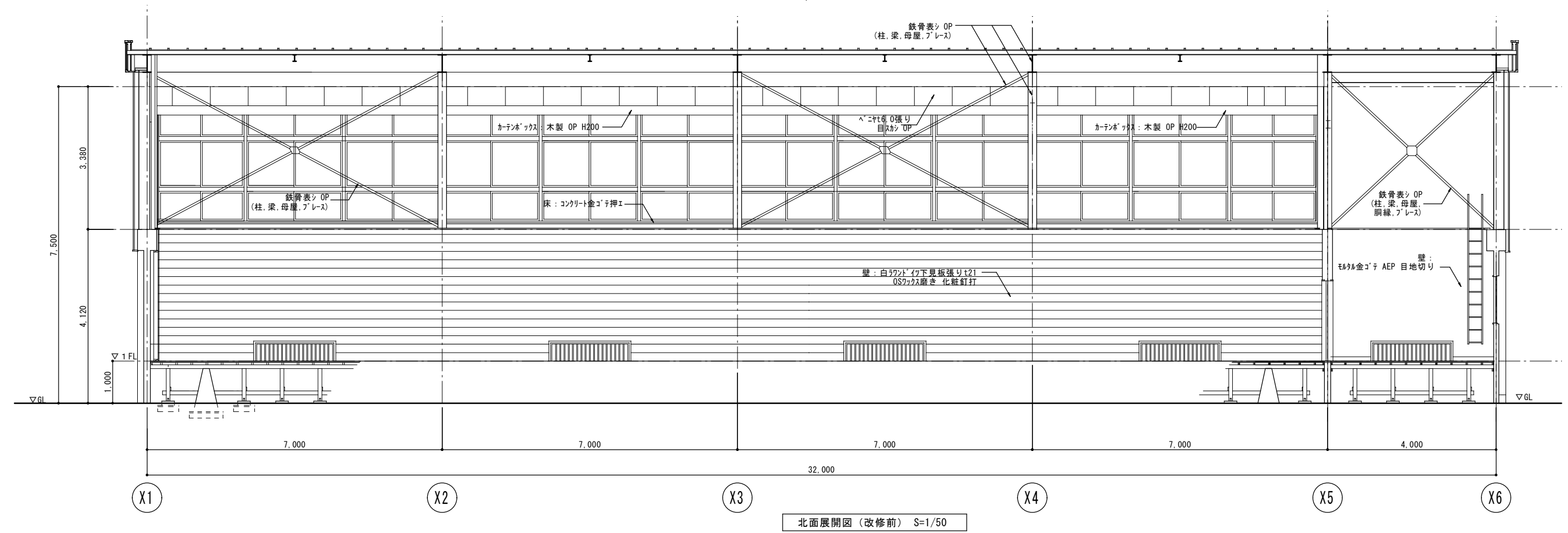
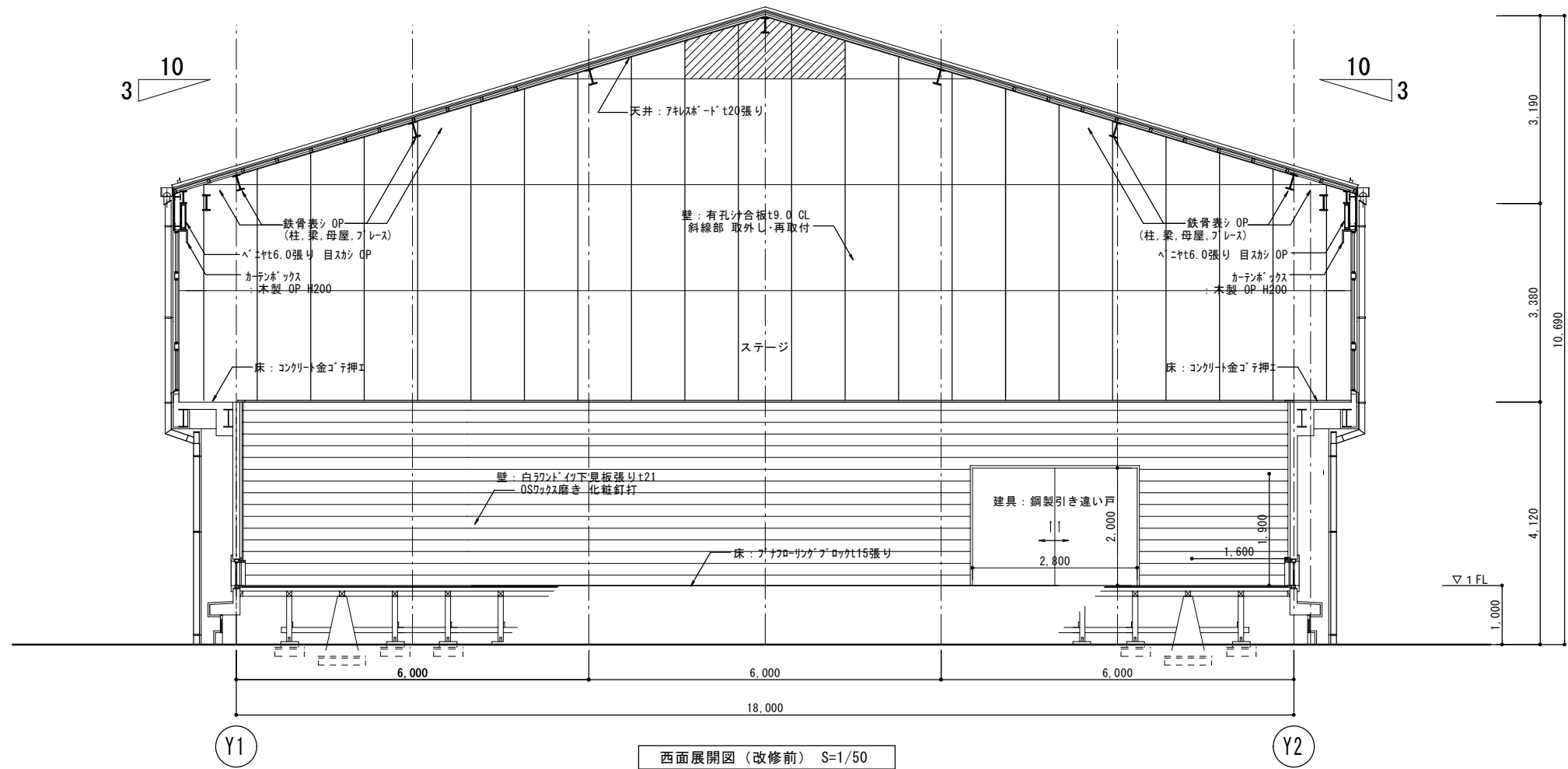
X4

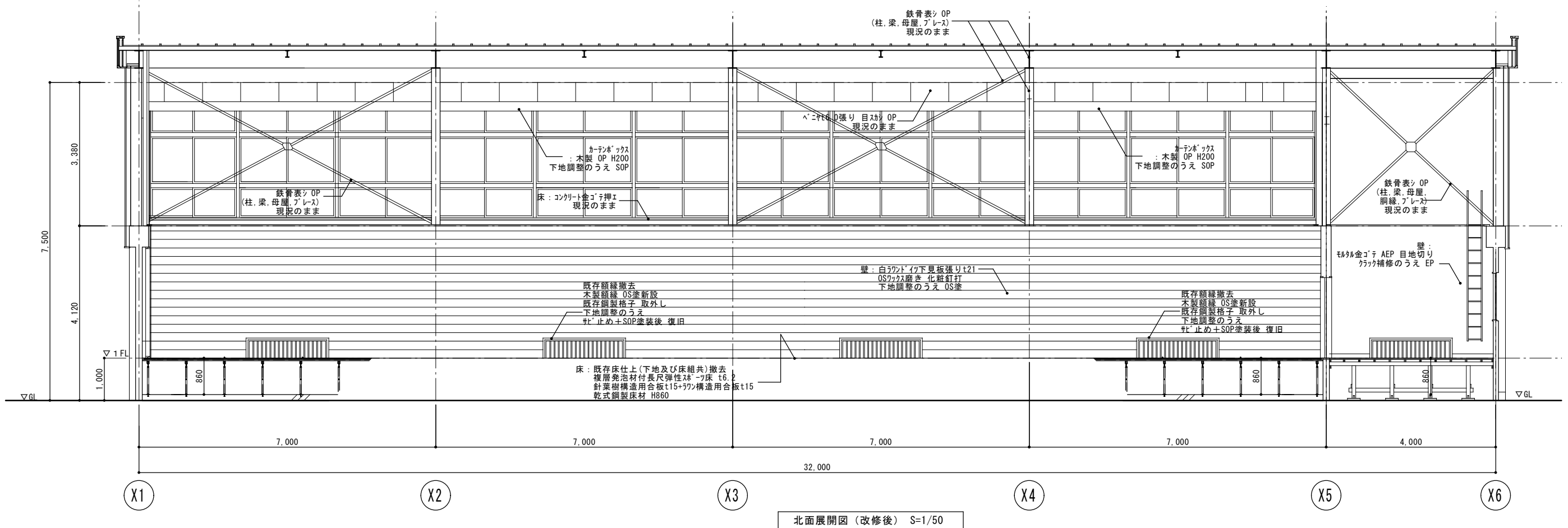
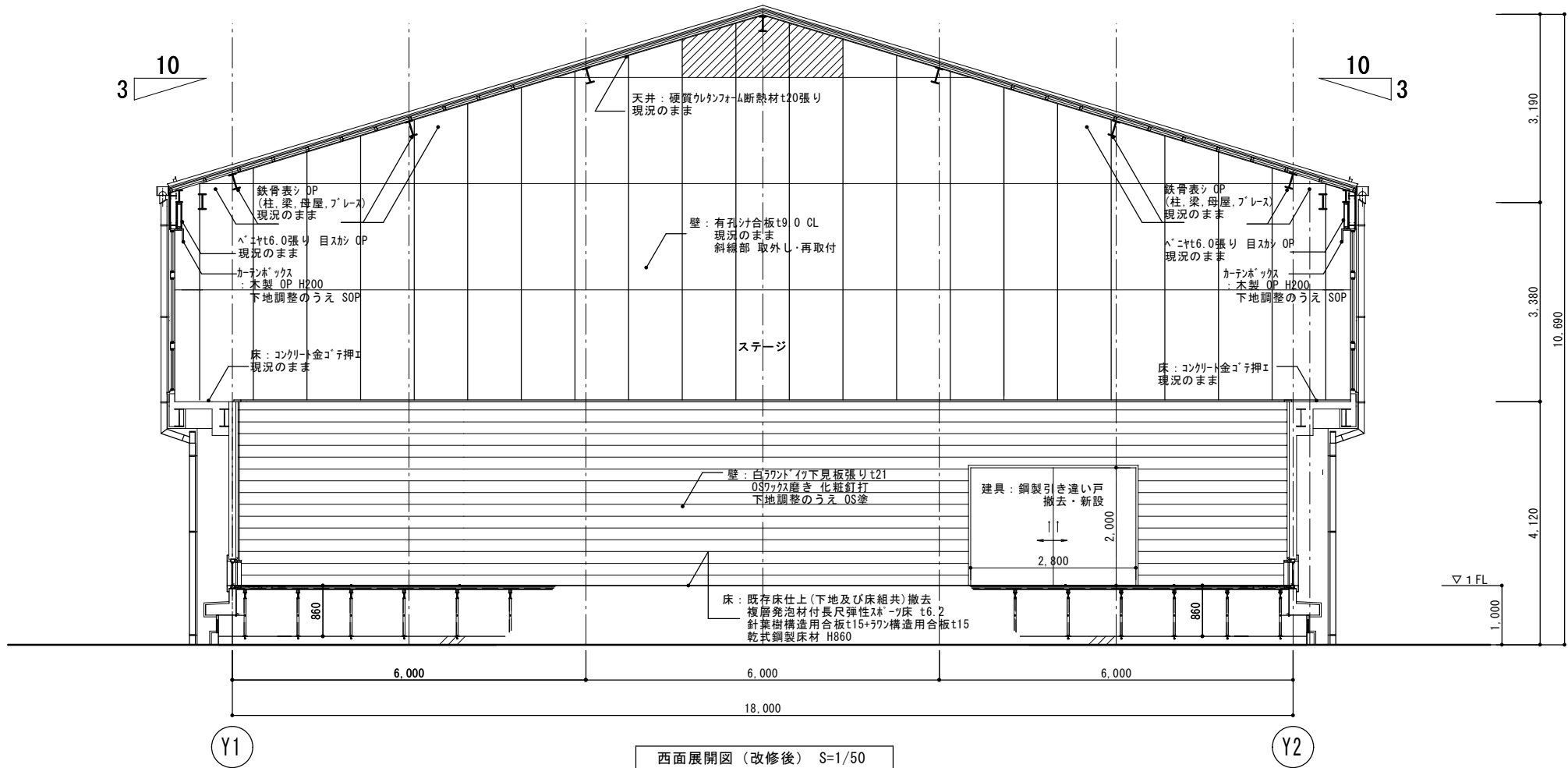
X3

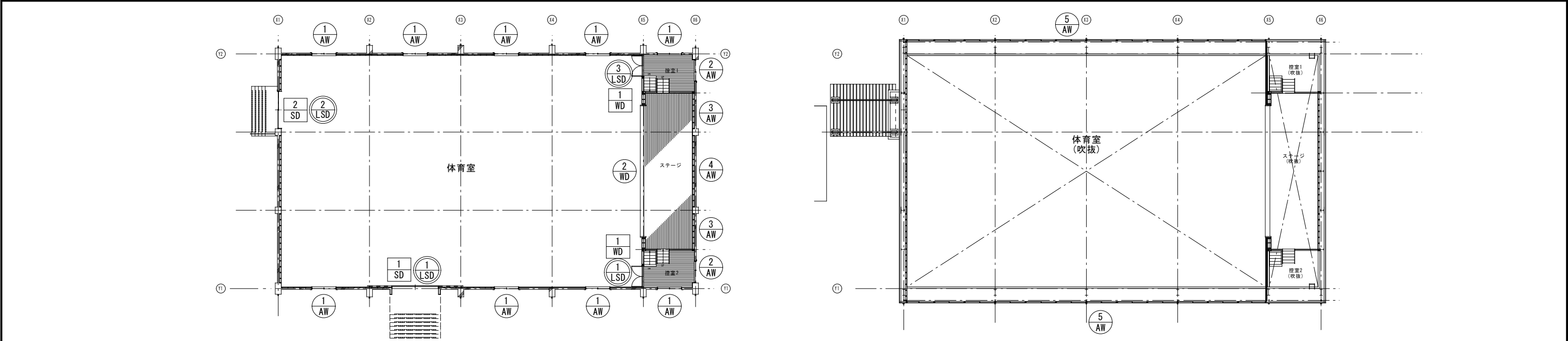
X2

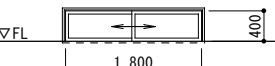
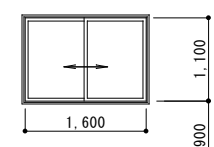
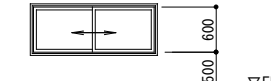
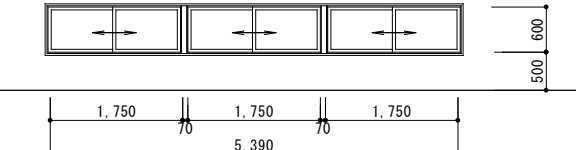
X1

南面展開図 (改修後) S=1/50



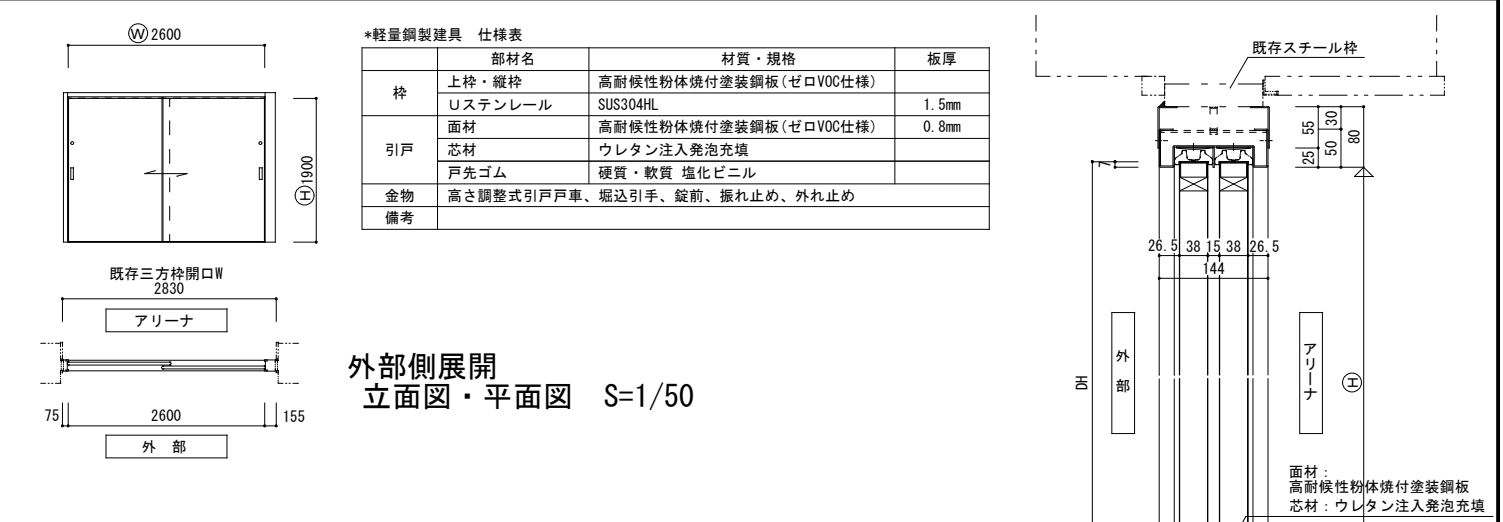
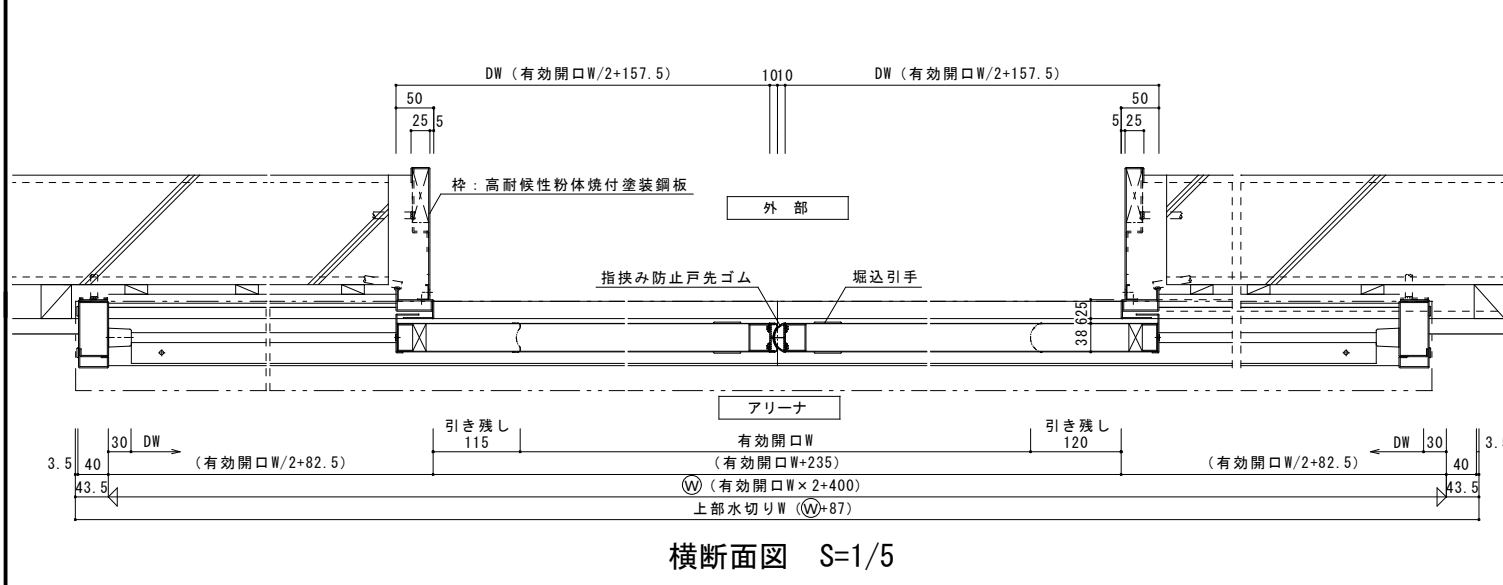
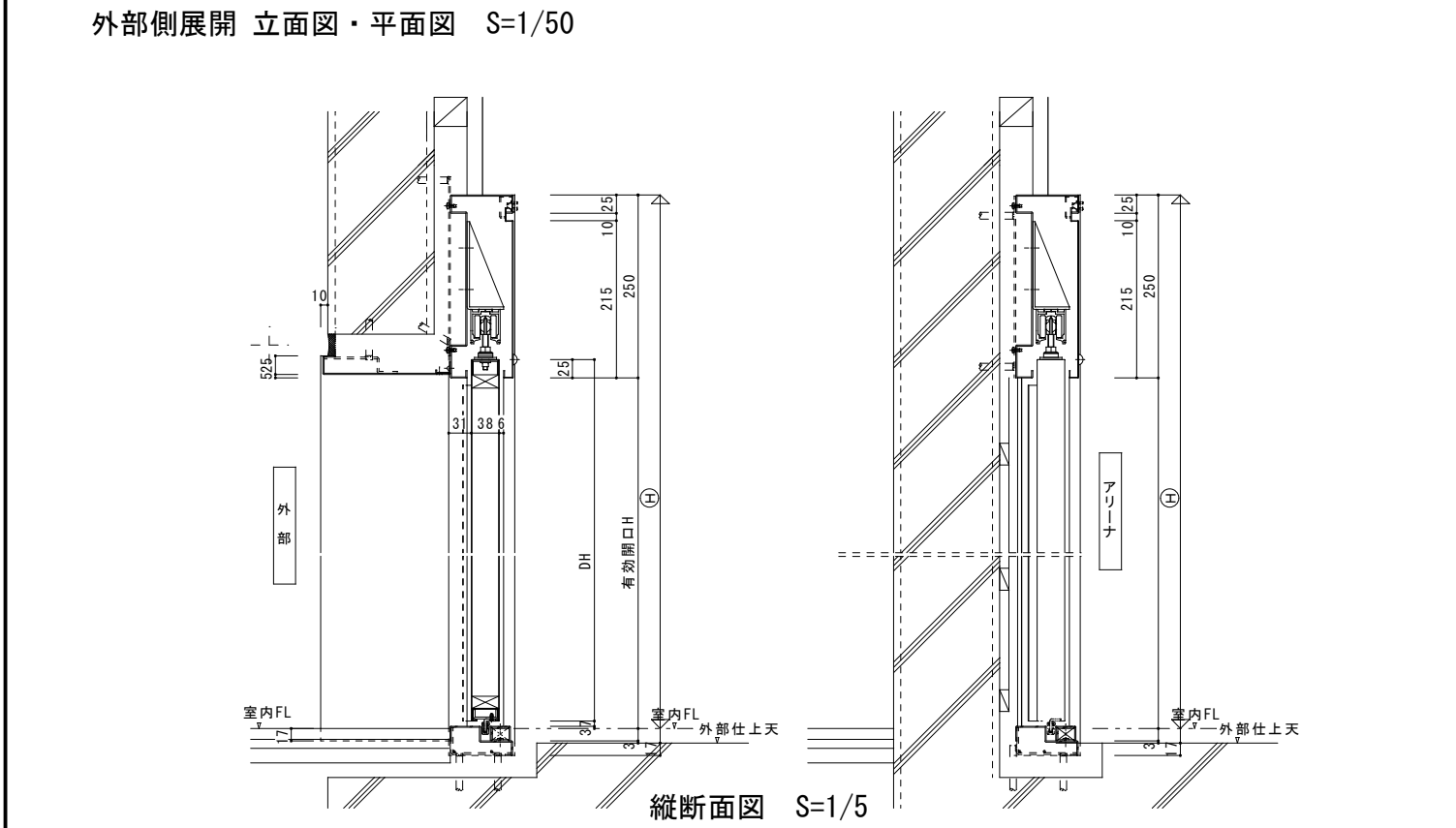
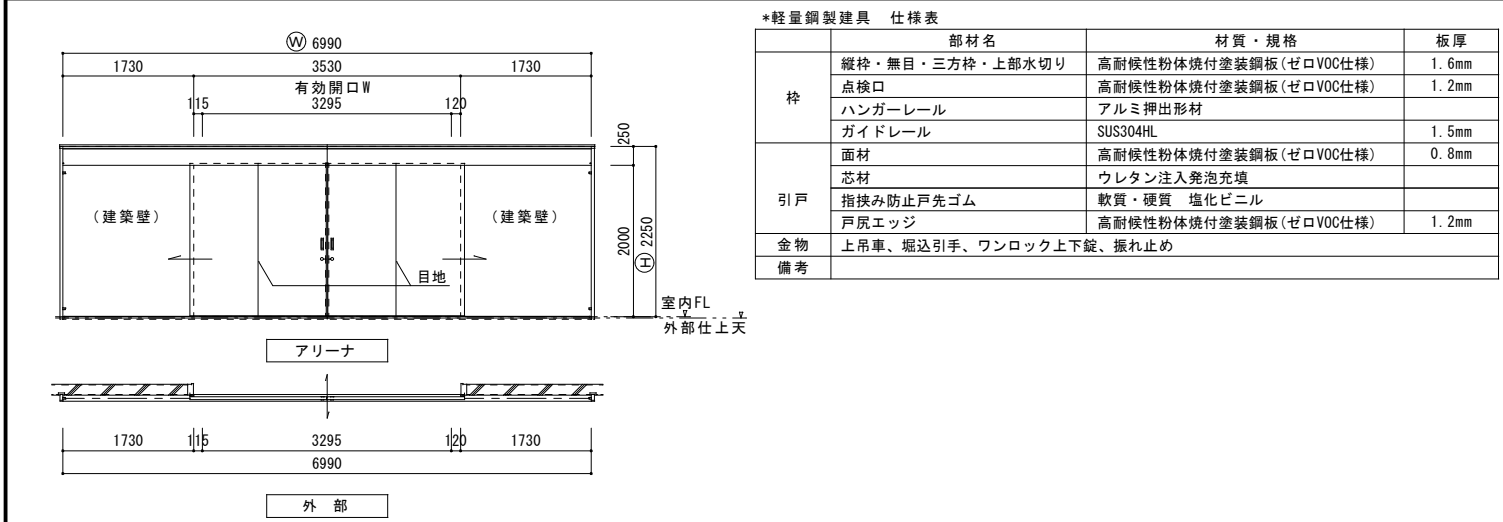




記 号	1 AW	引違いアルミサッシ 調整		2 AW	引違いアルミサッシ 調整		3 AW	引違いアルミサッシ 調整		4 AW	引違い3連アルミサッシ 調整		
姿 図													
位 置・数 量	体育室：9か所			控室1, 2：(各1か所) 計2か所			ステージ下倉庫：2か所			ステージ下倉庫：1か所			
仕 上・ガラス	アルミ(標準仕様) スリ板ガラス t3.0			アルミ(標準仕様) スリ板ガラス t3.0			アルミ(標準仕様) スリ板ガラス t3.0			アルミ(標準仕様) スリ板ガラス t3.0			
金 物・見 込	クレセント			クレセント			クレセント			クレセント			
備 考	見込) 70			見込) 70			見込) 70			見込) 70			

記 号		5 AW 引違い連窓アルミサッシ 調整, 断熱フィルム張り (南面のみ), オペレーター更新											
姿 図													
位 置・数 量	体育室：2か所												
仕 上・ガラス	アルミ(標準仕様), 透明板ガラス t5.0. 網戸												
金 物・見 込	クレセント, オペレーター												
備 考	見込) 70												

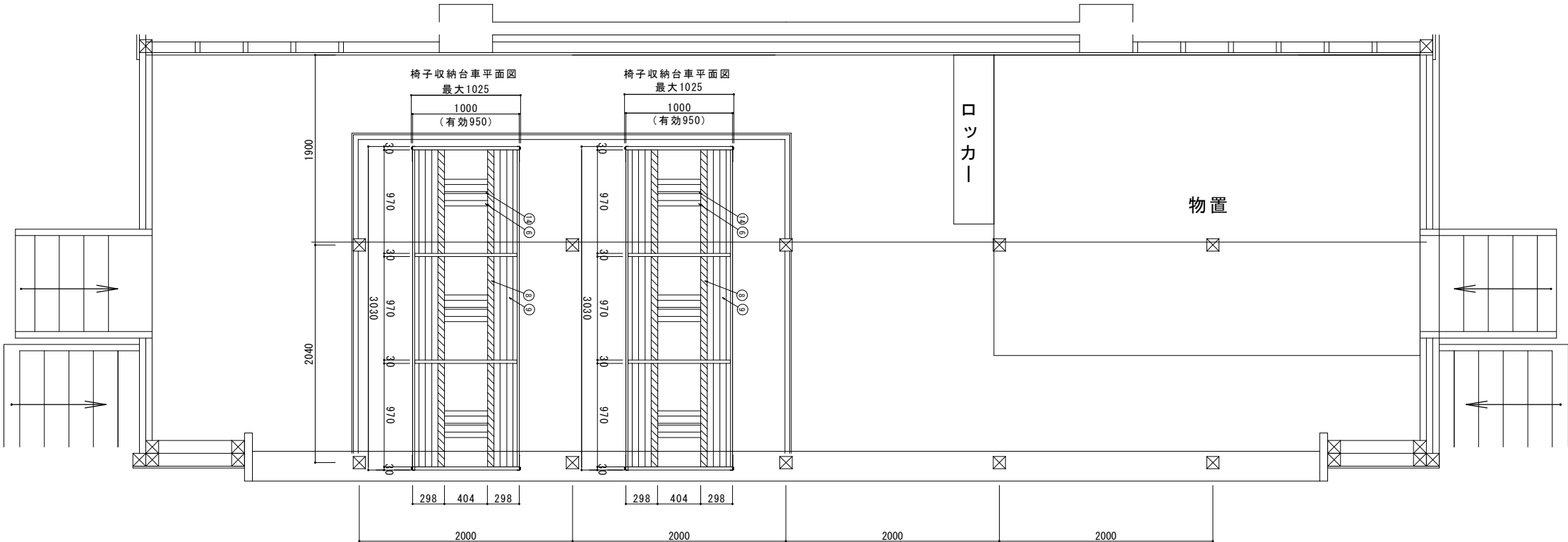
記 号	1WD 両開きポリ合板フラッシュ戸 撤去(扉のみ)		2WD 引違いポリ合板フラッシュ戸 現況のまま				1SD 鋼製引き分け戸 撤去(枠共)		2SD 鋼製引違い戸 撤去(扉のみ)	
姿 図										
	1,600		10,000				3,600		2,800	
位 置・数 量	体育室：2か所		体育室(ステージ下)：1か所				体育室：1か所		体育室：1か所	
仕 上・ガラス	ポリ合板フラッシュ戸		ポリ合板フラッシュ戸				焼付鋼板t1.6		焼付鋼板t1.6	
金 物・見 込	蝶番, フランス落とし		引手				引手, 戸車, レール, カ錠		引手, 戸車, レール, 引違い錠	
備 考	見込) 40		見込) 40							



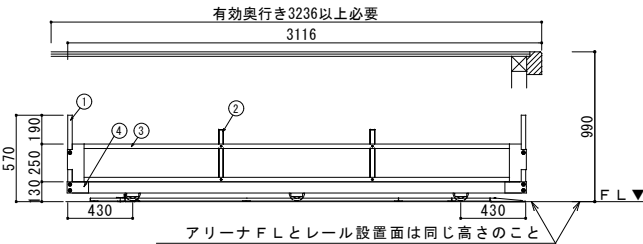
仕 様 ※別途工事

1. MTトラック 椅子収納台車 2ビット2台
寸法 W1000×L3000×H570
椅子積載数 60脚／台 合計120脚積載可能
2. レール下地（モルタル金ゴテ仕上げ）は別途工事

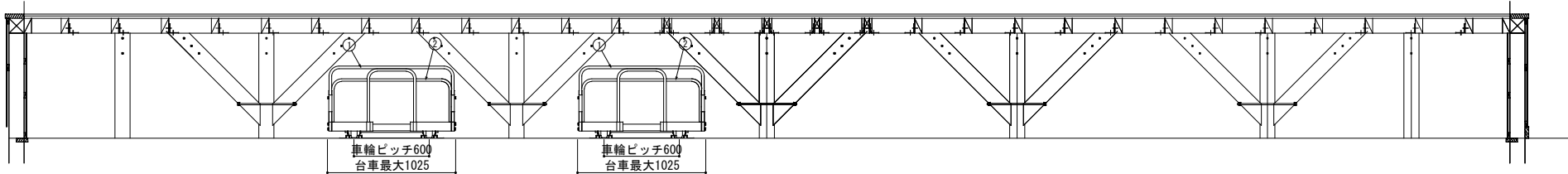
主 要 構 成 部 品 仕 様 書			
品 番	品 名	材 料 ・ 加 工 等	表 面 処 理
1	押 手	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
2	椅子倒れ止め	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
3	サ イ ド柵	角鋼管 30*20*1.2	亜鉛メッキ
4	コーナーガセット	鋼板 2.3 t	黒色焼付
5	連結P L T 1	鋼板 2.3 t	亜鉛メッキ
6	車輪サポート	鋼板 2.3 t	黒色焼付
7	補助サポート	鋼板 2.3 t	黒色焼付
8	椅子滑り止め	ポリエチレンシート	
9	床 板	亜鉛メッキ鋼板 1.0 t	亜鉛メッキ
10	ストッパー	鋼材 4.5 t	黒色焼付
11	レールサポート	鋼板 1.6 t	亜鉛メッキ
12	ガイドレール	鋼板 1.6 t	亜鉛メッキ
13	車輪ガイドベース	鋼板 1.6 t	亜鉛メッキ
14	車 輪	丸棒 φ17	亜鉛メッキ
15	軸 受	鋼材 4.5 t	黒色焼付
16	車 輪	車輪外径 φ100 MTトラック専用車輪	本体は 亜鉛メッキ
17	オールアンカー	M8×40	亜鉛メッキ



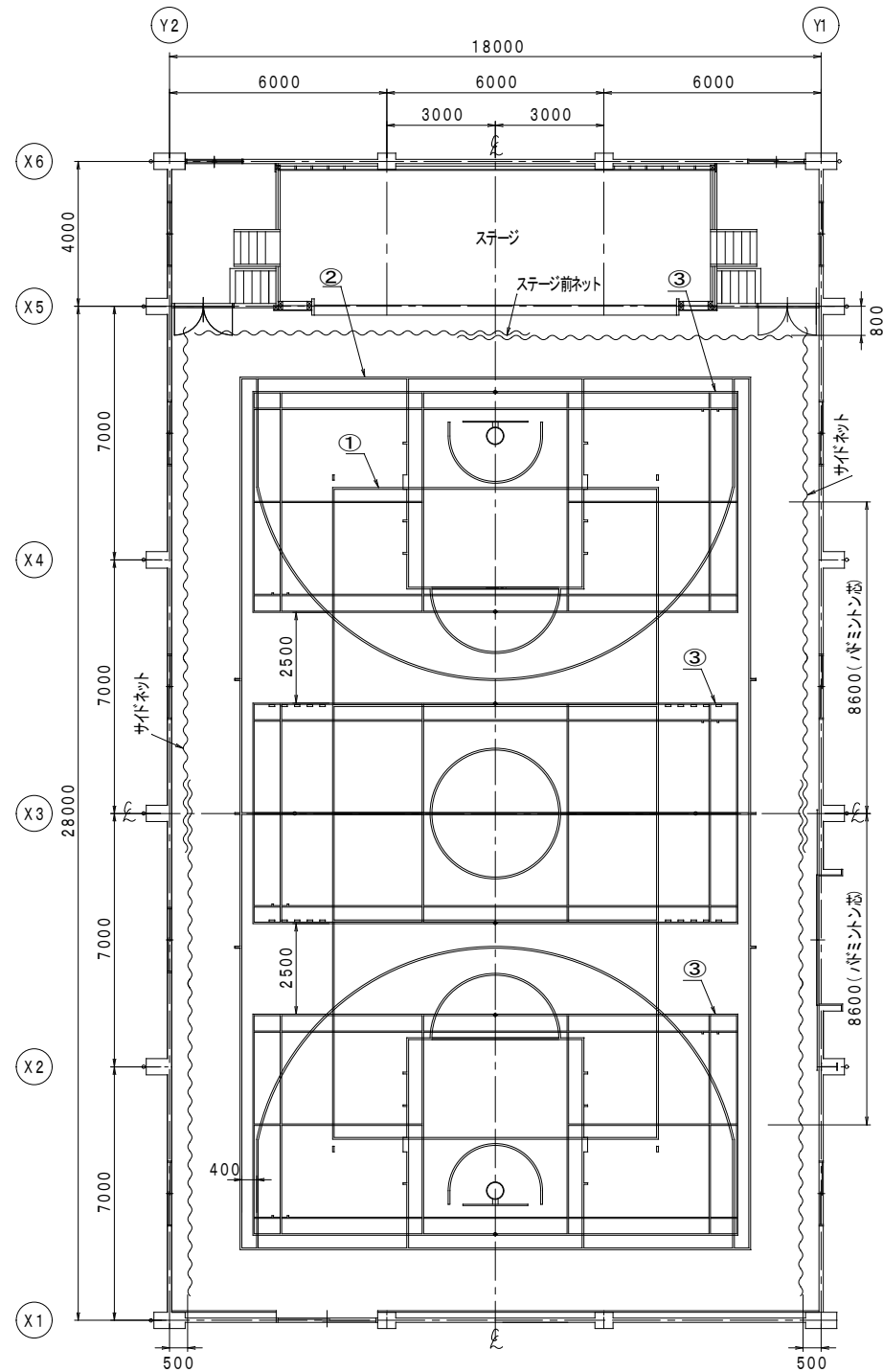
台車収納時平面配置図（S＝1／25）※別途工事



椅子収納台車側面図 ※別途工事



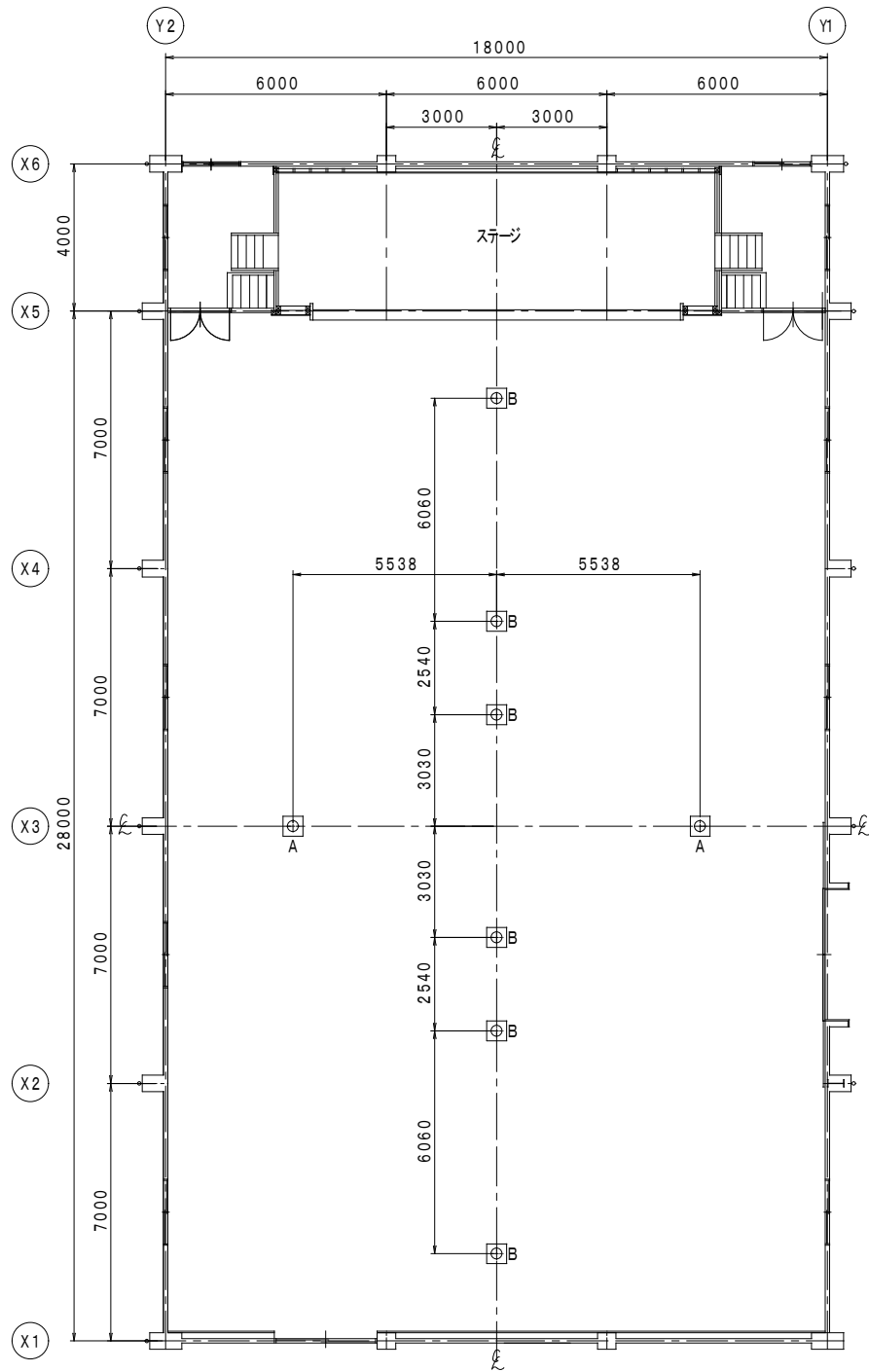
ステージ正面図（S＝1／25）※別途工事



コートライン配置図 S=1/100

コートライン内訳表						
記号	種別	コートサイズ	ライン	ライン幅	面数	色
1	バレーボールコート(6人制)	18000×9000	実線	50mm	1面	1
2	バスケットボールコート	24000×14000	実線	50mm	1面	2
3	バドミントンコート	13400×6100	実線	40mm	3面	3

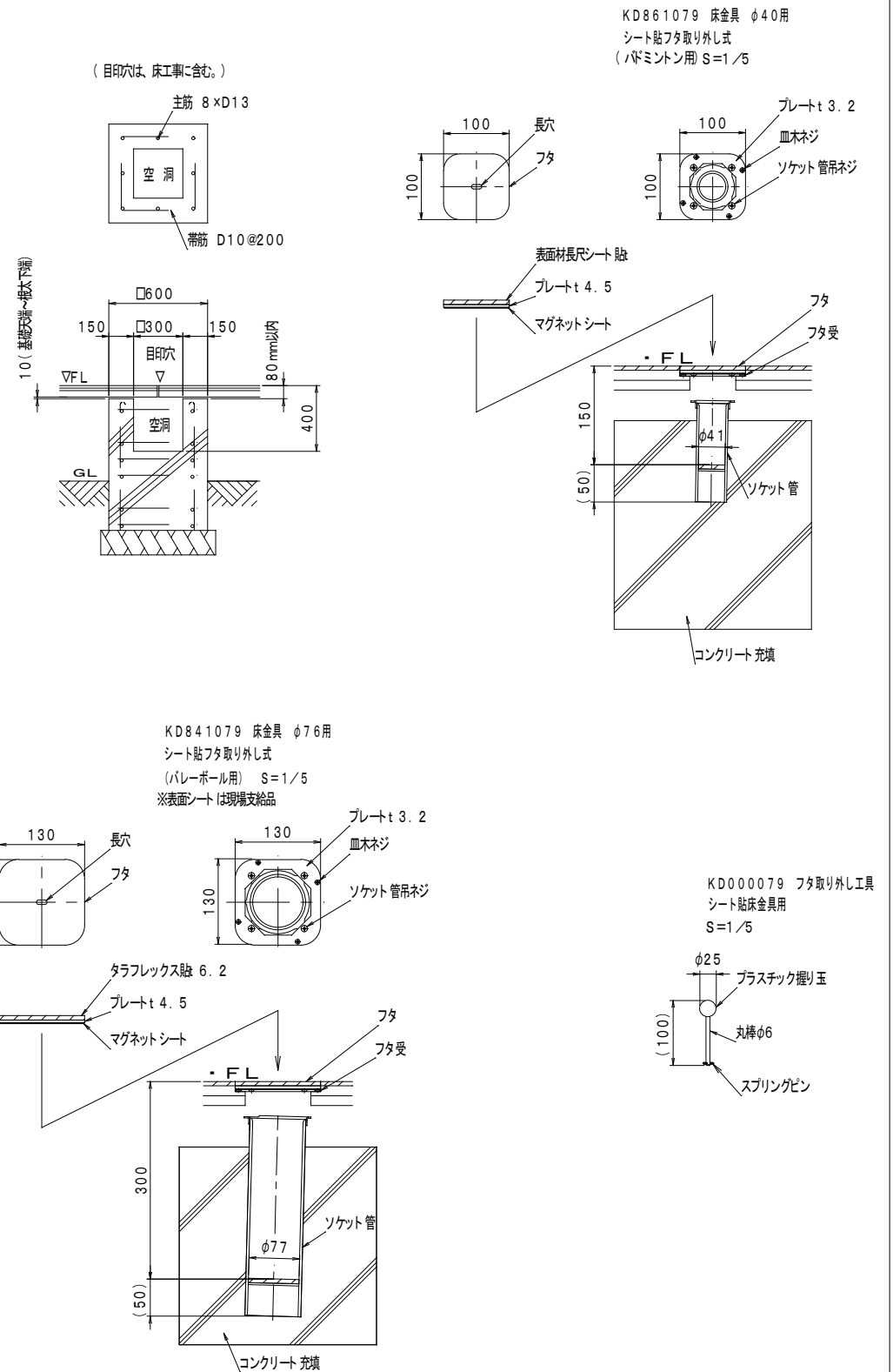
※各コートラインの色と優先順位は、上記の番号順とするが監督職員と協議の上最終決定とする事。
※バレーボール(6人制)はアタックライン延長破線を面線する事。
◆注記
1) バスケットコートのみライン内側がコート寸法とする。左記以外はライン外側がコート寸法とする。

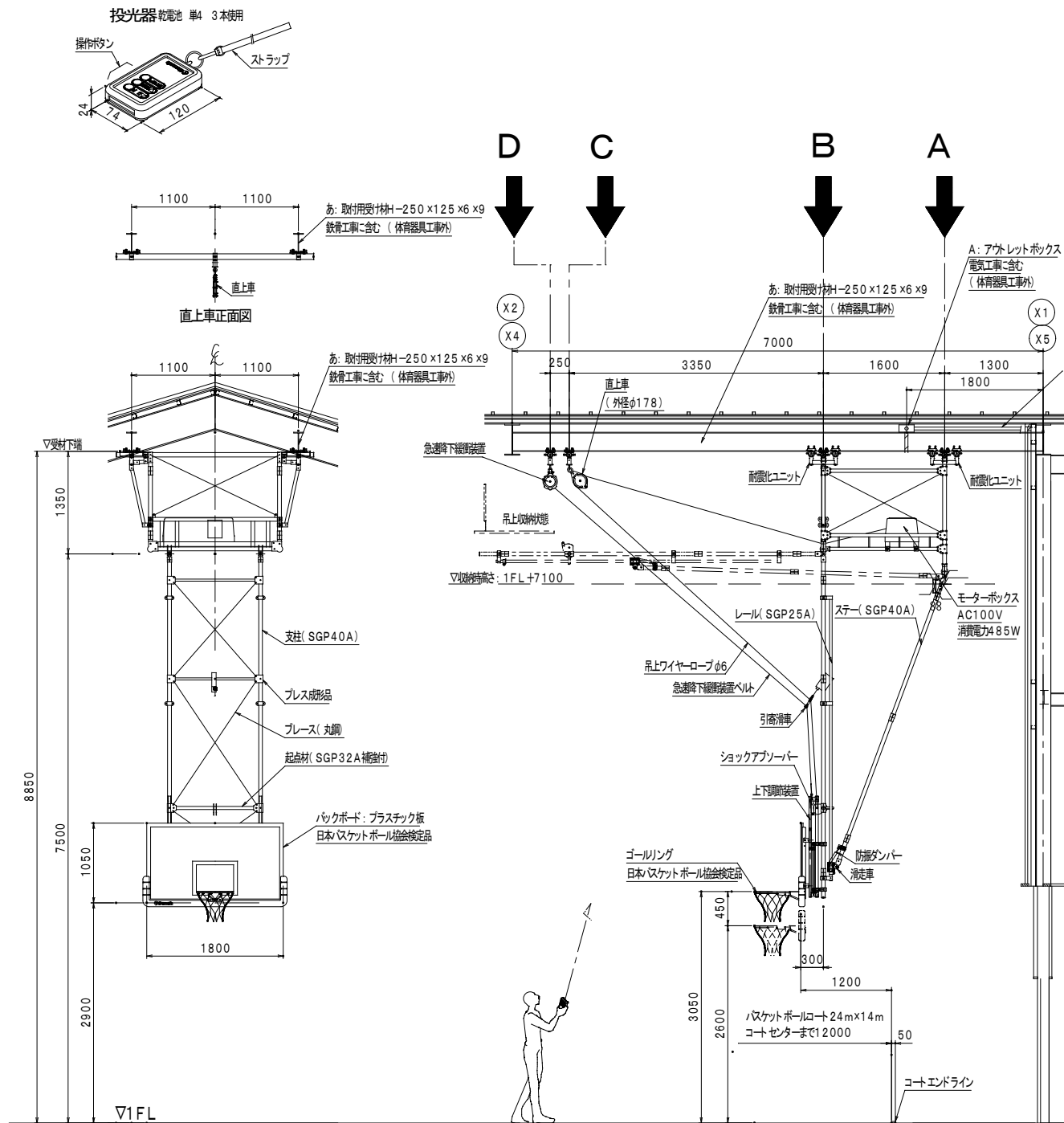


基礎配置図 S=1/100

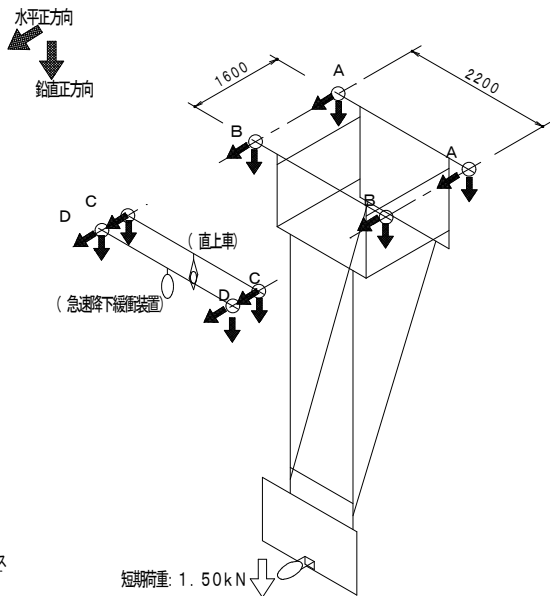
基礎内訳表		
記号	種別	数量
A	バレーボール用基礎	2個
B	バドミントン用基礎	6個
合計		8個

基礎参考図 S=1/20





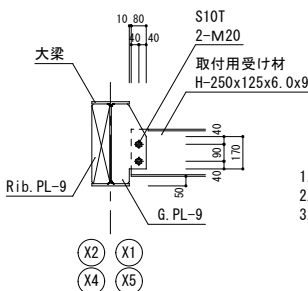
DA213571 吊下バスケットゴール 前方吊上げ投光電動式 S=1/50
(日本バスケットボール協会検定品) ショックアブソーバー搭載急送降下緩衝装置付
DA100T41 耐震化ユニット
DA100V01 防振ユニット



本体 約484kg
直上車部 約40kg 急送降下緩衝装置 約40kg

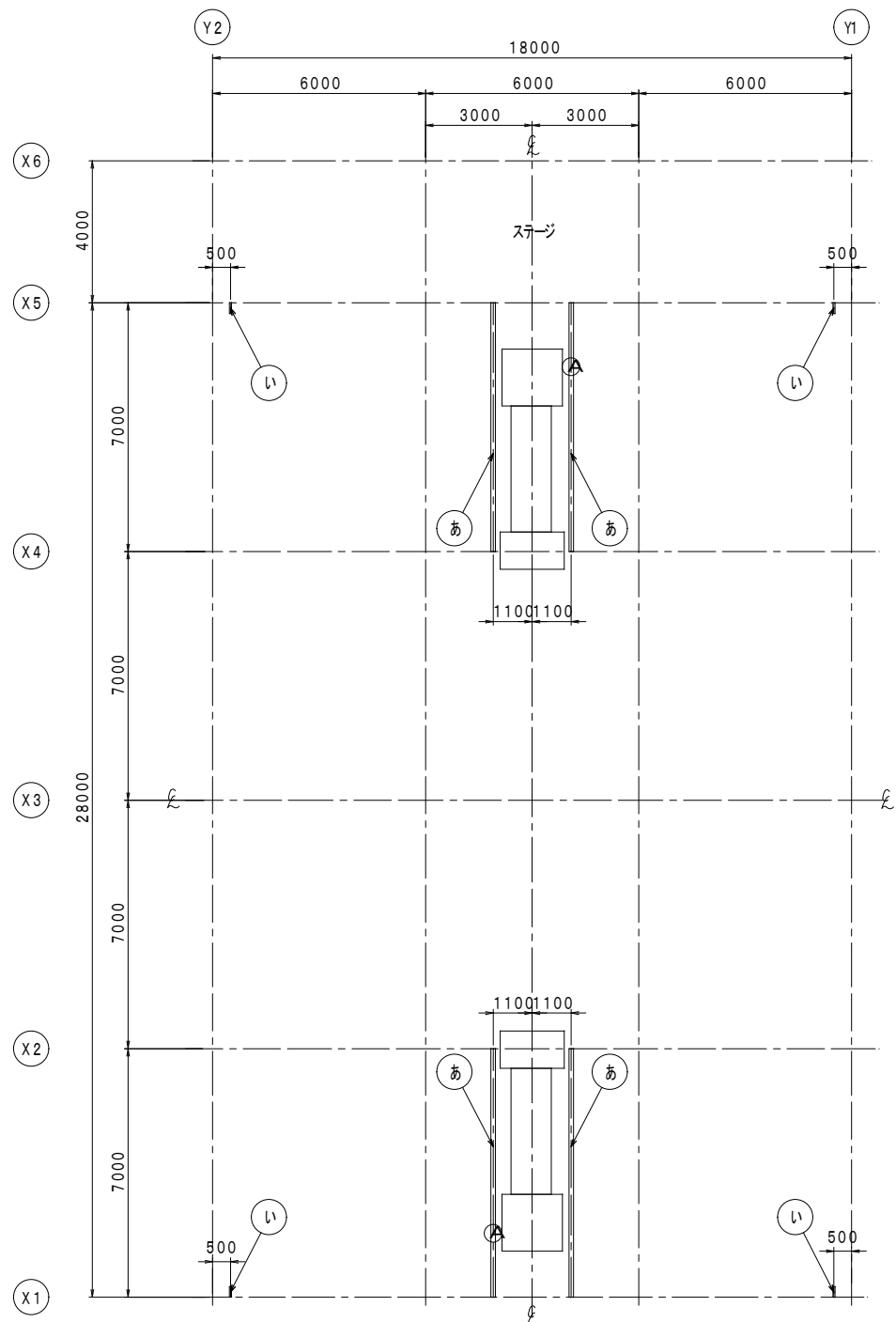
①吊下使用時(短期荷重)	
A部にかかる荷重(水平方向)	0kN
(垂直方向)	1.00kN
B部にかかる荷重(水平方向)	0kN
(垂直方向)	2.12kN
C部にかかる荷重(水平方向)	0kN
(垂直方向)	0.20kN
D部にかかる荷重(水平方向)	0kN
(垂直方向)	0.20kN

②吊上状態時(長期荷重)	
A部にかかる荷重(水平方向)	0.45kN
(垂直方向)	1.62kN
B部にかかる荷重(水平方向)	0.45kN
(垂直方向)	-0.15kN
C部にかかる荷重(水平方向)	-0.91kN
(垂直方向)	1.10kN
D部にかかる荷重(水平方向)	0kN
(垂直方向)	0.20kN



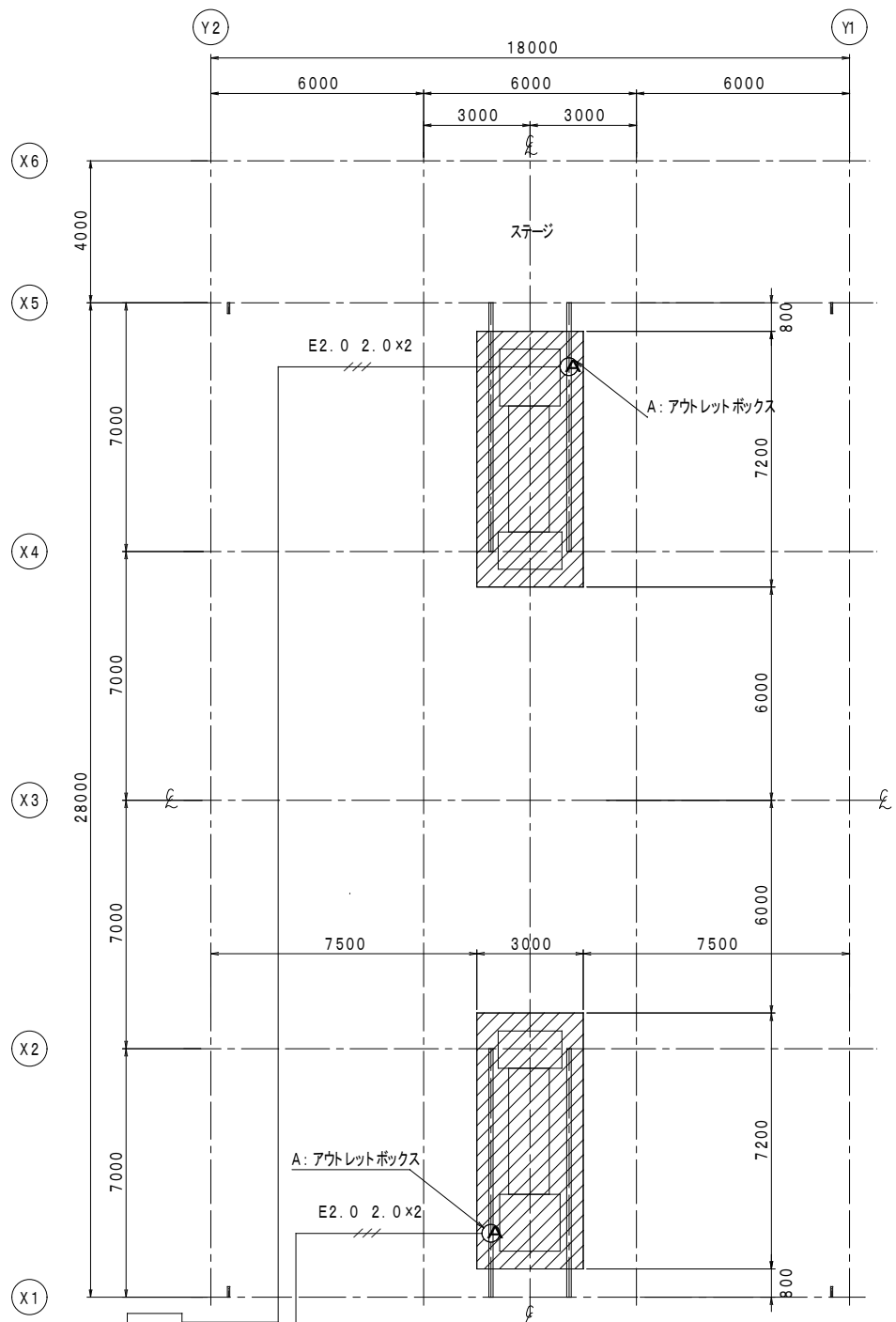
受け材仕口詳細 S:1/20

1. 微細な位置、寸法関係は実測による
2. ガセット、リブは全てすみ肉(回し)溶接とする
3. 仕上げとの取り合いでリブプレートを設けることが困難な場合は取付を省略する



取付用受材伏図 S=1/100

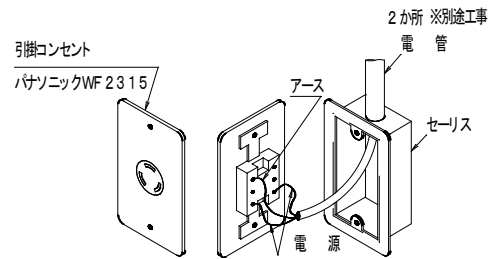
あ: 吊下バスケットゴール取付用受材 H-250 x 125 x 6 x 9 ... 4か所
い: サイドネット取付用受材 φ60.5 x t 3.8 (先端フラ無し) ... 4か所



吊下バスケットゴール用電気配線図 S=1/100

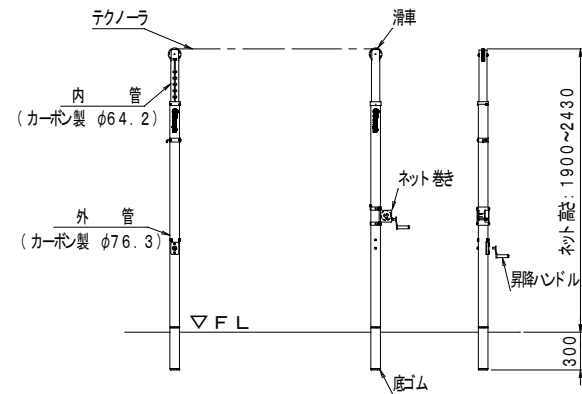
電源 AC100V 20A
配線・配管・分電盤は別途工事
A: アウトレットボックス 別途工事
※斜線部は体育器具取付の為、干渉の恐れのある照明等は取り付けない。

A部アウトレットボックス詳細



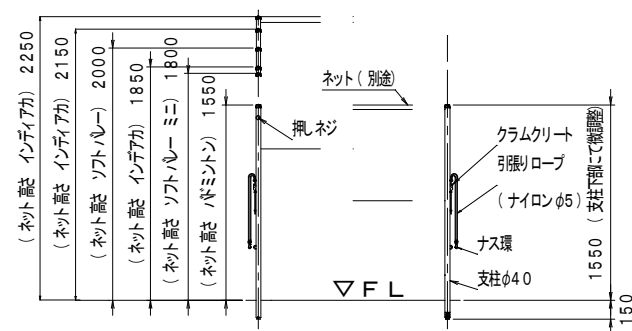
DE530000 バレーボール用支柱【2組】

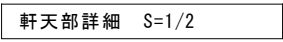
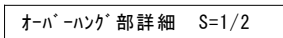
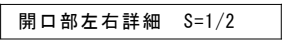
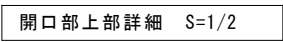
カーボン製 ベベルギヤ式 S=1/30



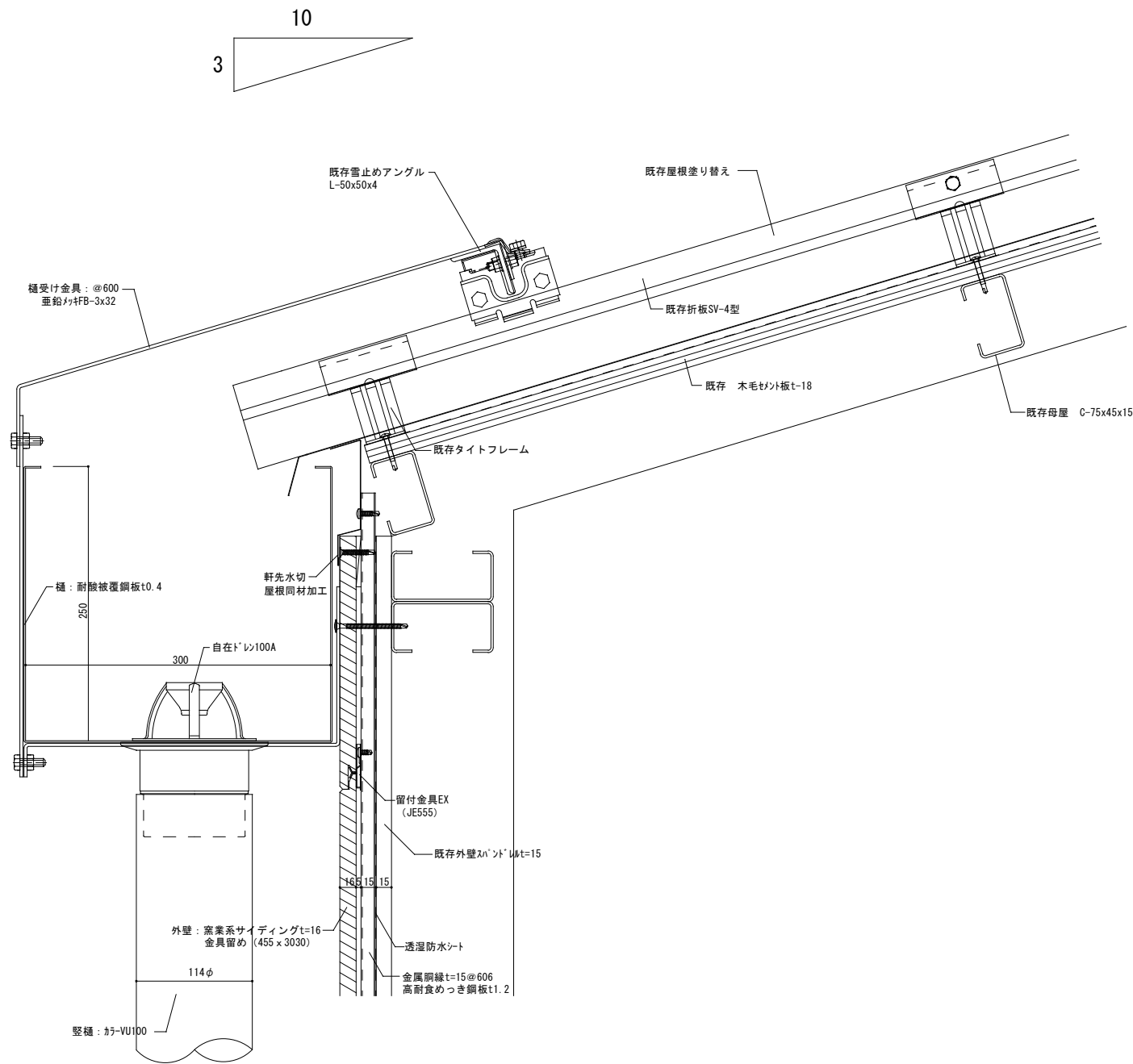
DE453100 兼用支柱(差込式)【3組】

日本バミントン協会検定品 S=1/30

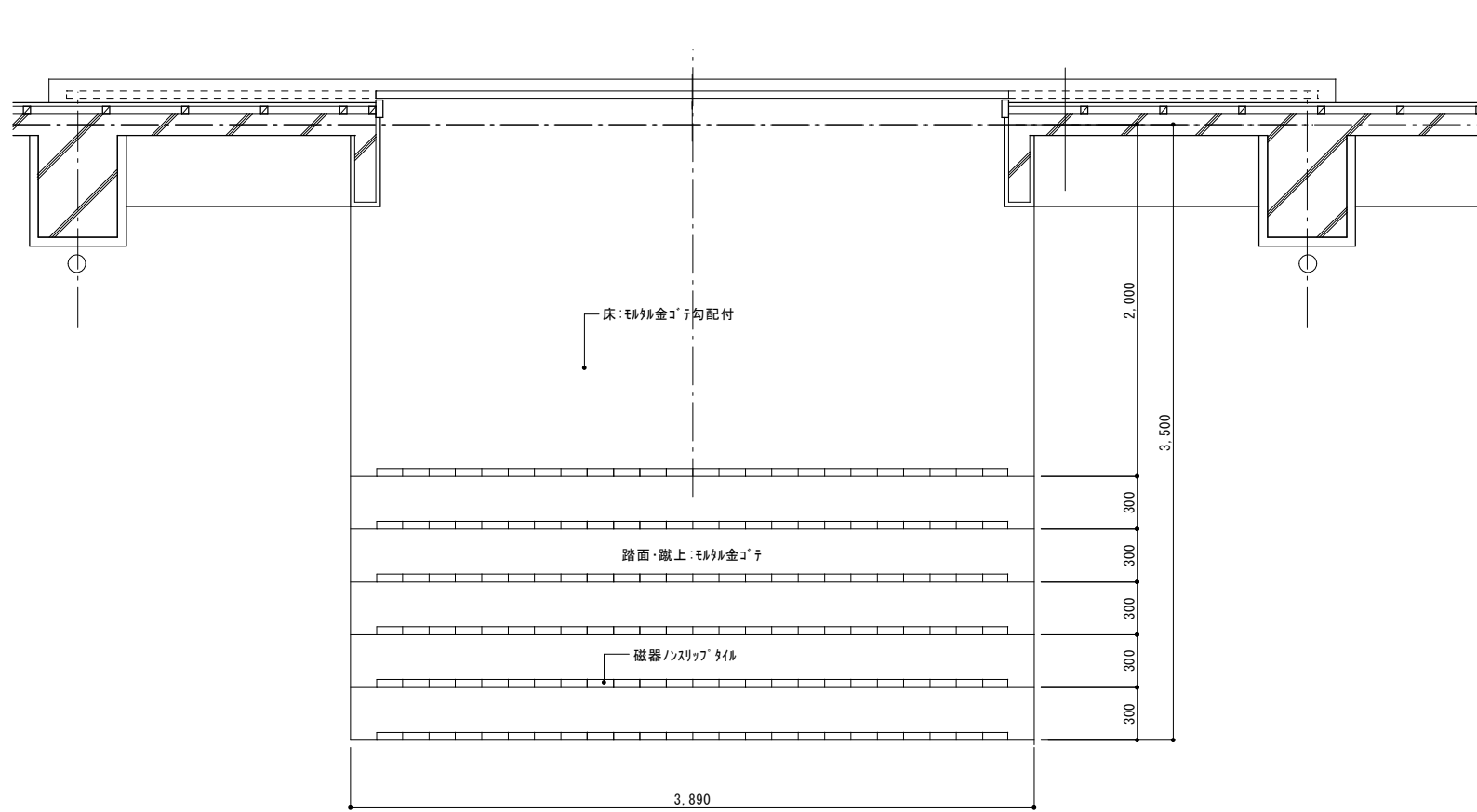




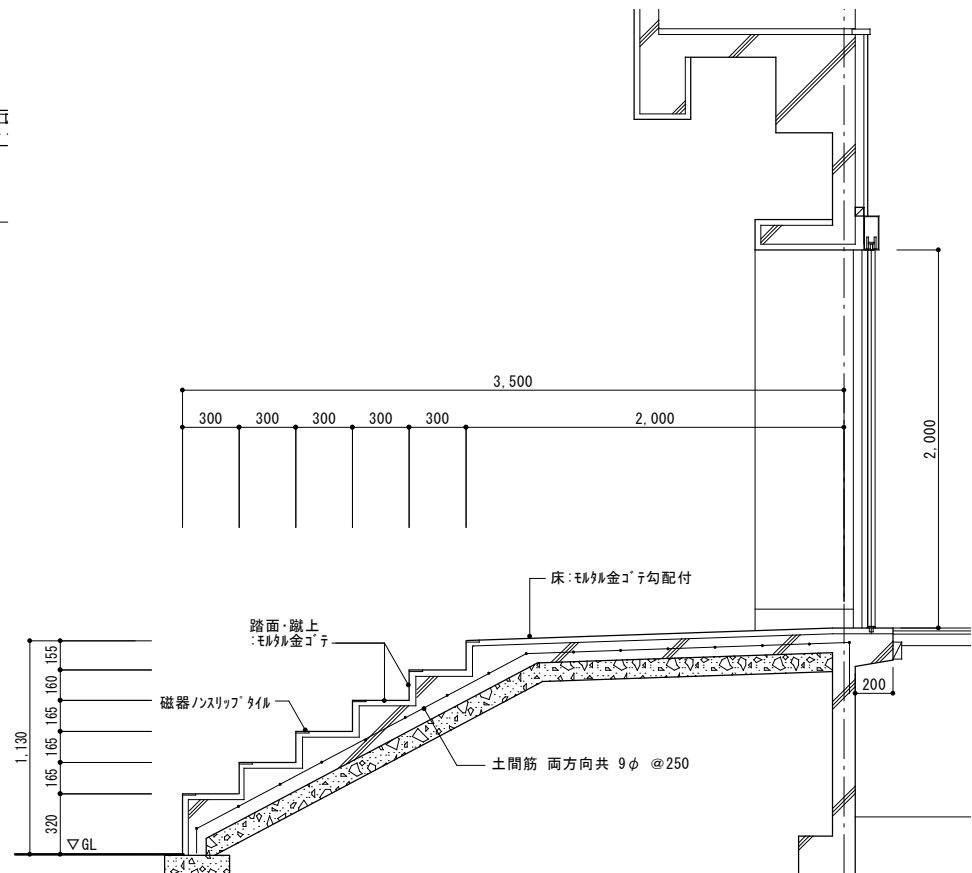
既存RC躯体取合い部詳細 S=1/2



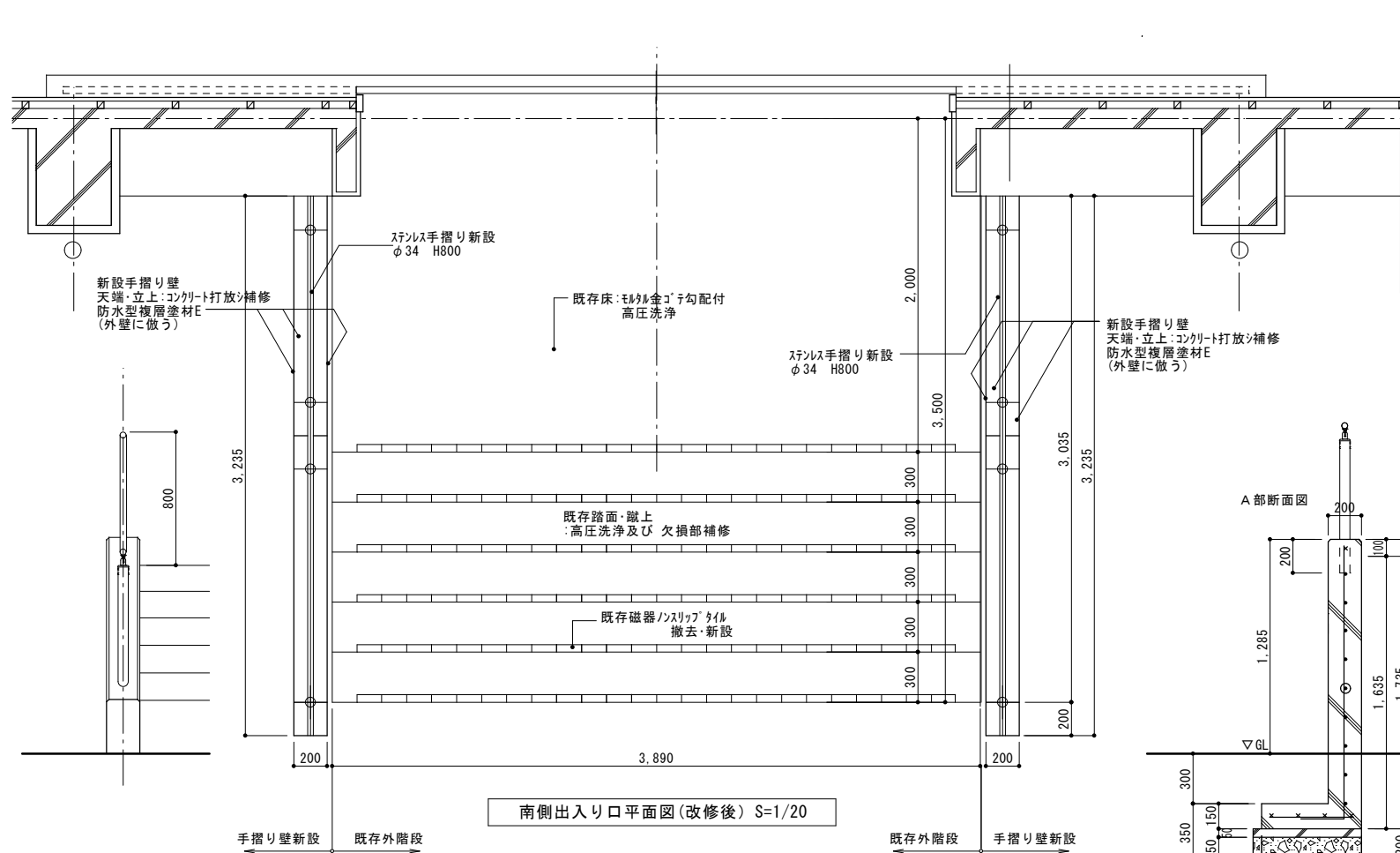
屋根と壁取合い部詳細図 S=1/3



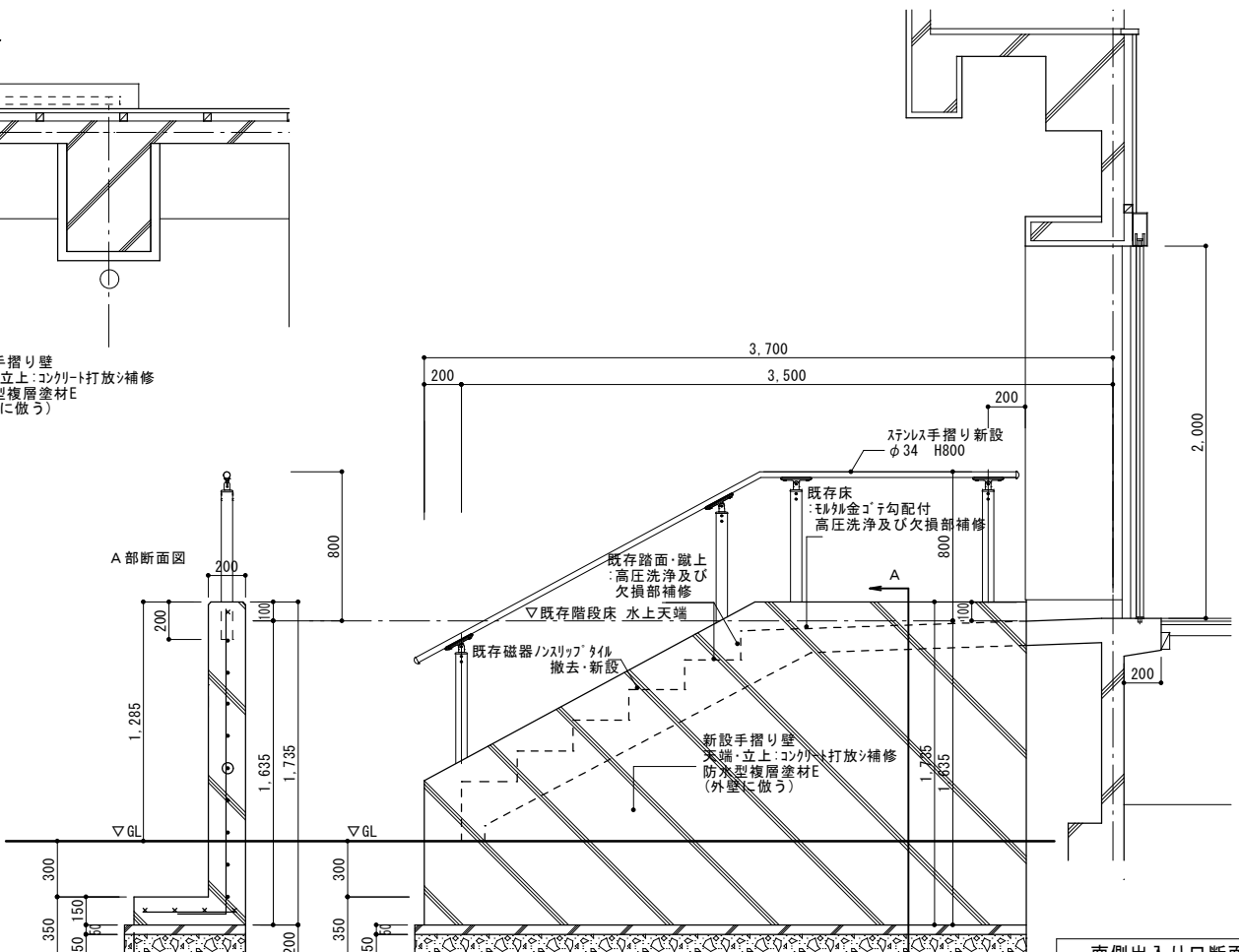
南側出入口平面図(改修前) S=1/20



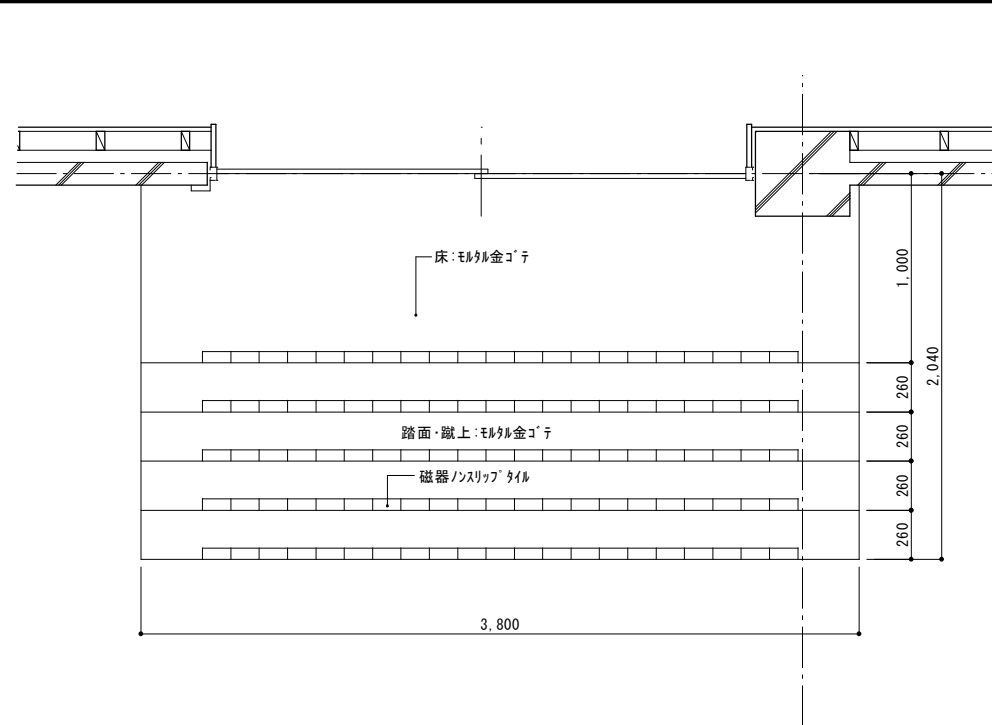
南側出入口断面図(改修前) S=1/20



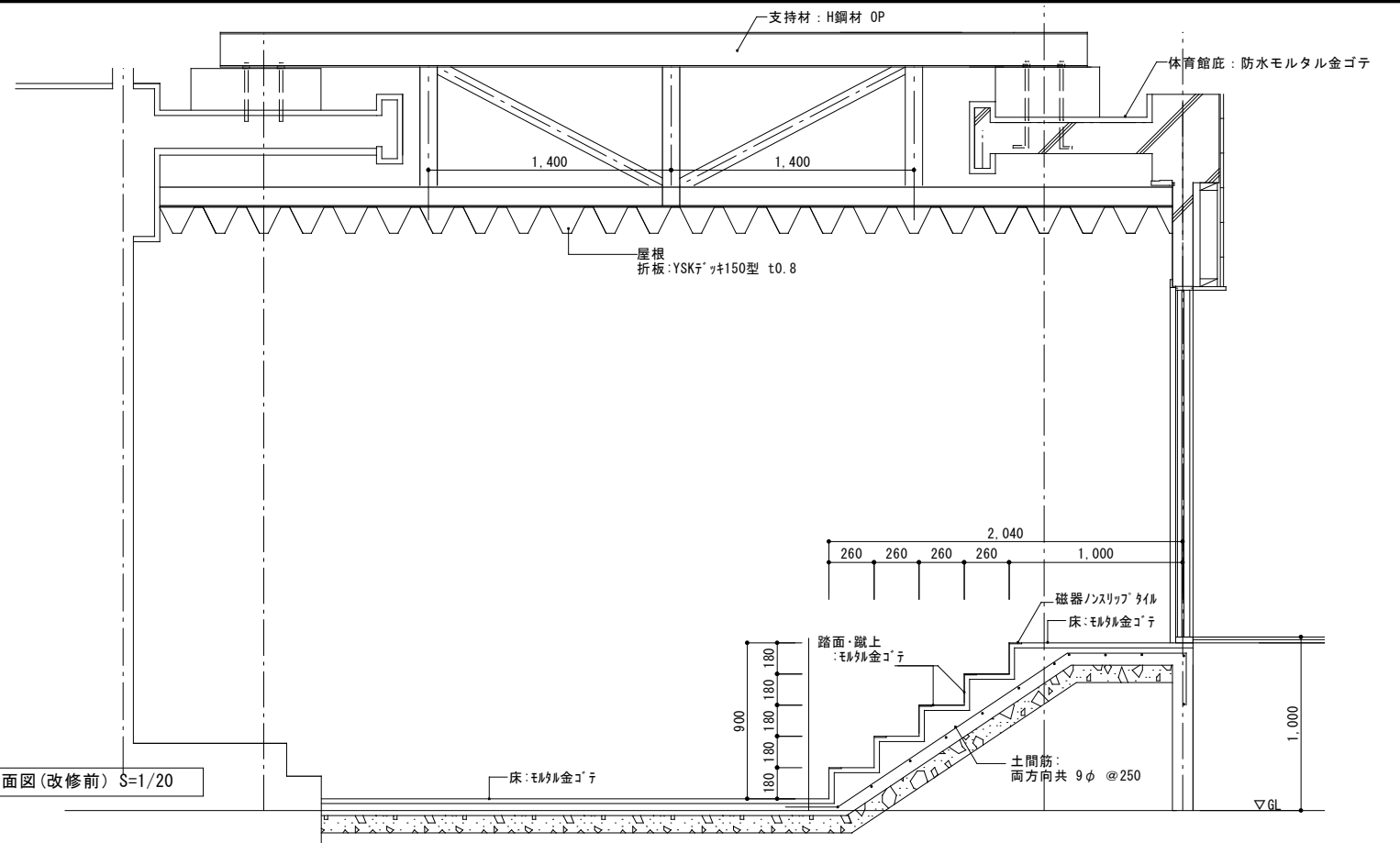
南側出入口平面図(改修後) S=1/20



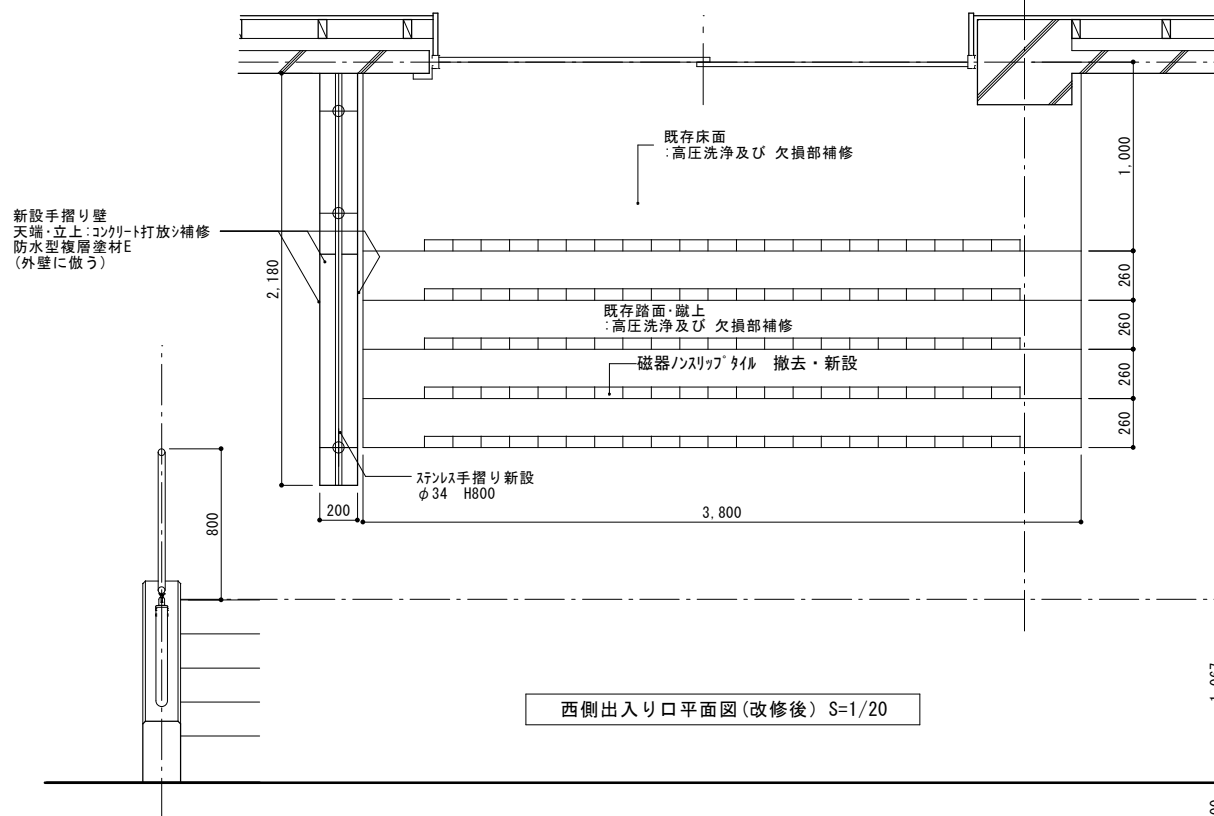
南側出入口断面図(改修後) S=1/20



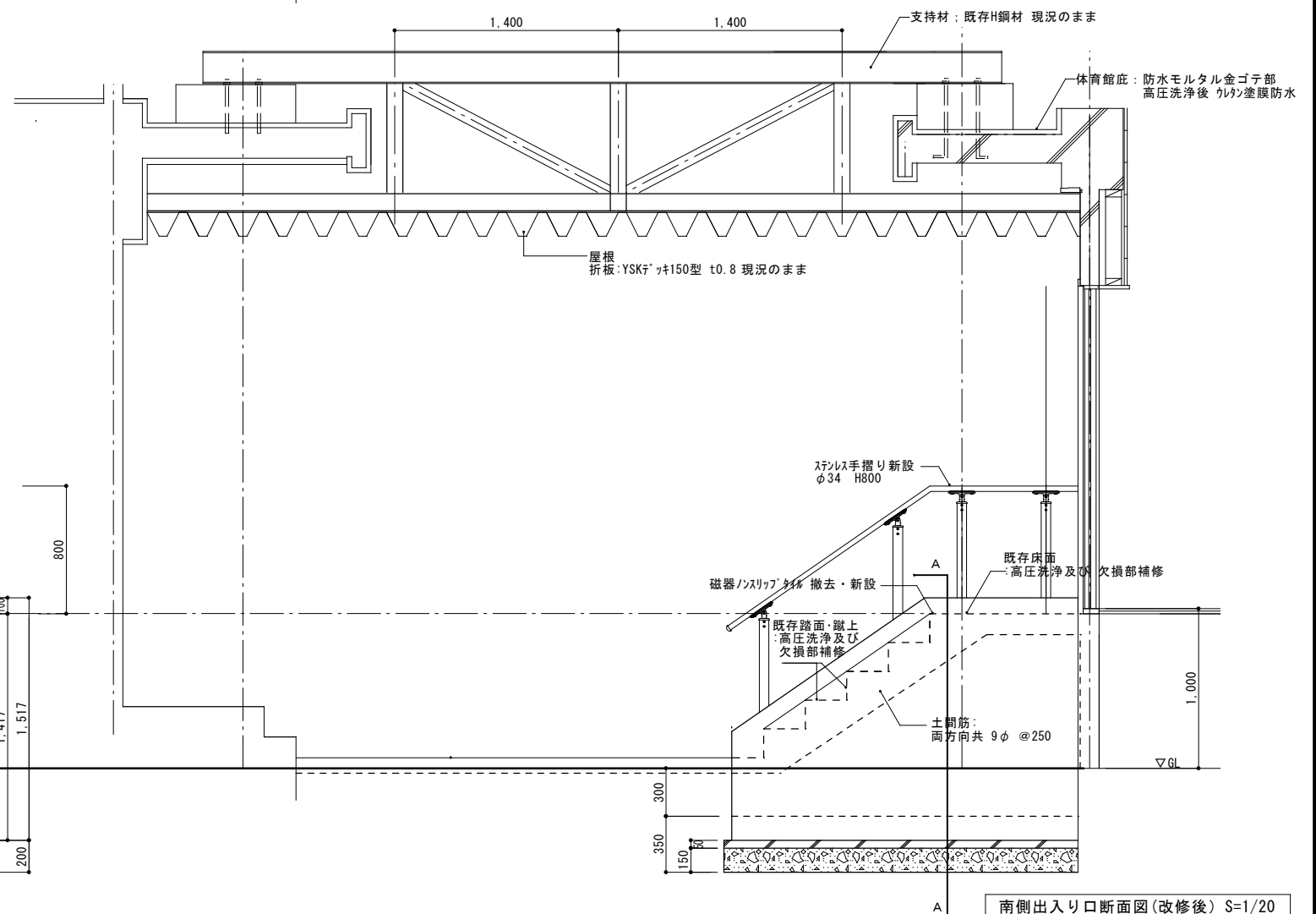
西側出入口平面図(改修前) S=1/20



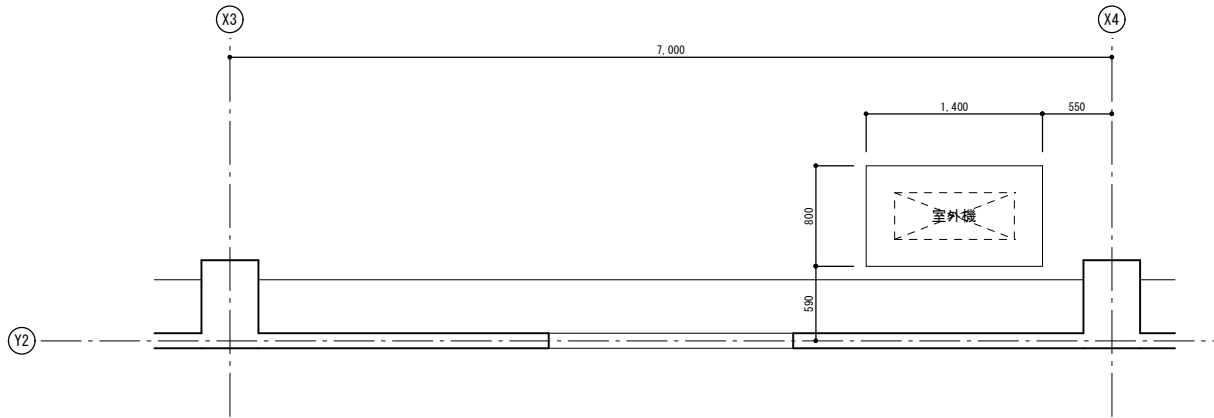
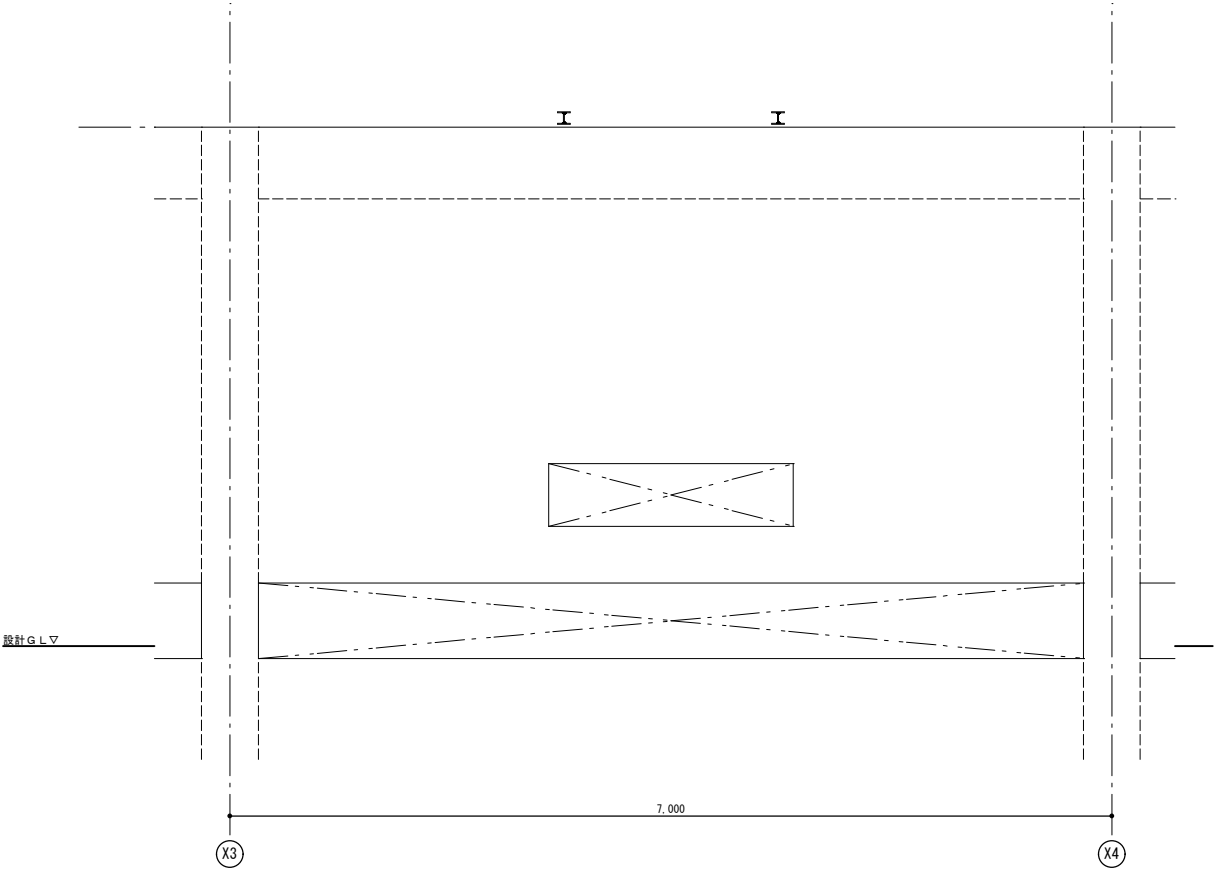
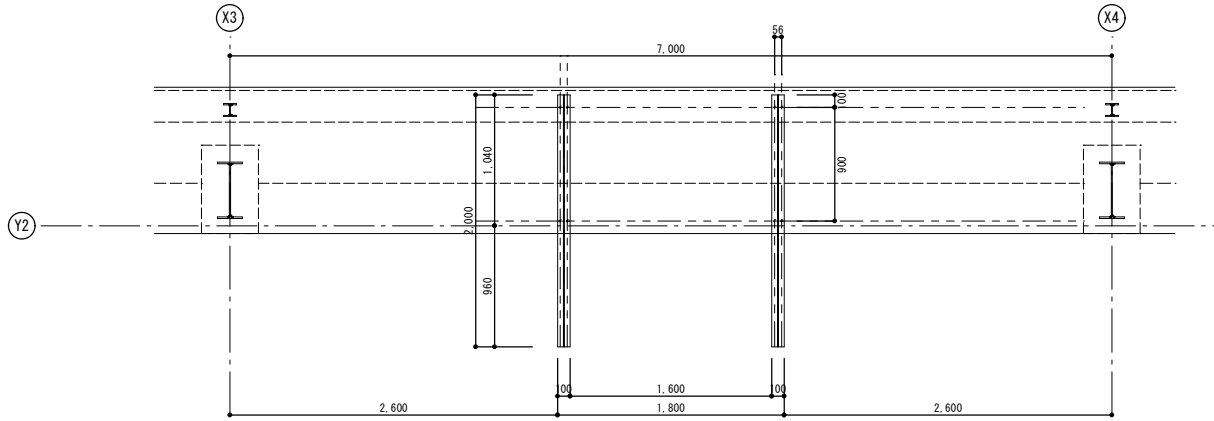
南側出入口断面図(改修前) S=1/20



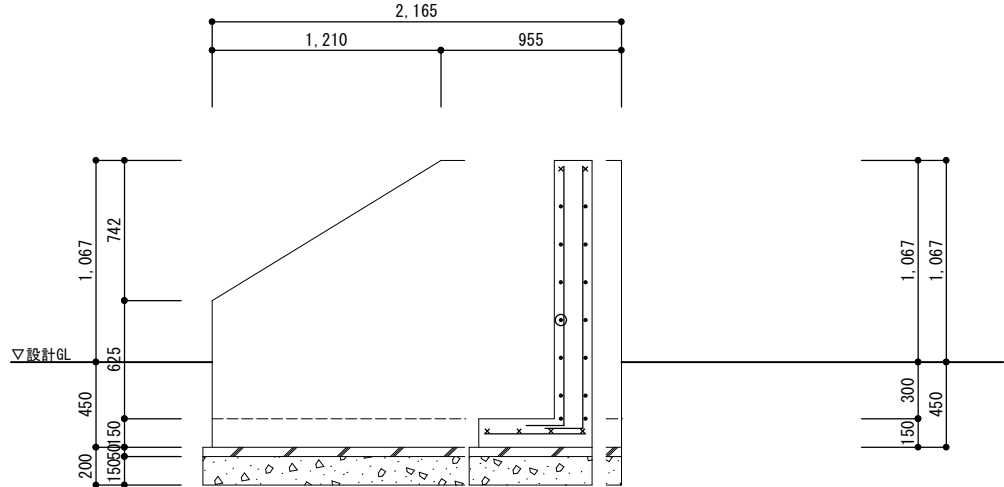
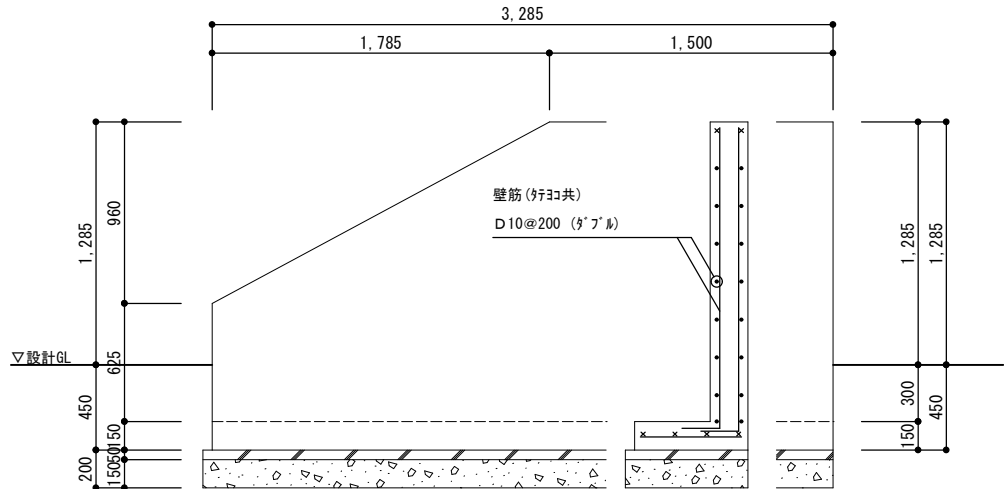
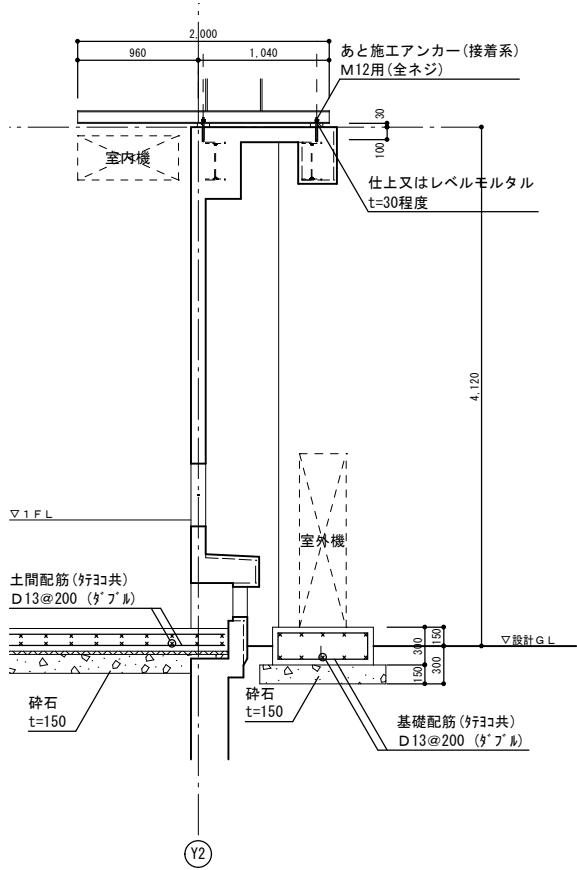
西側出入口平面図(改修後) S=1/20



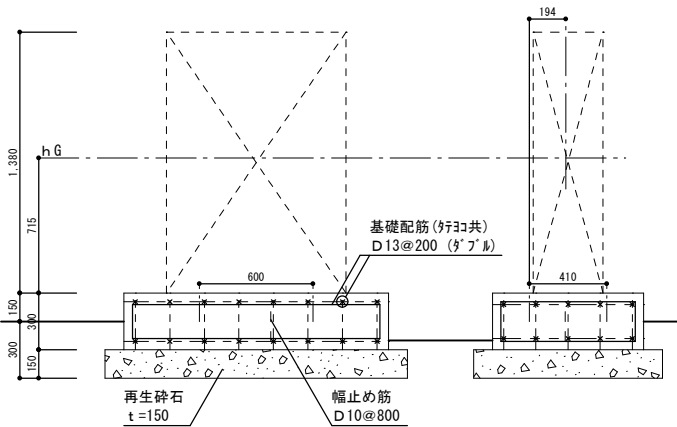
南側出入口断面図(改修後) S=1/20



屋内外設備機器設置詳細図 S=1/30



屋外階段手摺基礎配筋詳細図 S=1/ 20



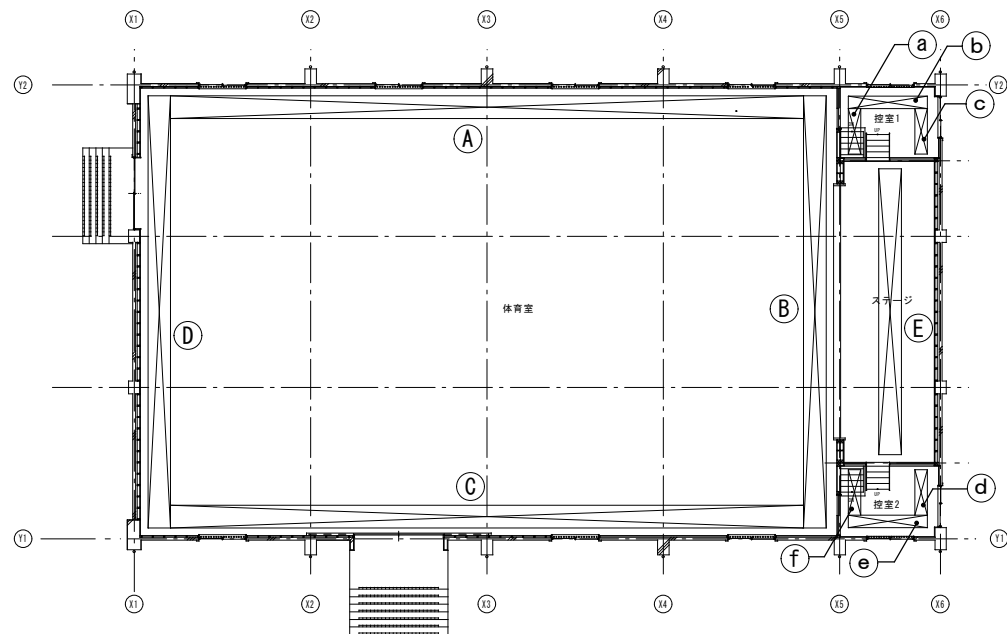
屋外設備基礎配筋詳細図 S=1/20

-特記事項-

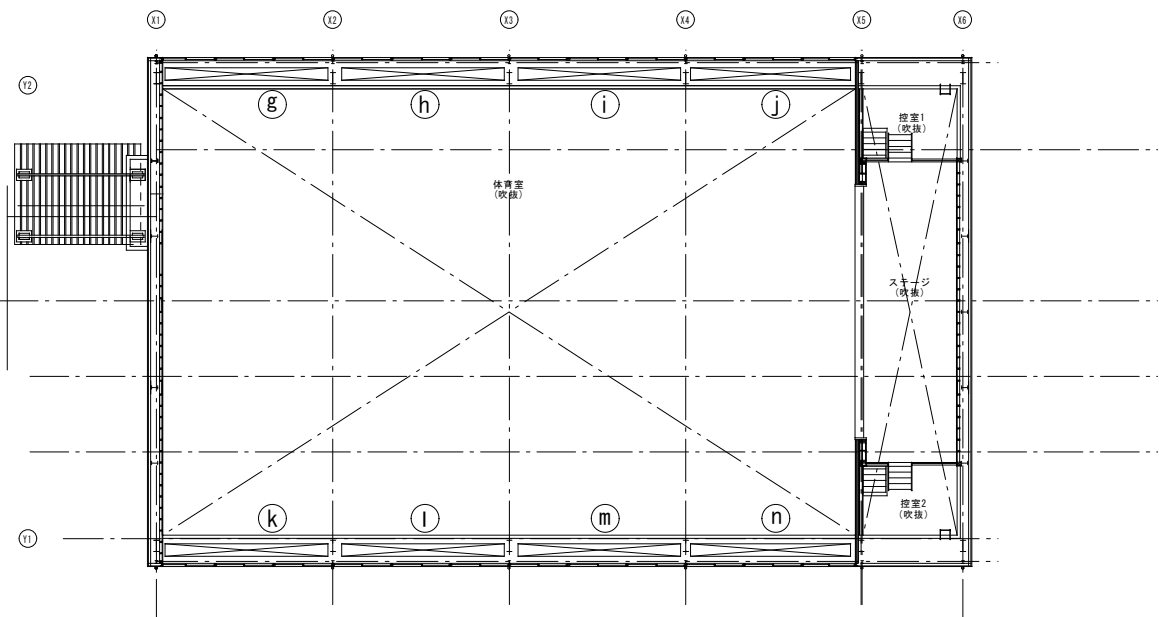
- 改修に伴い他への影響が出る部分(鉄骨梁ののる床面、等)は十分現況状態の調査を行い、増設材との取り合いで支障が無いよう注意する。
- 接着系アンカーの埋込長については躯体での寸法であるので、レベル調整などのほか寸法も考慮して長さを決定する。また、コンクリート内の鉄骨梁位置にも十分注意し、躯体を痛めないように配慮する。
- 鉄骨梁に取り付ける設備機器との接合部の位置関係は、選定する機器により異なることから設備工事側と打ち合わせを行う。その際、鉄骨梁の幅方向等の位置関係で支障が生じるようであれば、梁位置について協議を行う。梁に設ける接合のためのボルト孔等は設備工事で必要なサに合わせる。
- 屋外に設ける室外機基礎についても、設置のためのアンカー位置は選定された機器の仕様に合わせて決定する。

使用材料一覧

コンクリート	土間コンクリート	Fc18-15-20	構造体強度補正無し
	基礎コンクリート	Fc21-18-20	構造体強度補正無し
鉄筋	土間配筋	SD295	D13
	基礎配筋	SD295	D10~D13



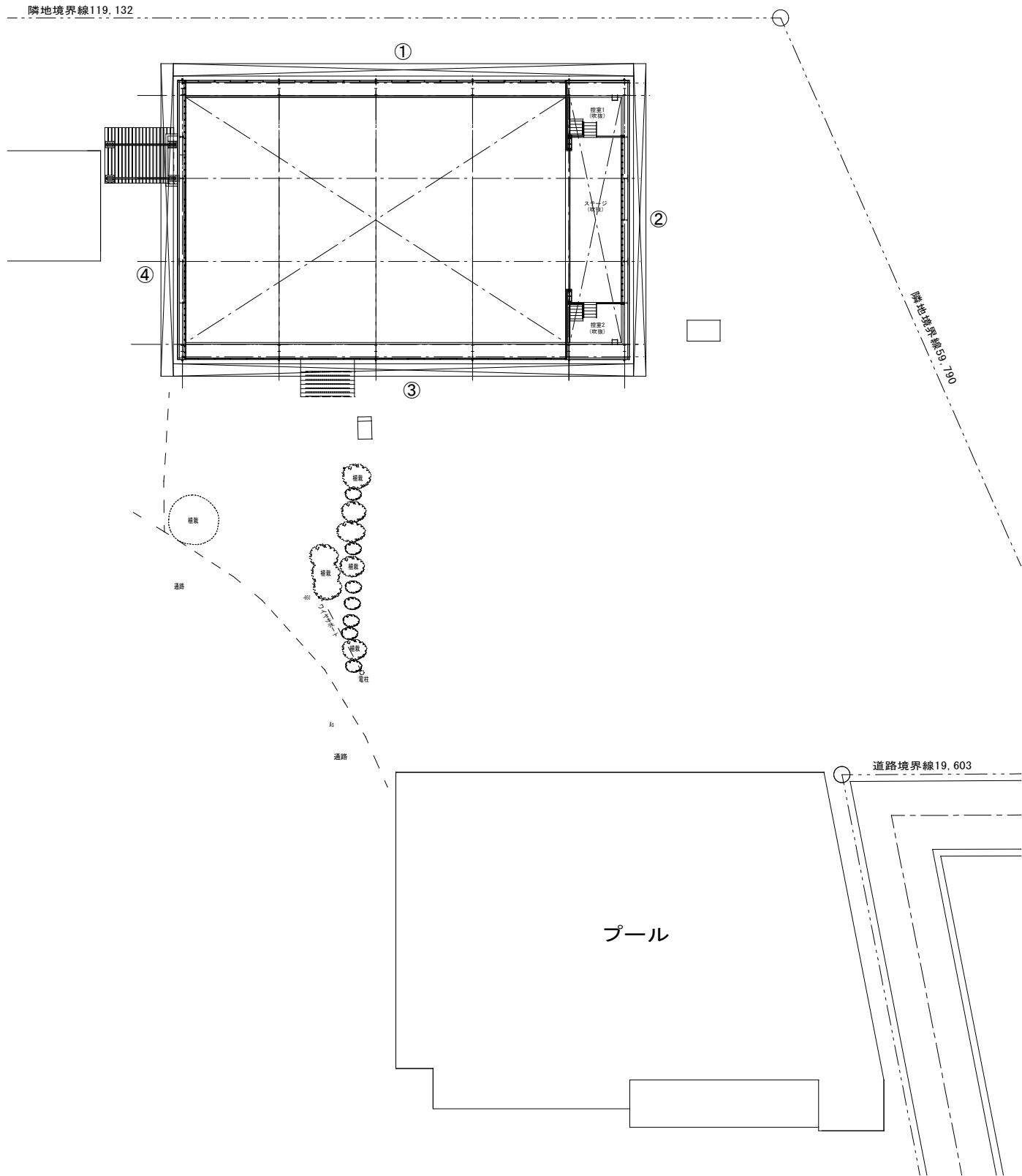
1階 仮設計画図(内部) S=1/150



1階上部 仮設計画図(内部) S=1/150

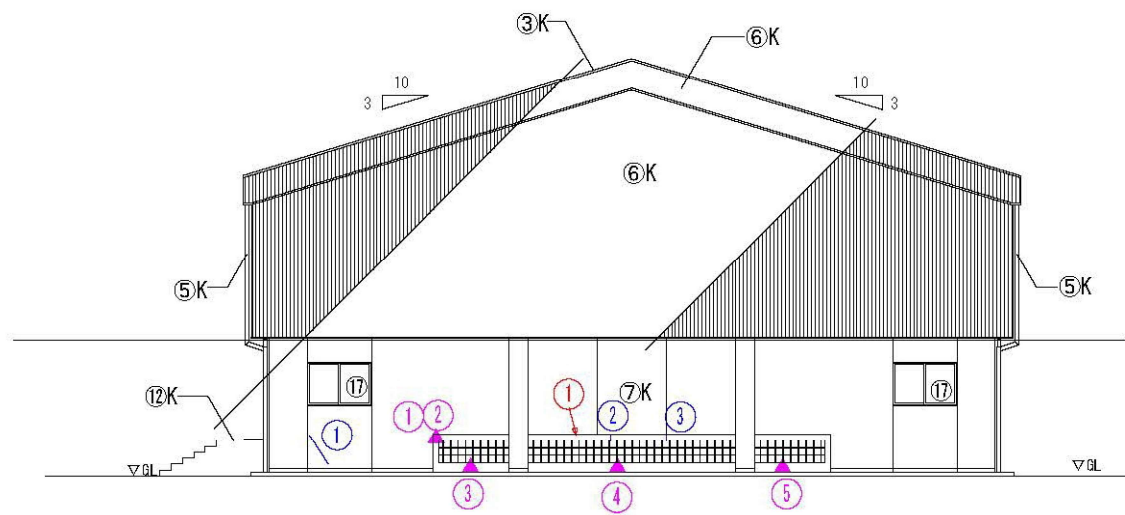
		H	L
Ⓐ	手摺り先行枠組本足場 W900	6.7 m	25.7 m
Ⓑ		6.7~9.7 m	17.8 m
Ⓒ		6.7 m	25.7 m
Ⓓ		6.7~9.7 m	17.8 m
Ⓔ		5.40 m	10.2 m
TOTAL			719.76 m ²

		L
Ⓐ	脚立足場(直列)	1.80 m ²
Ⓑ		3.14 m ²
Ⓒ		1.80 m ²
Ⓓ		1.80 m ²
Ⓔ		3.14 m ²
Ⓕ		1.80 m ²
Ⓖ		6.45 m ²
Ⓙ		6.45 m ²
Ⓚ		6.45 m ²
Ⓛ		6.34 m ²
Ⓜ		6.45 m ²
Ⓝ		6.45 m ²
Ⓟ		6.45 m ²
Ⓡ		6.45 m ²
Ⓢ		6.45 m ²
Ⓣ		6.34 m ²
TOTAL		64.86 m ²

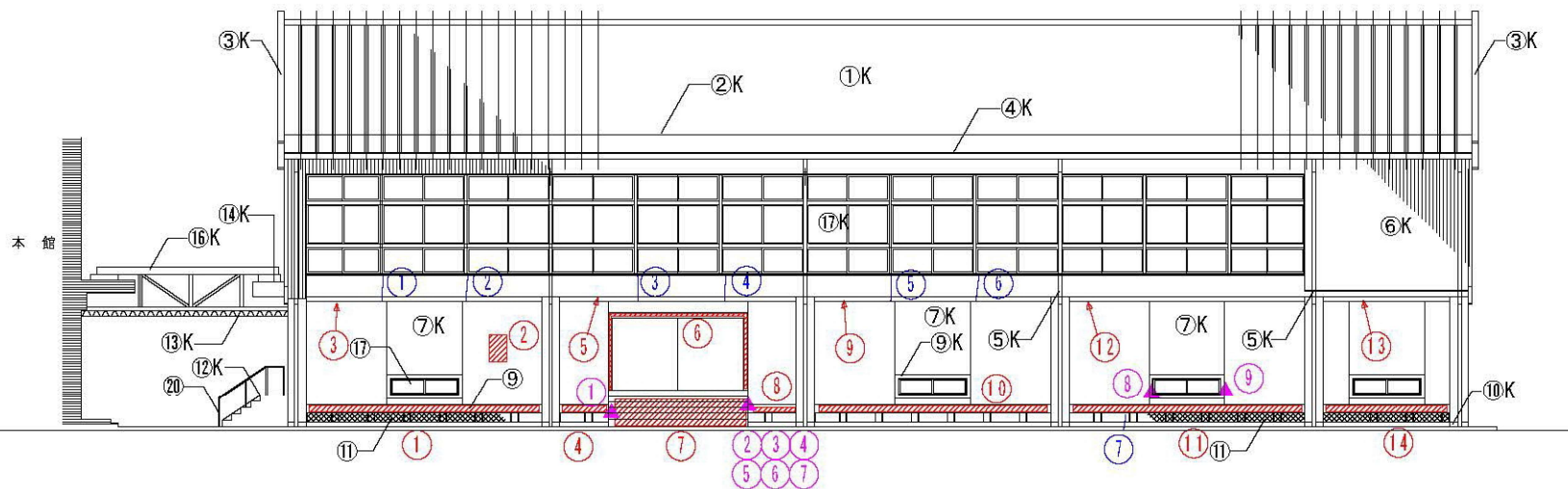


		H	L
①	手摺り先行枠組本足場 W900 (養生シート張り)	7.95 m	34.6 m
②		11.50 m	21.4 m
③		7.95 m	34.6 m
④		11.50 m	21.4 m
TOTAL			1006 m ²

仮設計画図(外部) S=1/200

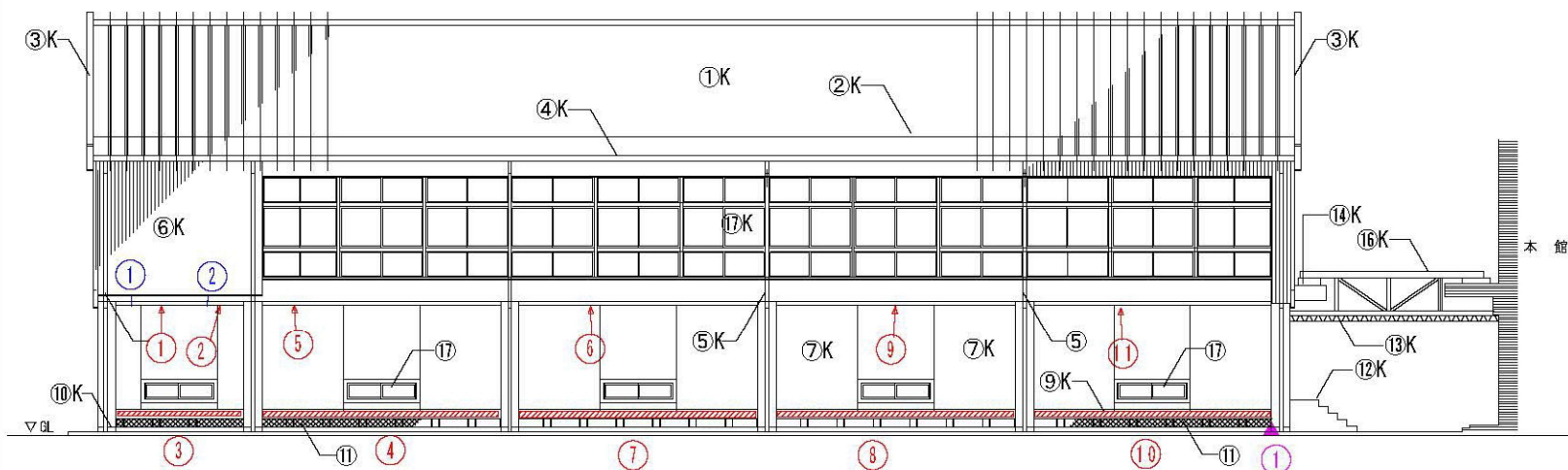


東側立面図（改修前） S=1/100

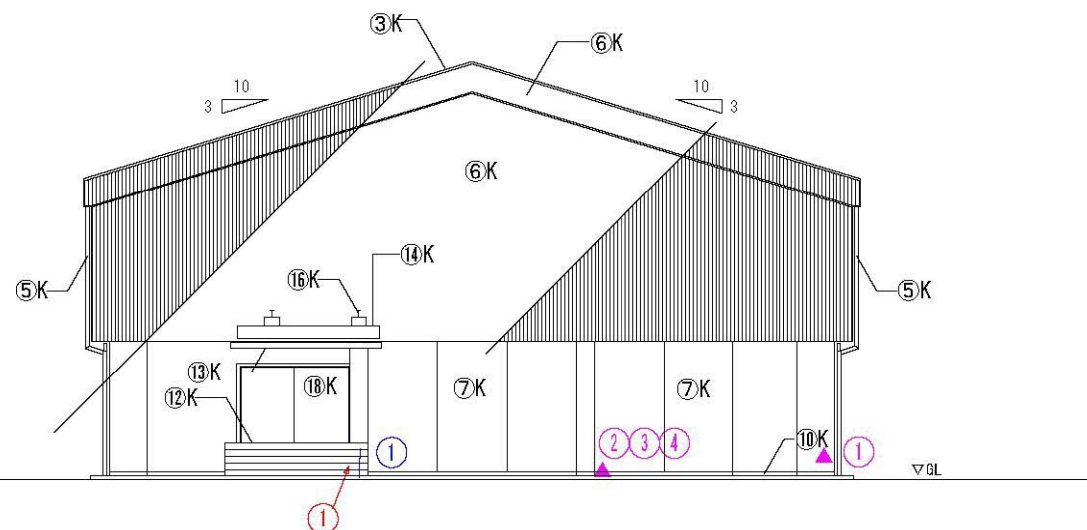


南側立面図（改修前） S=1/100

位置	名称	修繕方法
⑪	クラック（0.2mm以上～1.0mm未満）	（パテ埋め）修繕工法 自動式低圧球*キ注入工法
⑩	浮き	自動式低圧球*キ注入工法 浮き修繕工法 アクリル樹脂*モルタル修繕工法
⑨	欠損補修	欠損修繕工法 充填工法（モルタル充填）



北側立面図（改修前） S=1/100



西側立面図（改修前） S=1/100

※ 既存RC部シリング（目地、建具廻り等）はすべて打替えとする

①K	屋根）既存屋根面 高圧洗浄のうえ高弾性厚膜アクリル*ム系塗膜防水材塗装	⑥K	外壁1）既存サテ*イク*へ防水シート張りのうえ 金属サテ*イク*16重ね張り（金属胴縁共）	⑪	通気口）クランプ*金網 OP 現況のまま	⑮K	支持材）既存H鋼材 OP 下地調整のうえ DP
②K	雪止め）既存 L-65×65×5 溶融亜鉛メッキ 下地調整のうえウレタン樹脂塗装	⑦K	外壁2）既存外壁面高圧洗浄のうえ複層塗材E クラック部：自動式低圧球*キ注入工法	⑫K	階段）床：モルタル金ゴ*テ、磁器質ノズリ*タイル、路面・蹴上：モルタル金ゴ*テ 既存モルタル撤去 下地調整のうえモルタル金ゴ*テ仕上げ（ノズリ*タイル共）	⑯K	建具1）既存アルミサッシ 現況のまま ⑰K 建具1）既存アルミサッシ ガラス面へ遮熱シート張り
③K	笠木）既存撤去 アルミ笠木新設	⑧K	外壁3）既存軒裏部高圧洗浄のうえ複層塗材E クラック部：自動式低圧球*キ注入工法	⑬K	渡り廊下 屋根）既存折板葺き 下地調整のうえ DP	⑱K	建具2）既存スチールサッシ撤去・新設
④K	軒樋）既存軒樋（支持金物共）撤去 耐酸被覆鋼板t0.4 W300×H250新設 支持金物（亜鉛メッキ FB-3×32@600）共	⑨K	外壁4）既存仕上り面高圧洗浄のうえ複層塗材E	⑭K	庇）既存モルタル防水部 高圧洗浄	⑲K	建具3）既存スチール製格子 口-40×20×1.6 @200 OP 下地調整のうえ DP
⑤K	縦樋）既存塩ビ*製 φ100 UE 下地調整のうえVP 一部破損箇所は撤去・カーVP φ100新設	⑩K	巾木）クラック補修のうえモルタル金ゴ*テ補修	⑮K	軒樋）既存軒樋 現況のまま	⑳	ステンレス手摺り φ32 新設